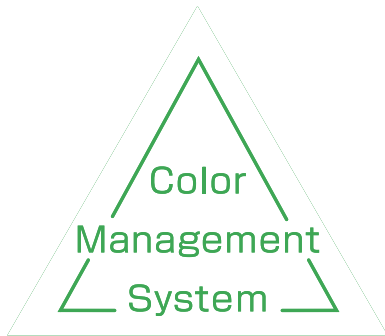


Creating profiles application software



MPM3
Mimaki Profile Master

リファレンスガイド

目次

ご注意	6
この説明書について	7
本文中の表記について	7
マークについて	7
Mimaki Profile Master3 について	8
プロファイルについて	9
MPM3 トライアル版の制限事項	9

1 章

デバイスプロファイルを作成する前に

MPM3 を起動する	12
MPM3 の操作メニュー構成	13
測色器を選択	15

2 章

デバイスプロファイルを作成する

デバイスプロファイル作成の流れ	18
デバイスプロファイルを作成する	19
デバイスプロファイル作成ウィザードの開始	19
デバイスプロファイルの目標を設定	20
デバイスプロファイルを作成する	23

3 章

デバイスプロファイルを編集する

デバイスプロファイルを編集する	38
編集対象のデバイスプロファイルを指定する	38
デバイスプロファイルを編集する	39

4 章

デバイスプロファイル の作成を中断する

デバイスプロファイルの作成を中断する	42
デバイスプロファイルの作成を再開する	43

5 章

色を合わせる

色を合わせる	46
色合わせの方法	46
色合わせ方法の切り替え	47

6 章

同一プリンタで色を合わせる (キャリブレーション)

キャリブレーション機能	50
キャリブレーション運用フロー	51
キャリブレーション基準カラーの設定	52
キャリブレーションを開始する	52
キャリブレーション基準カラーを設定する	53
キャリブレーションをかけない運用	56
キャリブレーション設定	58
キャリブレーションの運用	64

7 章

同一モデルで色を合わせる (イコライゼーション)

イコライゼーション機能	68
イコライゼーション運用フロー	69
ターゲットプリンタの決定	70
イコライゼーションの設定	71
イコライゼーションを開始する	72
イコライゼーションウィザードを開始する	73
イコライゼーションのターゲット基準カラーを設定する	73
イコライゼーションデータを追加する	77
イコライゼーションの運用	81

8 章

異なるプリンタの色合わせ (エミュレーション)

エミュレーション機能	84
エミュレーションプロファイル作成フロー	85
エミュレーションプロファイルを作成する	86
ターゲットプリンタの印刷準備	86
エミュレーションプリンタの印刷準備	86
ベースデバイスプロファイルの指定	87
エミュレーションの品質の指定	88
エミュレーションプロファイルを作成する	88
RasterLink で印刷する	96

9 章

新しい色合わせ方法

新しい色合わせ	100
各機能を行う	100

色合わせ機能	101
色合わせフロー	103
ターゲットの環境で使用している RIP が RasterLink シリーズの場合	103
ターゲットの環境で使用している RIP が RasterLink シリーズ以外の場合	104
色合わせの方法	105
ターゲット環境で使用している RIP が RasterLink シリーズの場合の色合わせ	105
ターゲット環境で使用している RIP が RasterLink シリーズの以外の場合の色合わせ	116
日々の確認	123
[日々の確認] 機能の起動	123
基準色の作成／再作成	124
色差の確認	124
再調整	125
[再調整] 機能の起動	125
再調整の手順	126

10 章

ICC プロファイルを作成する

作成できる ICC プロファイル	128
ICC プロファイル作成の流れ	129
CMYK プロファイルを作成する	130
CMYK プロファイル作成ウィザードの開始	130
CMYK プロファイルを作成する	131
RGB プロファイルを作成する	134
RGB プロファイル作成ウィザードの開始	134
RGB プロファイルを作成する	135
モニタープロファイルを作成する	137
モニターの準備	137
モニタープロファイルプロファイル作成ウィザードの開始	137
モニタープロファイルを作成する	138
モニタープロファイルを使用する	140

11 章

モニターシミュレーション

モニターシミュレーションとは	146
モニターシミュレーションに必要な環境	146
モニターシミュレーションの運用	154

12 章

チャートの印刷方法

測色チャートの印刷	160
測色チャート印刷パラメータ	160
テストプリント	161

13 章

チャートの測色方法

測色機能	164
2 回測色機能	164
測色結果の表示方法	164
i1Pro, i1Pro2, i1Pro3, i1Pro3 PLUS	167
測色器のキャリブレーション	167
チャート測色	168
1 回目の測色の完了	169
2 回目の測色の完了	170
i1iO, i1iO2, i1iO3	171
測色器のキャリブレーション	171
チャートの位置の設定	172
1 回目の測色の完了	173
2 回目の測色の完了	174
i1isis	175
測色開始	175
1 回目の測色の完了	176
2 回目の測色の完了	177
SpectroLFP	178
測色開始	178
1 回目の測色の完了	179
2 回目の測色の完了	180
MYIRO-1	181
測色器のキャリブレーション	181
チャート測色	182

14 章

インクカーブ編集

インクカーブを編集する	184
-------------------	-----

15 章

デバイスプロファイルをコピーする

デバイスプロファイルのコピー	186
コピー元のデバイスプロファイルの指定	186
デバイスプロファイルの編集	187

16 章

デバイスプロファイルをインストールする

デバイスプロファイルのインストール	190
-------------------------	-----

17 章

メディアの管理

メディアの追加	192
メディアの削除	193

18 章

測色器の設定

測色器の設定	196
--------------	-----

19 章

オプション (諸設定)

オプション (諸設定) の設定	200
-------------------------	-----

20 章

ユーザー情報

ユーザ情報の設定	202
----------------	-----

21 章

データのバックアップとリストア

データのバックアップと復元	204
データのバックアップ	204
データの復元	205

22 章

エラーメッセージ

エラーメッセージ	208
----------------	-----

23 章

測色器を接続する

X-Rite 社の測色器を接続する	212
測色器のドライバを確認する	212
デバイスドライバーをインストールする	214
SpectroLFP を接続する	215
SpectroLFP 付属の USB メモリーを装着する	215
USB ドライバーをインストールする	215

MYIRO-1 を接続する	219
---------------------	-----

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複写することは固くお断りいたします。
- 本書の内容に関しまして、将来予告無しに変更することがあります。
- 本ソフトウェアの改良変更等により、仕様面において本書の記載事項とが一部異なる場合があります。ご了承ください。
- 本書に記載している株式会社ミマキエンジニアリング製ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してのメディア（ワーク）等の損失、メディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

Adobe、Adobe ロゴ、Photoshop、Illustrator および PostScript は、Adobe Inc. の商標です。
Apple、Macintosh、Power Macintosh、Mac OS、Mac OSX は、Apple Inc. の登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows 10、Windows 11 は、Microsoft Corporation の米国ならびにその他の国での登録商標または商標です。
その他、本書に記載されている会社名、および商品名は、各社の商標または登録商標です。

この説明書について

本書は“Mimaki Profile Master3”の機能について説明します。

本文中の表記について

メニューに表示される項目は、[フルカラー]のように□で囲っています。
ダイアログに表示されているボタンは、のように□で囲っています。

マークについて



操作を行う上で、注意する点を説明しています。



知っていると便利な使い方について説明しています。

Mimaki Profile Master3 について

本ソフトウェアでできることは以下の通りです

- **デバイスプロファイルの作成**

RasterLink シリーズのデバイスプロファイル V3.5 以降のを作成できます。
デバイスプロファイル V3.5 をサポートしている RasterLink は次のものです。
RasterLink6 version4.11 以降

- **デバイスプロファイルの編集**

デバイスプロファイルの編集ができます。デバイスプロファイルを最初から再作成しなくても、編集だけで済む場合があります。V3.5 以降のデバイスプロファイルが可能です。
→ 「3 章 デバイスプロファイルを編集する」(P. 37) 参照

- **プリンタ単体の色合わせができます**

プリンタはヘッド交換等で色が変わることがあります。本ソフトウェアでデバイスプロファイルを管理することにより、プリンタの色変化を軽減することができます。
→ 「6 章 同一プリンタで色を合わせる (キャリブレーション)」(P. 49) 参照

- **同じモデル、同じインクの色合わせができます**

同じモデル、同じインクでもプリンタ個体の差異により、色の違いが出ることがあります。本ソフトウェアでデバイスプロファイルを管理することにより、プリンタ個体の色差を軽減することができます。
→ 「7 章 同一モデルで色を合わせる (イコライゼーション)」(P. 67) 参照

- **異なるプリンタ、異なるインクの色合わせができます**

異なるプリンタ、異なるインクに近い色を出すことができます。
→ 「8 章 異なるプリンタの色合わせ (エミュレーション)」(P. 83) 参照

- **RasterLink シリーズへのプロファイル登録**

本ソフトウェアから RasterLink シリーズにプロファイル登録できます。

- **ウィザード**

カラープロファイルを作成する手順はプリンタの印刷が必要だったり、測色器での読取が必要であったりと複雑です。
本ソフトウェアはウィザード形式になっており、表示される手順に従うだけで、迷うことなくカラープロファイルを作成できます。

プロファイルについて

● デバイスプロファイル

RasterLink シリーズで使用する出力するプロファイルをデバイスプロファイルと呼びます。ファイルの拡張子が icc になります。

ICC 準拠のフォーマットですが、Mimaki 独自の情報が追加されています。

デバイスプロファイルを RasterLink シリーズにインストールすることで、RasterLink シリーズはデバイスプロファイルに対応した印刷ができます。

● CMYK プロファイル

RasterLink シリーズで使用する CMYK の入力プロファイル (入力データのカラー) になります。

● RGB プロファイル

RasterLink シリーズで使用する RGB の入力プロファイル (入力データのカラー) になります。

● モニタープロファイル

モニターのカラーを表すプロファイルになります。

MPM3 トライアル版の制限事項

MPM3 トライアル版を使用する場合、以下の制限があります。

- 使用期間は 60 日です。
- メディア登録ができません。
- ICC プロファイル (CMYK/RGB/ モニタープロファイル) が作成できません。
- エミュレーション機能を使用できません。

1 章

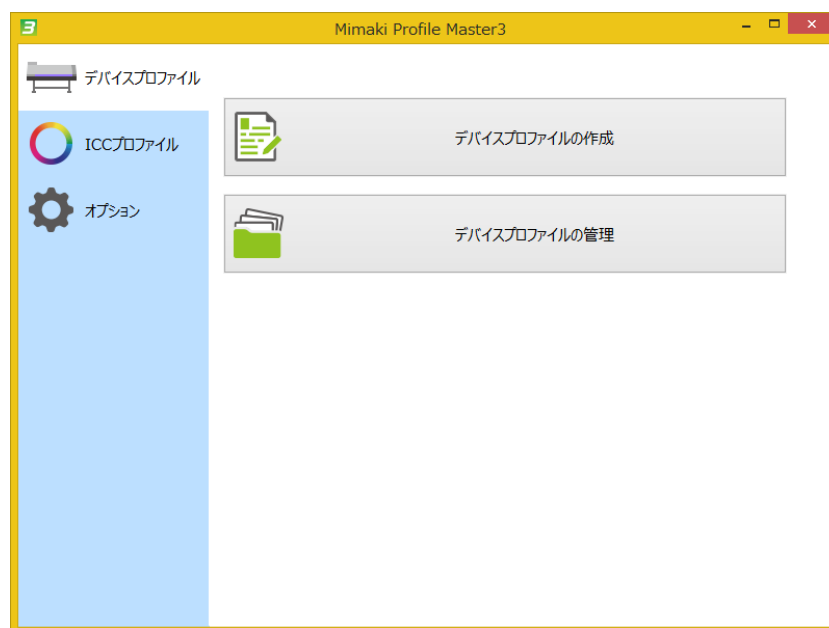
デバイスプロファイルを 作成する前に

MPM3 を起動する

1 アプリケーションアイコンをクリックする



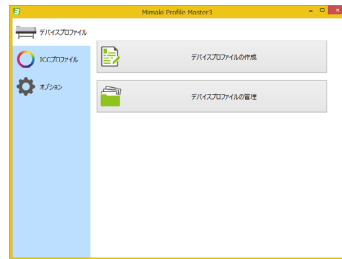
- MPM3 が起動し、次の操作メニューが表示されます。



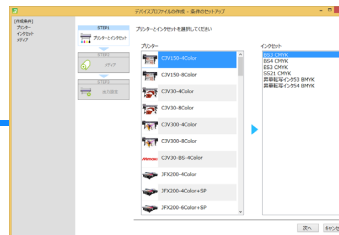
MPM3 の操作メニュー構成

MPM3 の操作メニュー構成は以下の通りです。

[デバイスプロファイル]

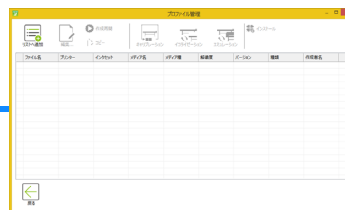


デバイスプロファイルの作成

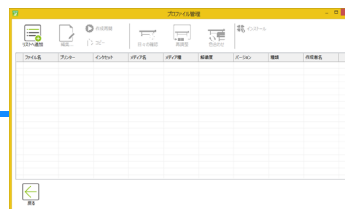


プロフィール作成ウィザード

デバイスプロファイルの管理

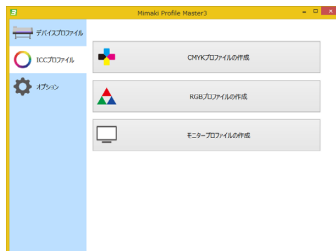


プロフィール編集
作成再開
キャリブレーション
イコライゼーション
エミュレーション
コピー
インストール

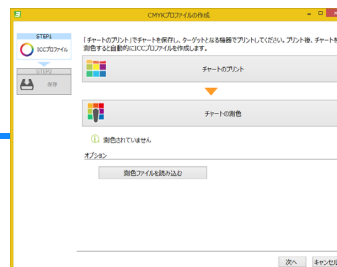


プロフィール編集
作成再開
日々の管理
再調整
色合わせ
コピー
インストール

[ICC プロファイル]

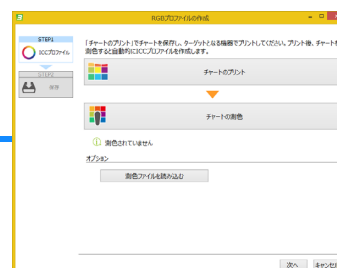


CMYK プロファイルの作成



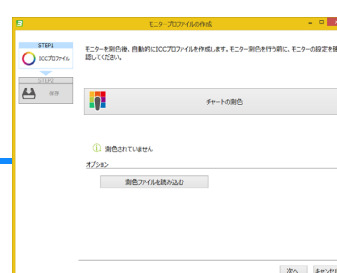
CMYK プロファイル作成ウィザード

RGB プロファイルの作成



RGB プロファイル作成ウィザード

モニタープロファイルの作成

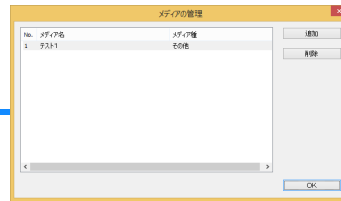


モニタープロファイル作成ウィザード

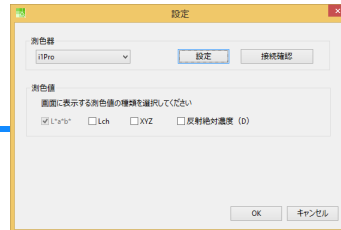
【オプション】



メディアの管理



測色器設定



オプション (その他設定)



ユーザー情報



測色器を選択

測色器の選択をします。ここでの設定は保存されるため、選択した測色器を変更しない限り、設定は不要です。

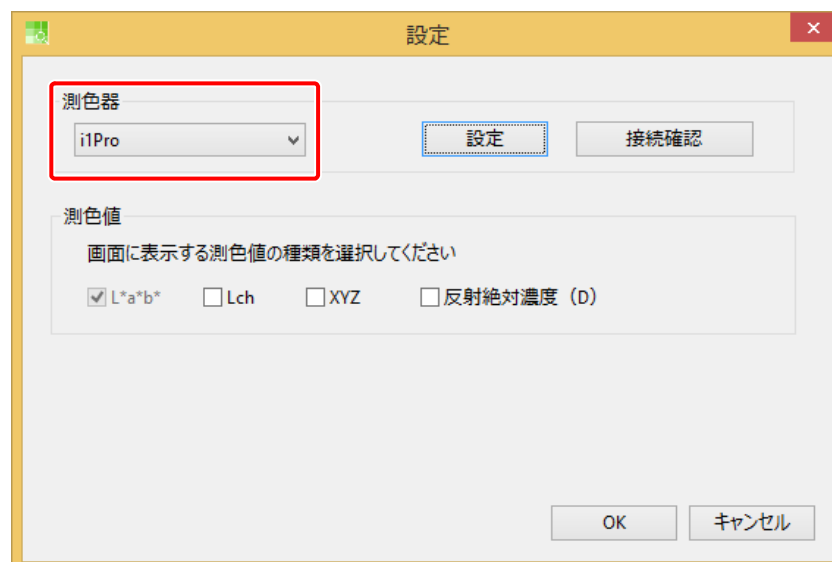
1 [測色器] をクリックする

- 測色器設定画面がオープンします。



2 測色器を選択する

- 詳細は「18 章 測色器の設定」(P. 195) を参照してください。



2 章

デバイスプロファイルを作成する

デバイスプロファイル作成の流れ

デバイスプロファイルは以下の手順で作成します。

デバイスプロファイルウィザードを開始する

「デバイスプロファイル作成ウィザードの開始」(P. 19) を参照してください。



デバイスプロファイルの目標を設定する

「デバイスプロファイルの目標を設定」(P. 20) 以降を参照してください。

ステップ1 : プリンタとインクセットを選択する

ステップ2 : メディアを選択する

ステップ3 : 印刷条件を選択する



デバイスプロファイルを作成する

「デバイスプロファイルを作成する」(P. 23) 以降を参照してください。

ステップ1 : プリンタ固有情報の設定

ステップ2 : バリアブルドットの設定

ステップ3 : 単色 / 2 色掛け合わせのインクリミットの設定

ステップ4 : ライトインクの設定

ステップ5 : リニアライゼーションの設定

ステップ6 : 3 色以上の掛け合わせのインクリミットの設定

ステップ7 : グレーバランスの設定

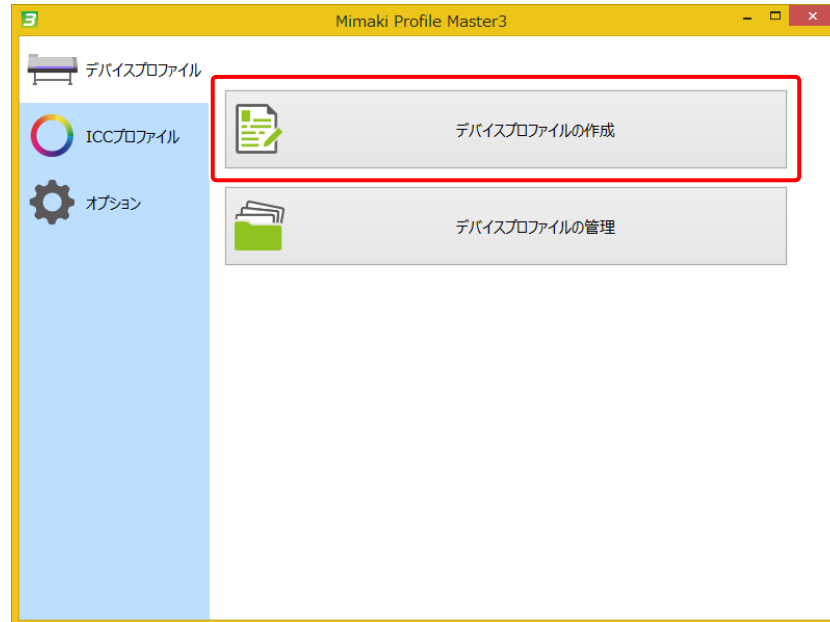
ステップ8 : ICC プロファイルの作成

ステップ9 : ICC プロファイルを保存

デバイスプロファイルを作成する

デバイスプロファイル作成ウィザードの開始

1 デバイスプロファイル作成ウィザードを開始する



デバイスプロファイルの目標を設定

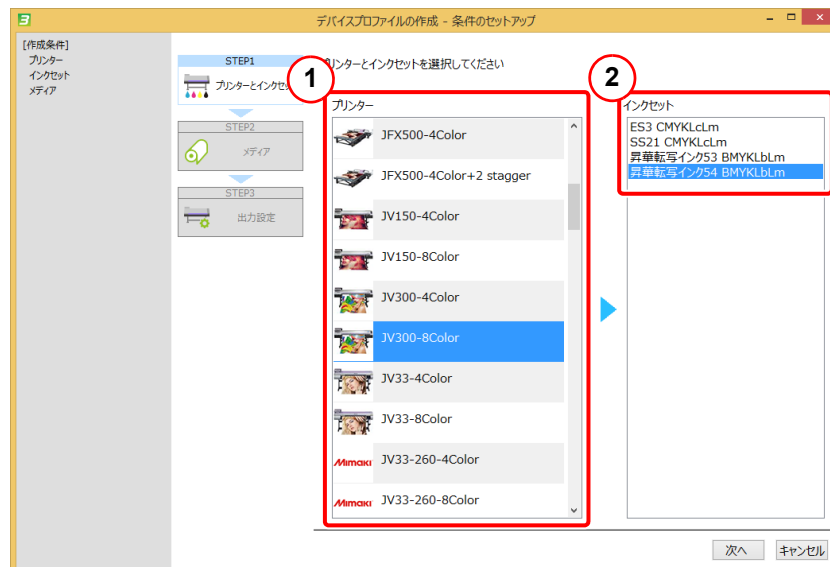
ステップ1：プリンタとインクセットを選択する

1

プリンター一覧からプリンタを選択する

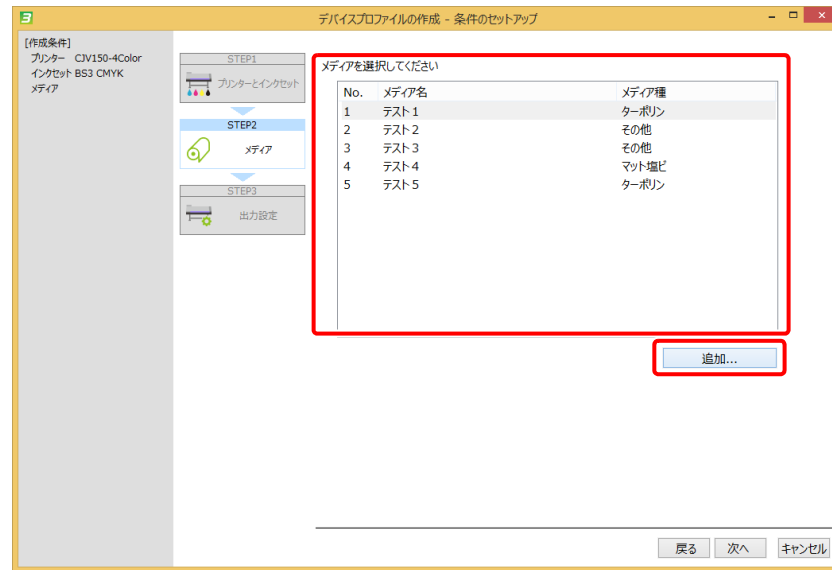
2

プリンタにセットしたインクセットを選択する



ステップ2：メディアを選択する

1 メディア一覧から今回使用するメディアを選択する

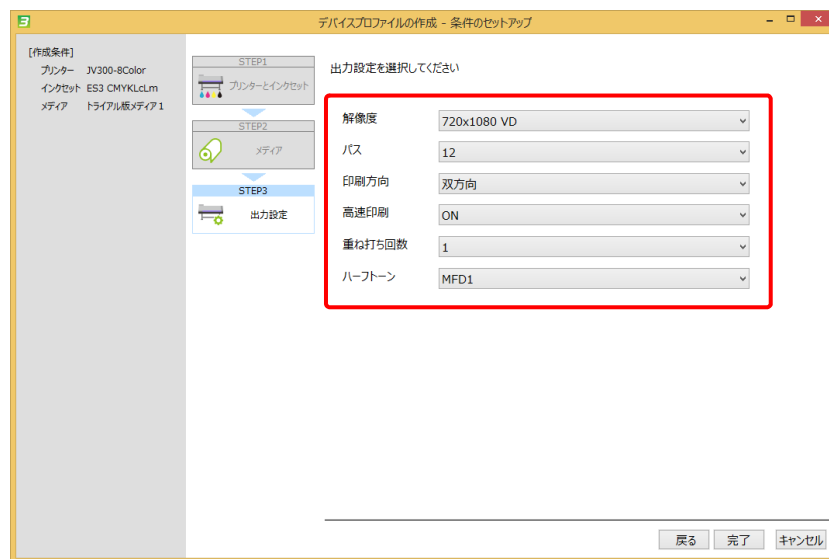


- ・ [追加] ボタンをクリックすると、メディアを追加できます。

メディア名を入力し、ドロップダウンリストからメディア種を選択します。

ステップ3：印刷条件を選択する

印刷に関わる諸条件を選択します。



印刷解像度	スキャン方向解像度 × フィード方向解像度 VD/ND (VD: バリアブルドット印刷 / ND: ノーマルドット印刷)
パス数	1 スキャンラインを完成するのに必要なスキャン回数
印刷方向	往路だけで印刷または、往復で印刷
高速	高速でスキャンするまたは、標準速でスキャンする
重ね打ち回数	同じ画像を複数回重ね印刷する。(照明メディアで使用)
ハーフトーン	ハーフトーン処理方法 (LL 拡散：拡散ディザ、MFD1：誤差拡散)

デバイスプロファイルを作成する

ステップ1：プリンタ固有情報の設定

プリンタが固有に持つ機能で、印刷品質に影響のあるパラメータを設定します。機能、パラメータはプリンタモデルごとに異なります。プリンタで設定している値を指定してください。ここで設定されたパラメータはデバイスプロファイルに登録され、RasterLink で印刷するときに設定する必要はありません。

1 プリンタが固有に持つパラメータを設定する

1	プリンタ固有情報	プリンタが固有に持つパラメータを設定します。
2	インポート	指定したデバイスプロファイルから設定値を読み込みます。

ステップ2：バリアブルドットの設定

バリアブルドットを使用して印刷する場合に、表示されます。
バリアブルドットの大液滴、中液滴、小液滴の混ぜ合わせ比率を設定します。

1 プリセット一覧から、プリセットを選択する

- バリアブルドットの混ぜ合わせ比率を編集することはできません。



- ・[インポート]をクリックして、指定したデバイスプロファイルから設定値を読み込むことができます。

ステップ3：単色/2色掛け合わせのインクリミットの設定

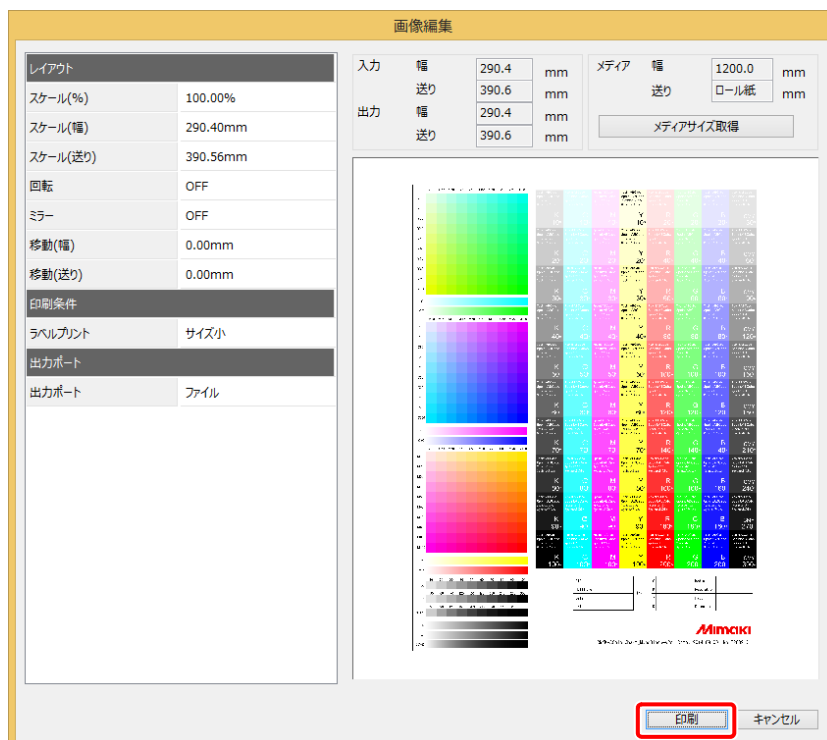
チャート印刷し、滲み具合を目視にて確認し、インク量を設定します。
カラー単色及び2色掛け合わせした場合のインクリミットを設定します。
ライトインクがある場合、ライトインクとダークインクを組み合わせたものをカラー単色として扱います。

1 [チャートのプリント]をクリックする



2 「印刷」をクリックする

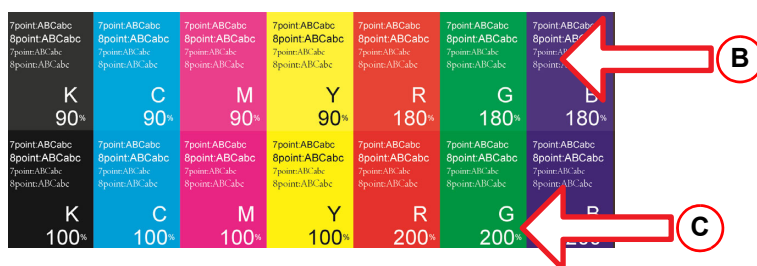
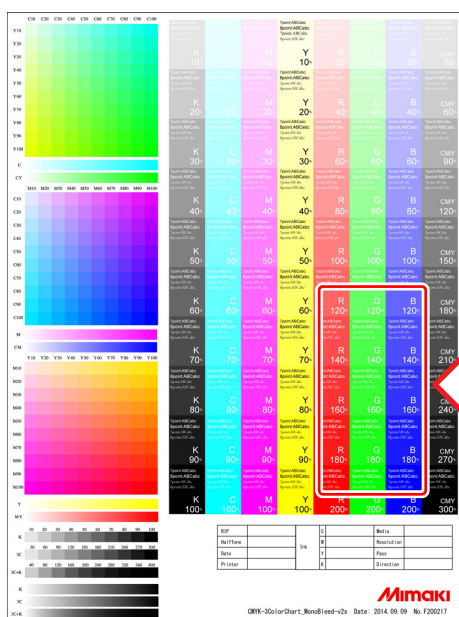
- ・インクリミットのかかっていないチャートを印刷します。
- ・チャートの印刷パラメータ詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159) を参照してください。



3 インクリミットを設定する

- ・主に 2 次色パッチで、次の点に着目してインクリミットを設定します。

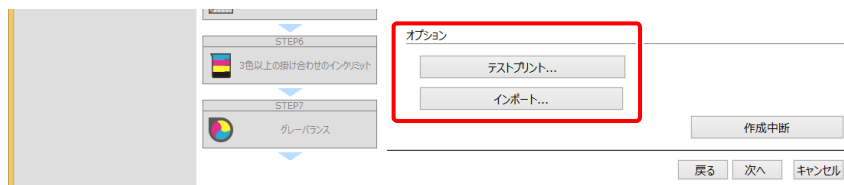
- A : 色の変化がなくなったか
- B : 文字がつぶれていないか
- C : 色と色の境界で滲んでいないか





- 2 次色パッチから 1 次色インクリミットを決定するときは、下記の様にしてください。
- 例として、2 次色パッチを R=140%/ G=120%/ B=100% と決めた場合に 1 次色インクリミットの決定方法を説明します。
 - 2 次色の R/ G/ B から、1 次色 (r/ g/ b) インクリミットを計算する
 $r = R (140\%) / 2 = 70\%$, $g = G (120\%) / 2 = 60\%$, $b = B (100\%) / 2 = 50\%$
 - C/ M/ Y/ K の値を計算する
 - K は決めたままの値を入力してください。
 $C = (g (60\%) + b (50\%)) / 2 = 55\%$, $M = (r (70\%) + b (50\%)) / 2 = 60\%$,
 $Y = (r (70\%) + g (60\%)) / 2 = 65\%$

4 オプションの設定をする



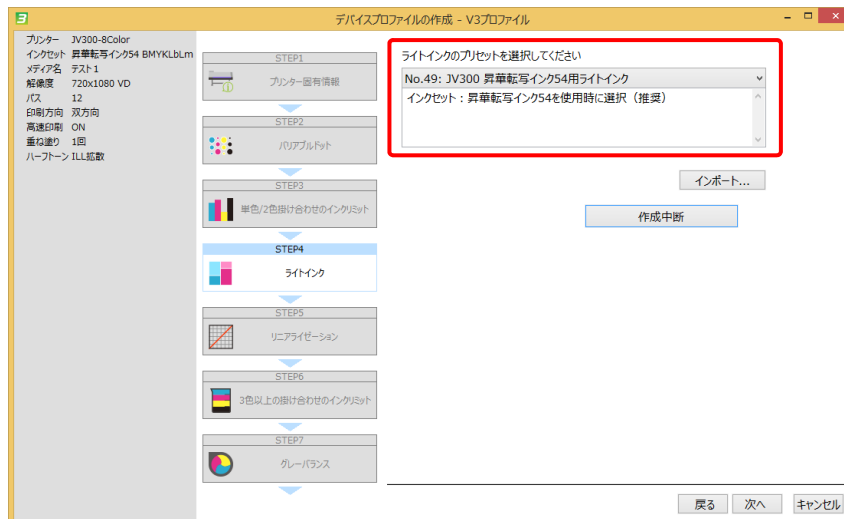
- テストプリント** ファイルを選択して印刷できます。(ここでの設定値が反映されます。)
 詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159)を参照してください。
- インポート** 指定したデバイスプロファイルから設定値を読み込むことができます。

ステップ4：ライトインクの設定

バリアブルドットを使用して印刷する場合に、表示されます。
 ライトインクとダークインクの混ぜ合わせ比率を設定します。

1 プリセット一覧から、プリセットを選択する

- ライトインクとダークインクの混ぜ合わせ比率を編集することはできません。

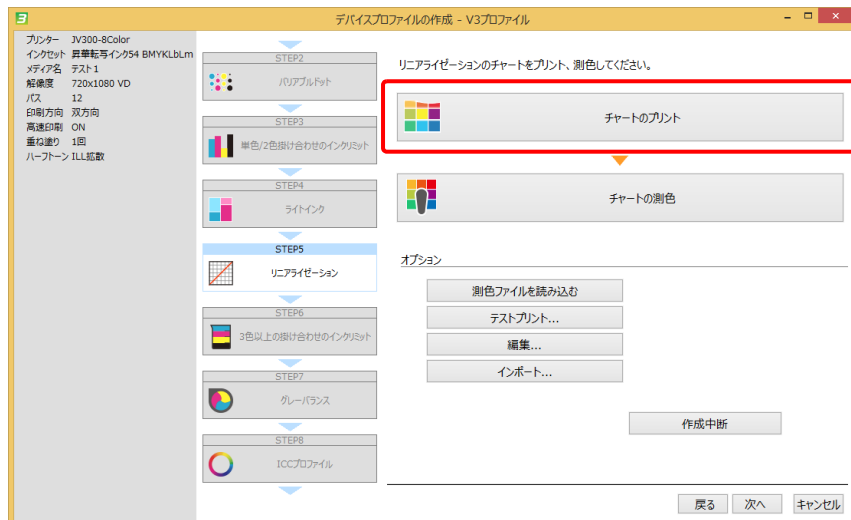


- [インポート] をクリックして、指定したデバイスプロファイルから設定値を読み込むことができます。

ステップ5：リニアライゼーションの設定

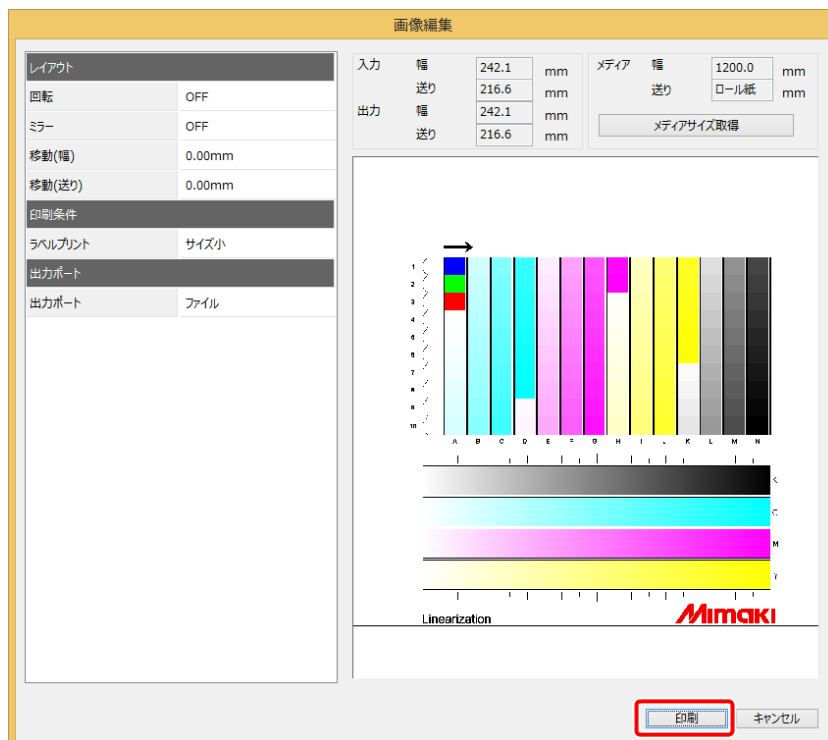
カラー単色の 0% から 100% までの濃度が同じ比率で上がるように階調を設定します。
 ライトインクがある場合、ダークインクとライトインクを組み合わせたものをカラー単色として扱います。
 チャートを印刷し、測色することで、自動設定します。

1 【チャートのプリント】をクリックする



2 【印刷】をクリックする

- リニアライゼーションの測色チャートを印刷します。
- チャートの印刷パラメータ詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159) を参照してください。



測色器 i1Pro 選択時の印刷画面

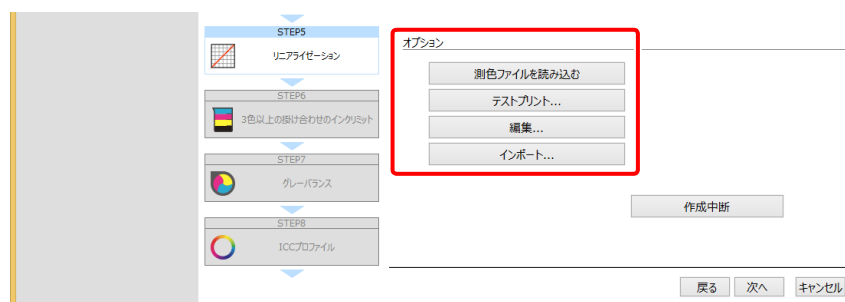
3 チャートを測色する

- 表示に従いチャートを測色します。
- 測色方法は、「13 章 チャートの測色方法」(P. 163) を参照してください。



測色器 i1Pro 選択時の印刷画面

4 オプションの設定をする



**測色ファイルを読み込む
編集**

保存してある測色値を読み込むことができます。
リニアライゼーションの濃度カーブ調整ができます。
インカーブの編集方法は、「14 章 インカーブ編集」(P. 183) を参照してください。

テストプリント

ファイルを選択して印刷できます。

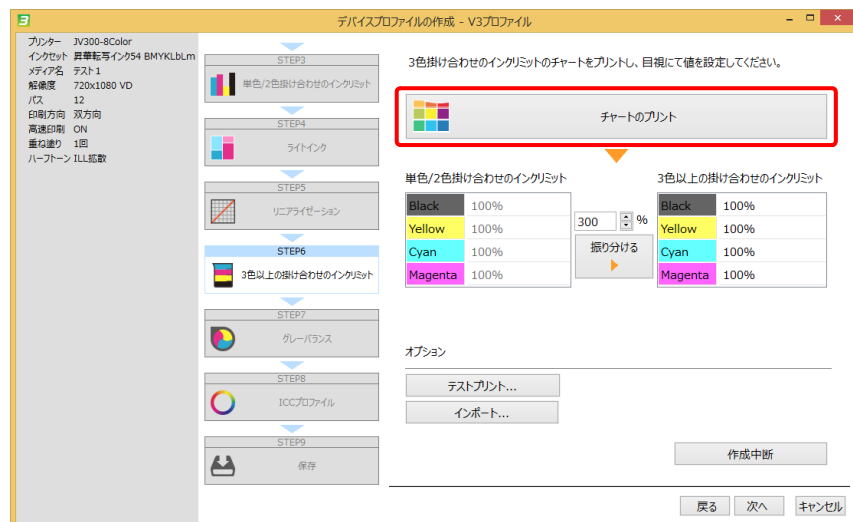
インポート

詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159) を参照してください。
指定したデバイスプロファイルから設定値を読み込むことができます。

ステップ6：3色以上の掛け合わせのインクリミットの設定

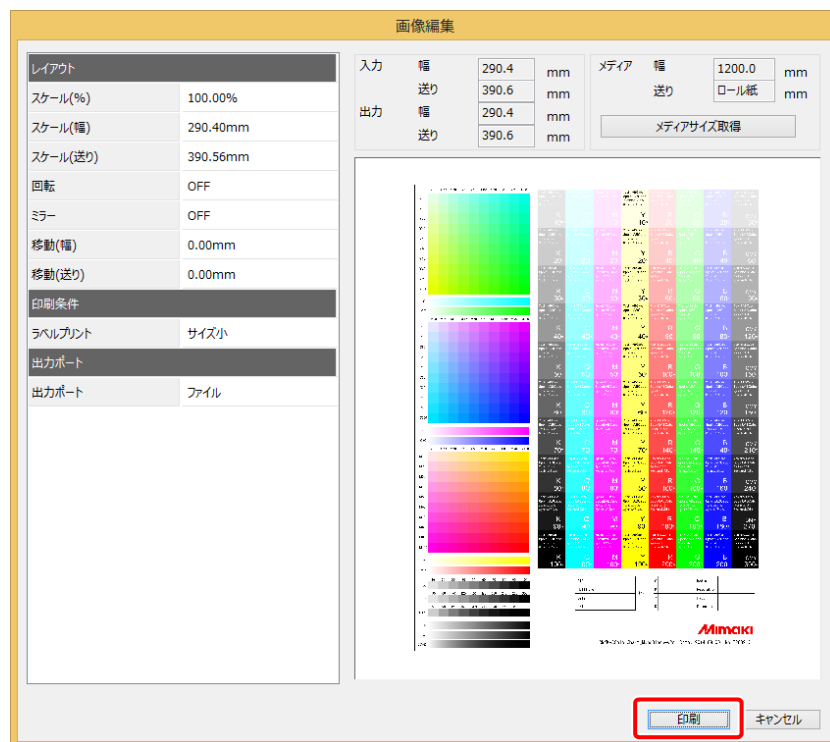
チャート印刷し、滲み具合を目視にて確認し、インク量を設定します。
ここで設定するインクリミットは3色掛け合わせのときだけかかるインクリミットです。
カラー単色、2色掛け合わせのインクリミットには影響しません。

1 【チャートのプリント】をクリックする



2 【印刷】をクリックする

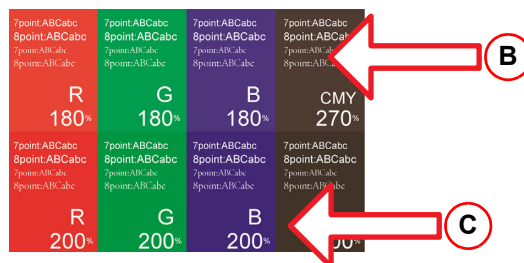
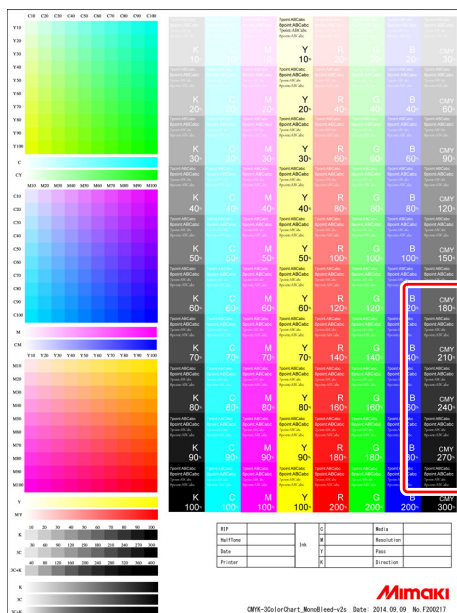
- ・インクリミットチャートを印刷します。
- ・チャートには STEP3 単色 / 2色掛け合わせの時のインクリミットが反映されています。
- ・チャートの印刷パラメータ詳細は、「12章 チャートの印刷方法」(P. 159)を参照してください。



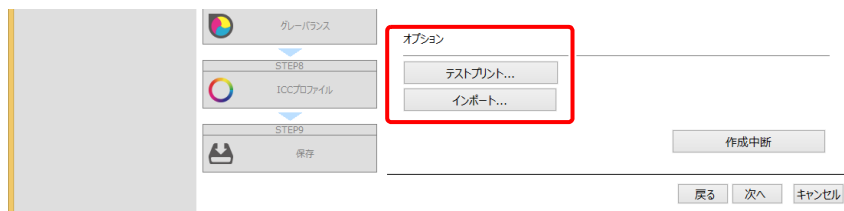
3 インクリミットを設定する

- 総インク量を決めて、[適用] をクリックします。主に 3 次色パッチで、次の点に着目してインクリミットを設定します。

- A : 色の変化がなくなったか
- B : 文字がつぶれていないか
- C : 色と色の境界で滲んでいないか



4 オプションの設定をする

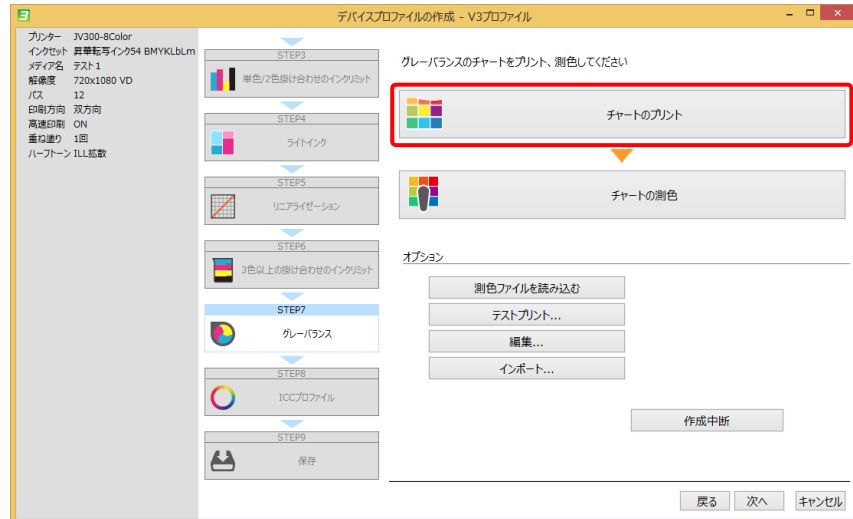


- テストプリント ファイルを選択して印刷できます。(ここでの設定値が反映されます。)
詳細は、「12章 チャートの印刷方法」(P. 159)を参照してください。
- インポート 指定したデバイスプロファイルから設定値を読み込むことができます。

ステップ7：グレーバランスの設定

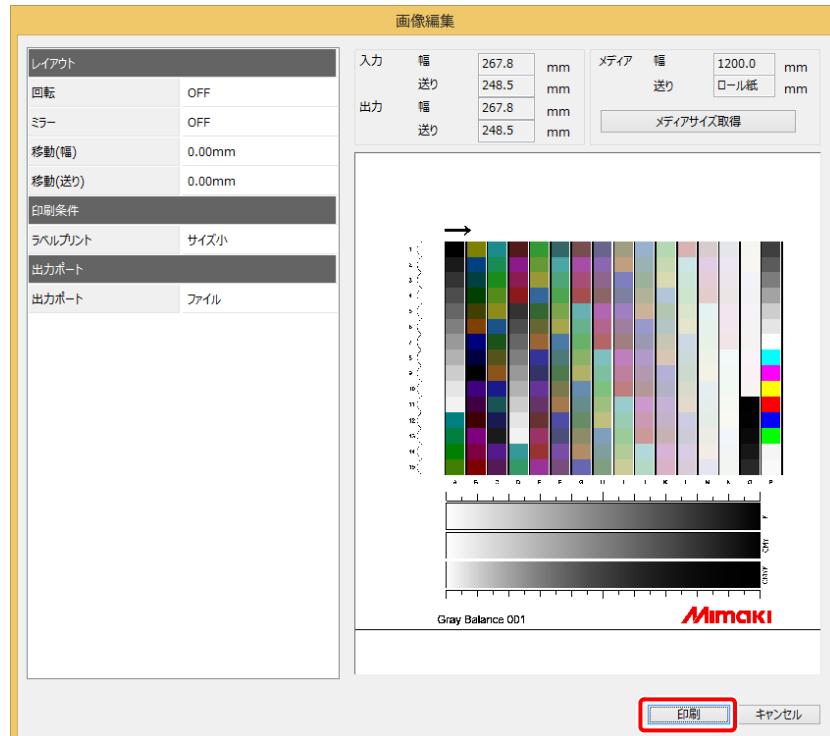
本ステップは昇華転写インクの時のみ表示されます。
CMY を等量指定した時、グレーになるようカラーバランスを調整します。
チャートを印刷し、測色することで、自動設定します。

1 【チャートのプリント】をクリックする



2 【印刷】をクリックする

- ・グレーバランスの測色チャートを印刷します。
- ・チャートの印刷パラメータ詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159) を参照してください。



測色器 i1Pro 選択時の印刷画面

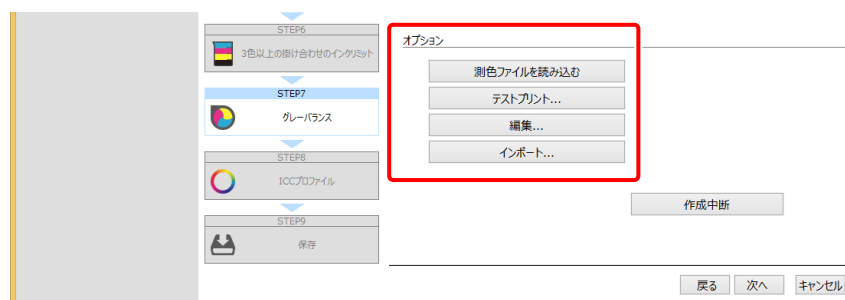
3 チャートを測色する

- 表示に従いチャートを測色します。
- 測色方法は、「13 章 チャートの測色方法」(P. 163) を参照してください。



測色器 i1Pro 選択時の印刷画面

4 オプションの設定をする



**測色ファイルを読み込む
編集**

保存してある測色値を読み込むことができます。
グレイバランスの濃度カーブ調整ができます。
インカーブの編集方法は、「14 章 インカーブ編集」(P. 183) を参照してください。

テストプリント

ファイルを選択して印刷できます。
詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159) を参照してください。

インポート

指定したデバイスプロファイルから設定値を読み込むことができます。

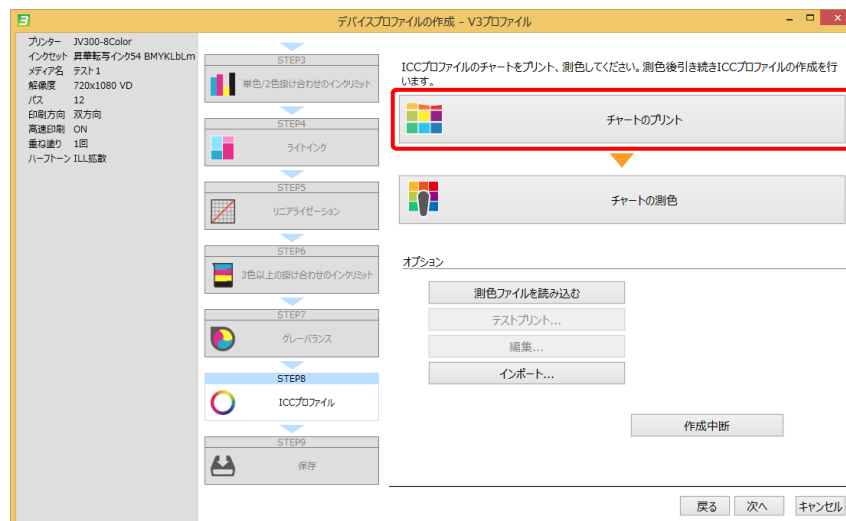
ステップ8：ICC プロファイルの作成

ICC プロファイルを作成します。

チャートを印刷し測色することで、自動作成します。

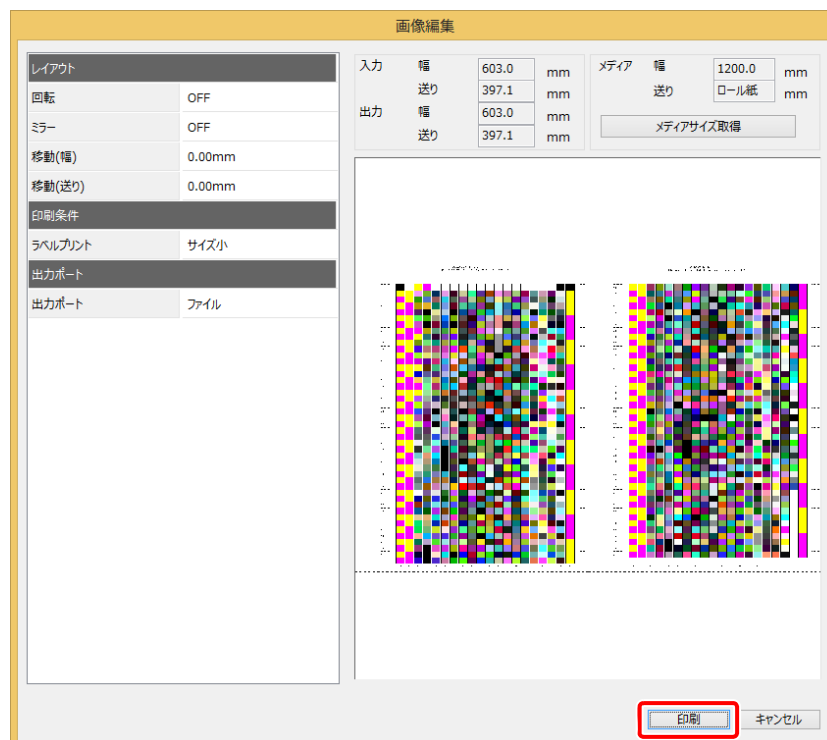
最後に、生成された ICC プロファイルについて、カラーと K の置き換え調整（墨版生成パラメータの調整）をします。

1 【チャートのプリント】をクリックする



2 【印刷】をクリックする

- ICC プロファイル作成チャートを印刷します。
- チャートの印刷パラメータ詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」（P. 159）を参照してください。



測色器 i1Pro 選択時の印刷画面

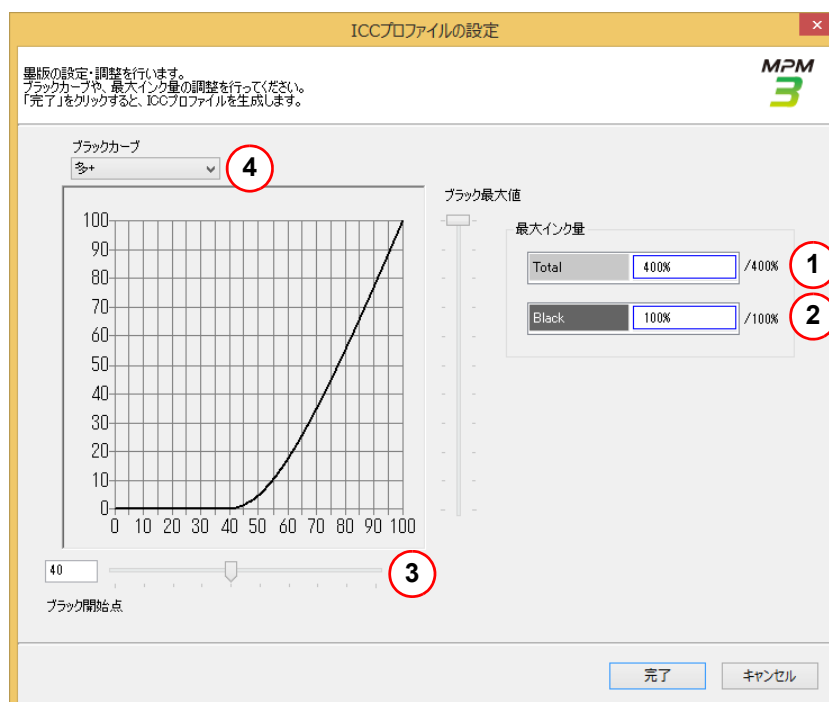
3 チャートを測色する

- ・表示に従いチャートを測色します。
- ・測色方法は、「13 章 チャートの測色方法」(P. 163) を参照してください。



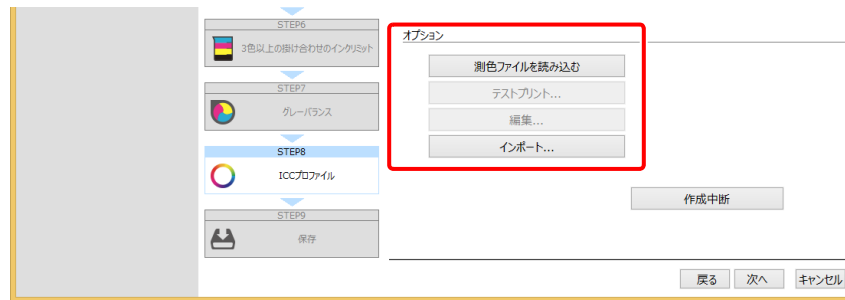
測色器 i1Pro 選択時の印刷画面

4 墨版のパラメータを決める



1	最大インク量 (Total)	最暗部で CMYK 合わせた総インク量を変更できます。
2	最大インク量 (Black)	Black インクの最大インク量を変更できます。
3	ブラック開始点	Black インクを使用し始めるポイントを変更できます。 40~60 に設定すると、ハイライト部で Black ドットの粒状感が目立なくなります。
4	ブラックカーブ	Black インクのカーブ形状を変更できます。 多くするほどシャドウ部に Black インクを多く使用ようになります。

5 オプションの設定をする



測色ファイルを読み込む 編集

保存してある測色値を読み込むことができます。
クリックすると「ICC プロファイルの編集」ダイアログが表示されます。
「Yellow の濁り軽減」と「ICC プロファイルの設定」を行ってください。

ICC プロファイルの設定

ICC プロファイルの墨版生成パラメータを変更できます。

Yellow の濁り軽減

Yellow 単色に載った Cyan インクを除去します。Yellow の色相を一定にして、諧調性・変化の連続性を保ちます。

本設定は「ICC プロファイルの設定」の後、実行してください。



テストプリント

ファイルを選択して印刷できます。

インポート

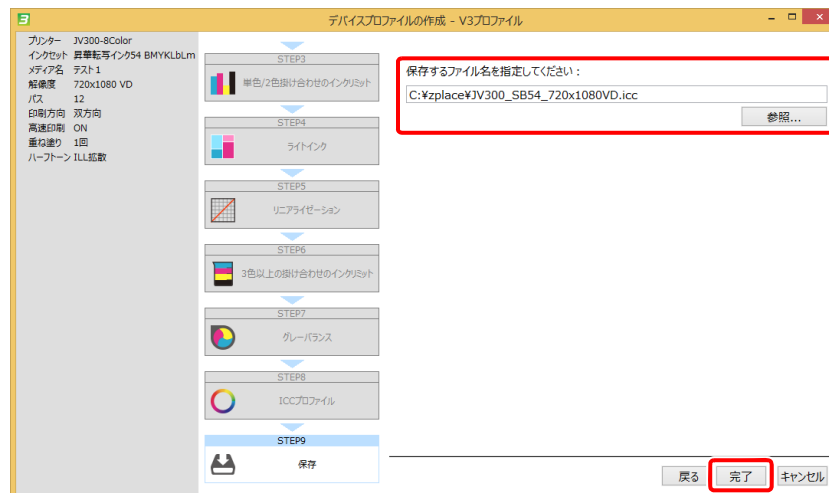
詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159) を参照してください。
指定したデバイスプロファイルから設定値を読み込むことができます。

ステップ9：ICC プロファイルを保存

1 ファイル名を指定する

2 [完了] をクリックする

- ・デバイスプロファイルが作成されました。



重要!

- ・ RasterLink では、プリンタ、インクセット、解像度、メディア名でプロファイルを区別しています。このため保存するプロファイルを別名にしても、RasterLink に同じ条件のプロファイルがインストールされている場合には、上書きインストールとなります。
- ・ 同じ条件のプロファイルを同時に複数の RasterLink にインストールした場合、どのプロファイルが結果として残るかは保障されません。

3 章

デバイスプロファイルを 編集する

作成済のデバイスプロファイルを編集できます。

Mimaki Profile Master3

デバイスプロフィール

ICCプロフィール

オプション

デバイスプロフィールの作成

デバイスプロフィールの管理

[illegible]

デバイスプロファイルを編集する

デバイスプロファイルの編集では以下の編集が可能です。

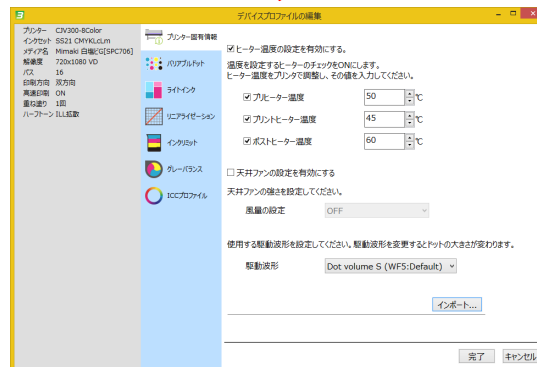
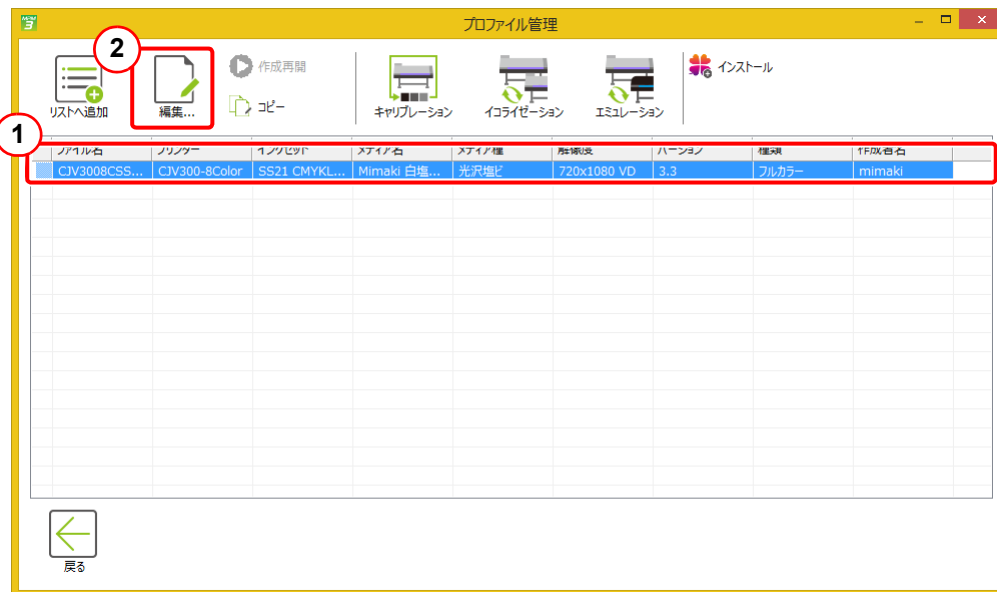
- バリアブルドット
- ライトインク
- リニアライゼーション
- インクリミット
- グレーバランス
- ICC プロファイル (Y 混色軽減と墨版編集)

1 デバイスプロファイルの編集を開始する

(1) 編集するデバイスプロファイルを選択する

(2) [編集...] をクリックする

- 編集画面が開きます。
- 詳細は「2章 デバイスプロファイルを作成する」(P. 17) を参照してください。



4 章

デバイスプロファイルの 作成を中断する

デバイスプロファイルの作成を中断する

デバイスプロファイル作成途中で、作業を中断し、後から再開できます。
作成作業の中断は、プロファイル作成ウィザードの中で [作成中断] ボタンのある操作ステップで可能です。

例として、ステップ8「ICC プロファイル作成」の操作で、作業を中断します

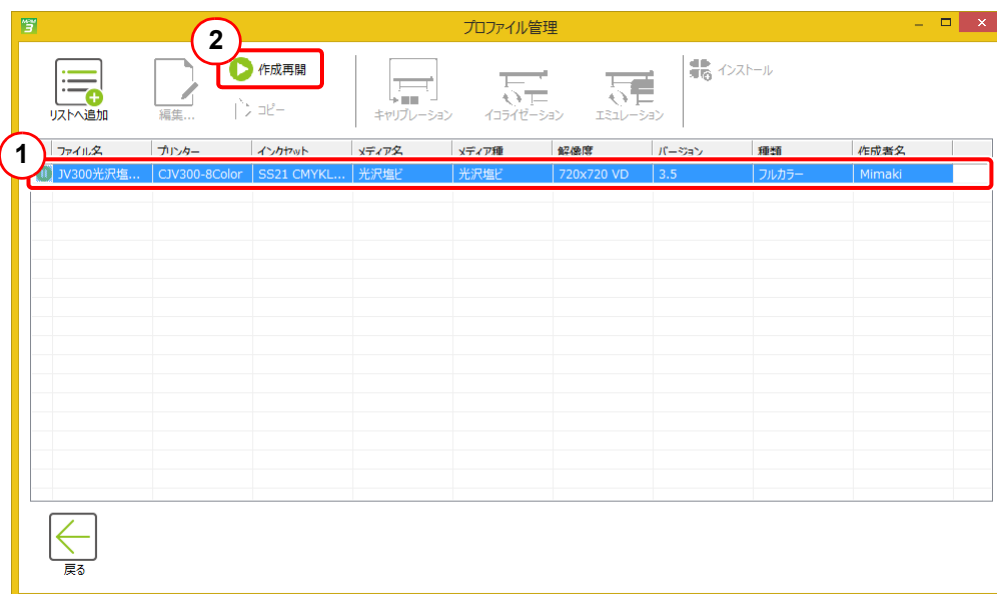
1 「作成中断」をクリックする

- ポップアップしたダイアログで、作業途中のデータを作業データファイルとして保存します



3 作成作業を再開する

- (1) 作業データファイルを選択する
- (2) [作成再開] をクリックする
 - ・ 作業中断した時の操作ステップが開きます。



5 章 色を合わせる

色を合わせる

プリンタの色を以下のような環境に合わせたい場合があります。

- 過去の色に合わせたい。
インクジェットヘッドの交換や、ノズルの経時変化、環境の変化で色が変わってしまったものを元の色にしたい。
- 同一モデルの別個体に色を合わせたい
同一モデルのプリンタを複数使用しているが、プリンタの個体差があり色が同じにならない。
- 目標のプリンタに色を合わせたい
目標のプリンタがあり、それに色を合わせたい

色合わせの方法

MPM3 には 2 通りの色合わせ方法があります。

クラシック

色を合わせる対象別に機能を実行します。

- キャリブレーション (→ 6 章) 過去の色に合わせる機能です。
- イコライゼーション (→ 7 章) 同一モデルの他のプリンタに合わせる機能です。
- エミュレーション (→ 8 章) 目標のプリンタに色を合わせる機能です。

スタンダード

運用別に機能を実行します (→ 9 章)

- 日々の確認 プリンタの経時変化を確認します。
- 再調整 色合わせもしくは基準色設定後、再度色を合わせる場合に実行します。
- 色合わせ ターゲットとなる環境に色を合わせます。ターゲットの種類は問いません。

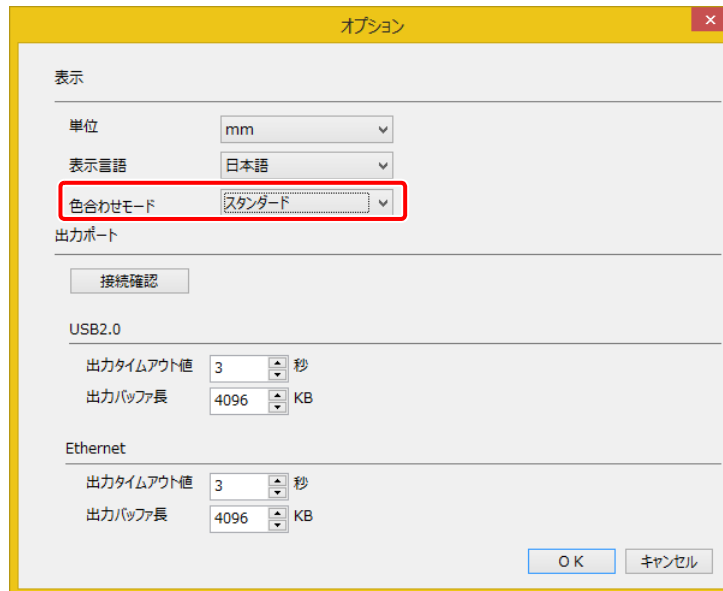
色合わせ方法の切り替え

[色合わせモード] を切り替えます。

1 メイン画面より [オプション] - [オプション] を選択する

2 [オプション] 画面の [色合わせモード] を切り替える

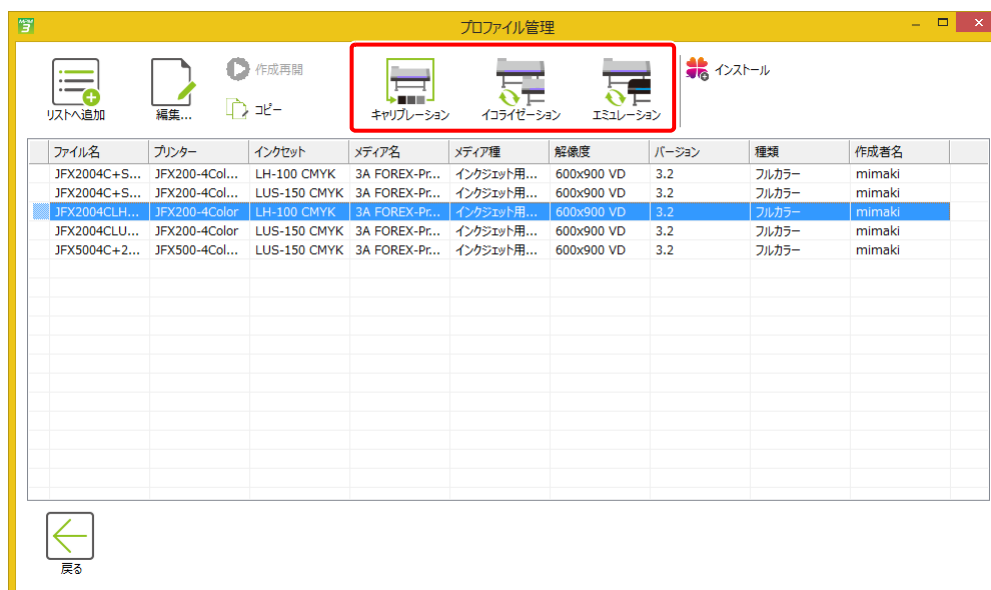
• [色合わせモード] で "スタンダード" または "クラシック" を選択します。



3 メイン画面より[デバイスプロファイル]-[デバイスプロファイルの管理]を選択する

[プロファイル管理]画面のツールバーが切り替わります。

・クラシック



・スタンダード



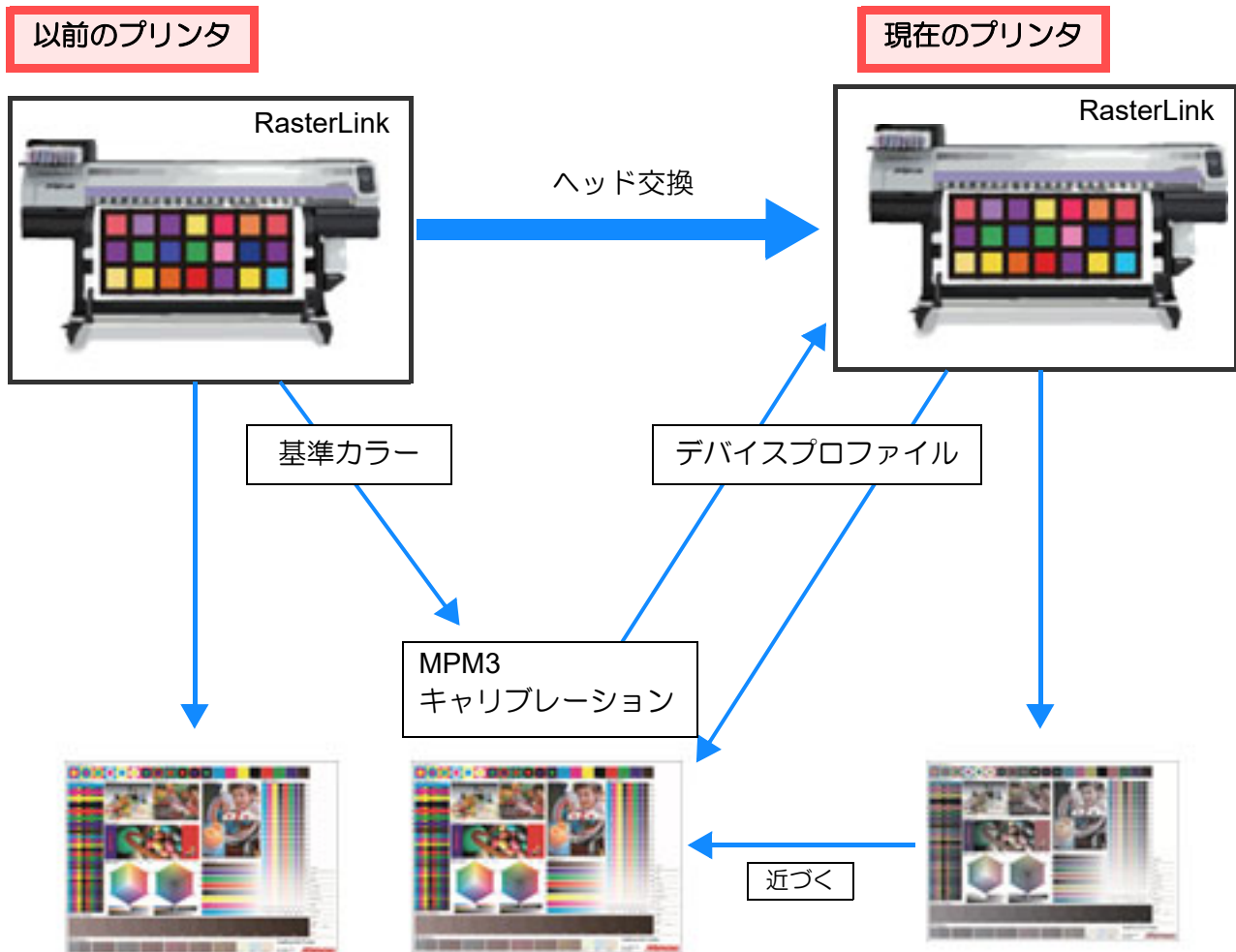
6 章

同一プリンタで色を合わせる (キャリブレーション)

キャリブレーション機能

インクジェットプリンタでは、インクジェットヘッドの交換やインクジェットノズルの経年変化、あるいは周囲環境の変化でプリンタのカラーが変わることがあります。

キャリブレーション機能は、プリンタに変化があっても、前に近いカラーで印刷する機能です。MPM3 のキャリブレーションは、この目的でデバイスプロファイルを編集します。



- (重要!)** ・色差計算は D50 光源を想定していますので、ご利用の環境光源とは必ずしも同じ結果になりません。見た目と数値の差はご了承ください。

キャリブレーション運用フロー

キャリブレーションは以下の運用フローになります。

プリンタのキャリブレーション基準カラーを設定する。

「キャリブレーション基準カラーの設定」(P. 52) を参照してください。



現在のプリンタカラーとキャリブレーション基準カラーの色差が許容内であれば、キャリブレーションなしで運用する。

「キャリブレーションをかけない運用」(P. 56) を参照してください。



色差が許容外になったら、デバイスプロファイルをキャリブレーション補正する。

「キャリブレーション設定」(P. 58) を参照してください。



キャリブレーションしたカラーとキャリブレーション基準カラーの色差が許容内であれば、そのまま運用する。

「キャリブレーションの運用」(P. 64) を参照してください。



色差が許容外になったら、再度デバイスプロファイルをキャリブレーション補正する。

「キャリブレーション設定」(P. 58) を参照してください。

キャリブレーション基準カラーの設定

キャリブレーションの運用を開始する場合、まず現在のプリンタの印刷カラーを採取し、キャリブレーション基準カラーとします。キャリブレーションではこのカラーが目標になります。キャリブレーション基準カラーは最初に設定しますが、後から設定しなおすことも可能です。

キャリブレーション基準カラーの設定フローは以下の通りです。

キャリブレーションウィザードを開始する。

「キャリブレーションを開始する」(P. 52)を参照してください。



キャリブレーションチャートを印刷する。

「キャリブレーションチャートの印刷と測色について」(P. 54)を参照してください。



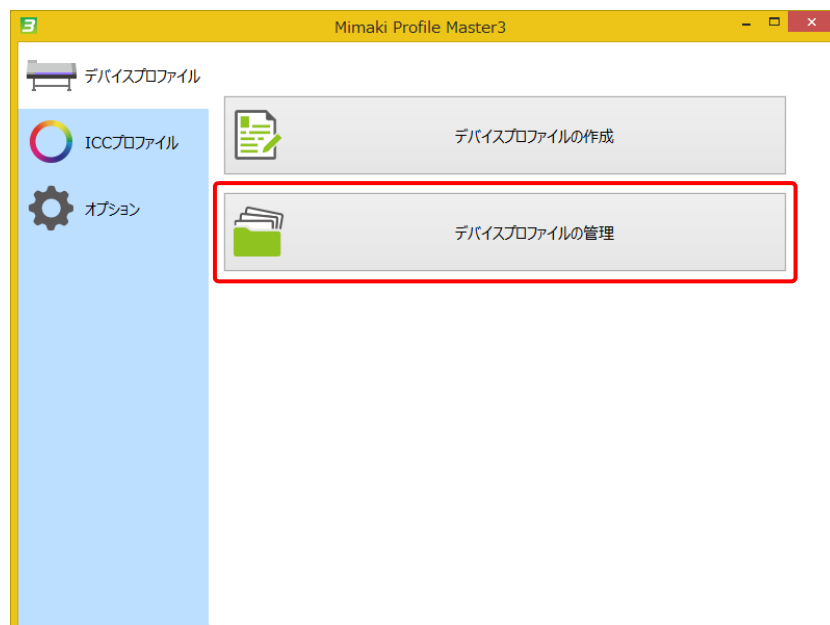
キャリブレーションチャートを測色する。

「キャリブレーション基準カラーを設定する」(P. 53)を参照してください。

キャリブレーションを開始する

プロファイル管理画面を開き、キャリブレーションするデバイスプロファイルを指定します。

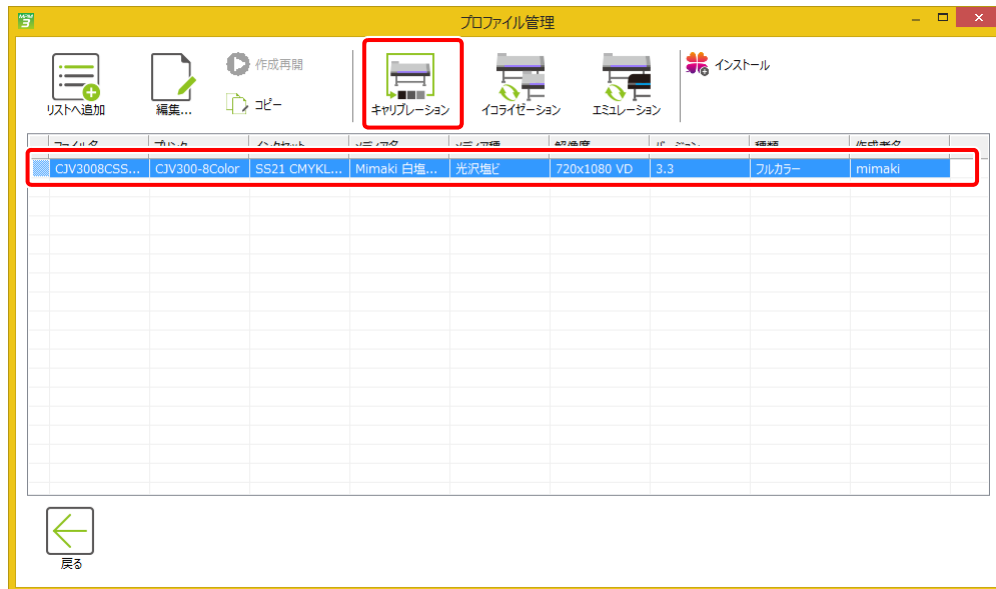
1 【デバイスプロファイルの管理】をクリックする



2 デバイスプロファイルを読み込む

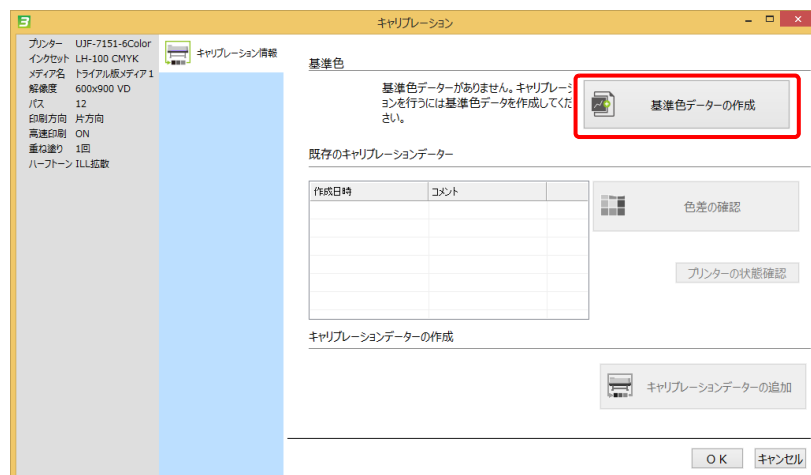
3 キャリブレーションするデバイスプロファイルを選択する

4 [キャリブレーション]をクリックする



キャリブレーション基準カラーを設定する

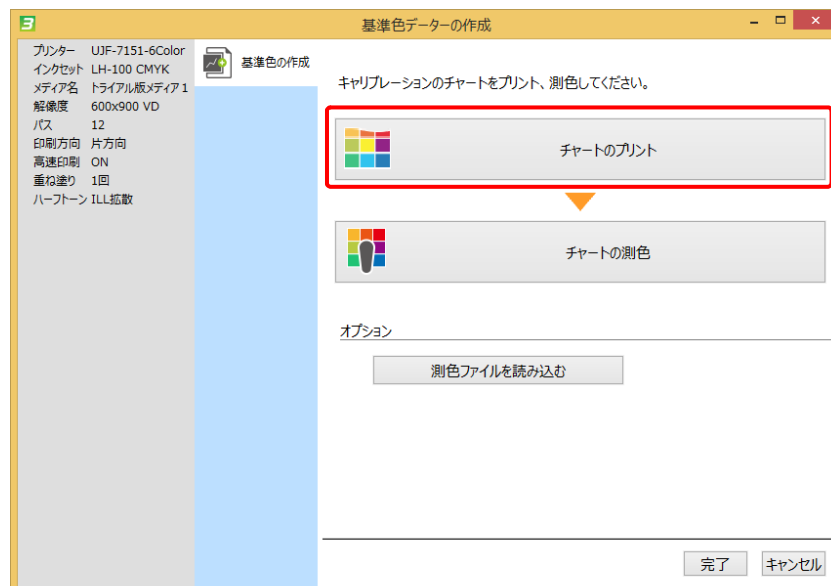
1 [基準色データの作成]をクリックし、キャリブレーションチャートを測色する



キャリブレーションチャートの印刷と測色について

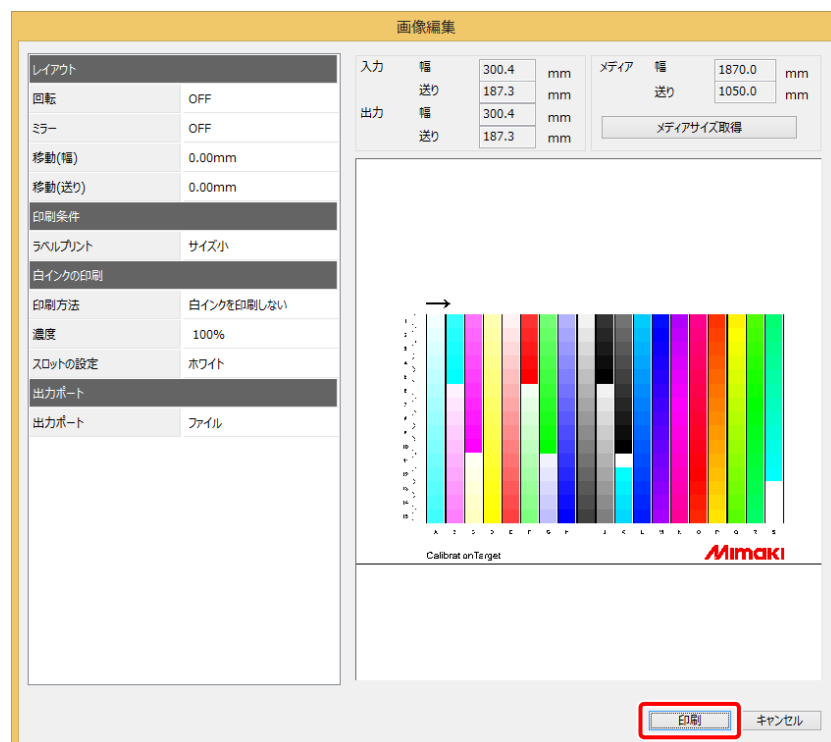
キャリブレーションでは現在のプリンタの状態やキャリブレーションした結果を知るため、プリンタの印刷カラーの測色が必要になります。この測色に用いるチャートをキャリブレーションチャートと呼びます。キャリブレーションチャートはキャリブレーションのほか、イコライゼーション、エミュレーションでも使われます。

1 【チャートのプリント】をクリックする



2 【印刷】をクリックする

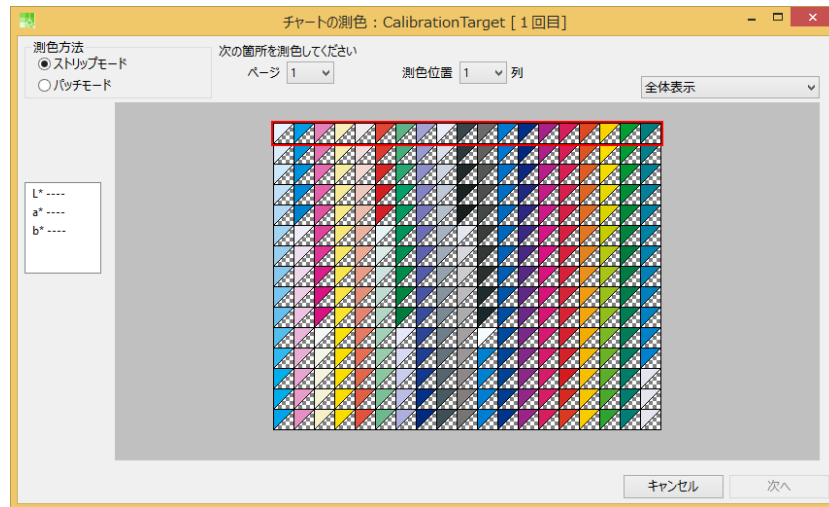
- キャリブレーションチャートを印刷します。
- チャートの印刷パラメータ詳細は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159) を参照してください。



測色器 i1Pro のときの印刷画面

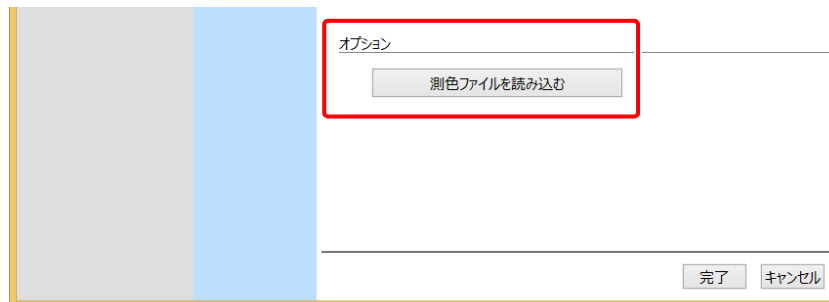
3 [チャートの測色]をクリックする

- 印刷したチャートを測色します。測色方法は、「13 章 チャートの測色方法」(P. 163)を参照してください。



測色器 i1Pro のときの印刷画面

4 オプションの設定をする



測色ファイルを読み込む 保存してある測色値を読み込むことができます。

キャリブレーションをかけない運用

キャリブレーション基準カラーを設定した後しばらくは、キャリブレーションは必要がありません。プリンタの現在のカラーを定期的に測色して、キャリブレーション基準カラーとの色差を取ります。許容できる色差内であるか検討します。

色差確認の方法は以下の通りです。

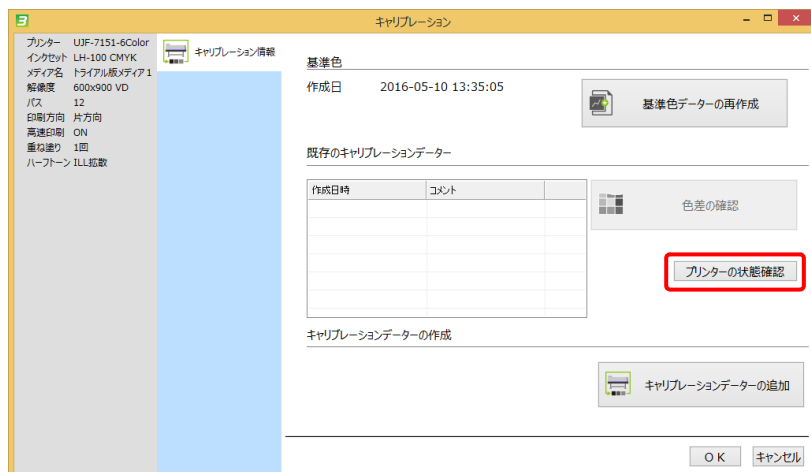
プリンタの状態確認をし、キャリブレーションチャートを測色する

ステップ1：色差を確認する

ステップ1：色差を確認する

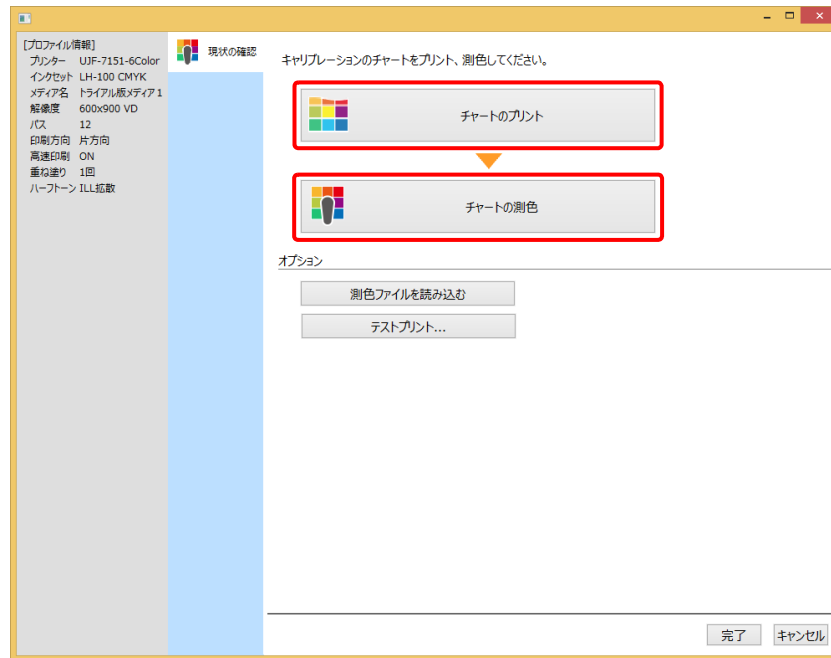
現在のプリンタのカラーとキャリブレーション基準カラーを比較します。

1 「プリンタの状態確認」をクリックする



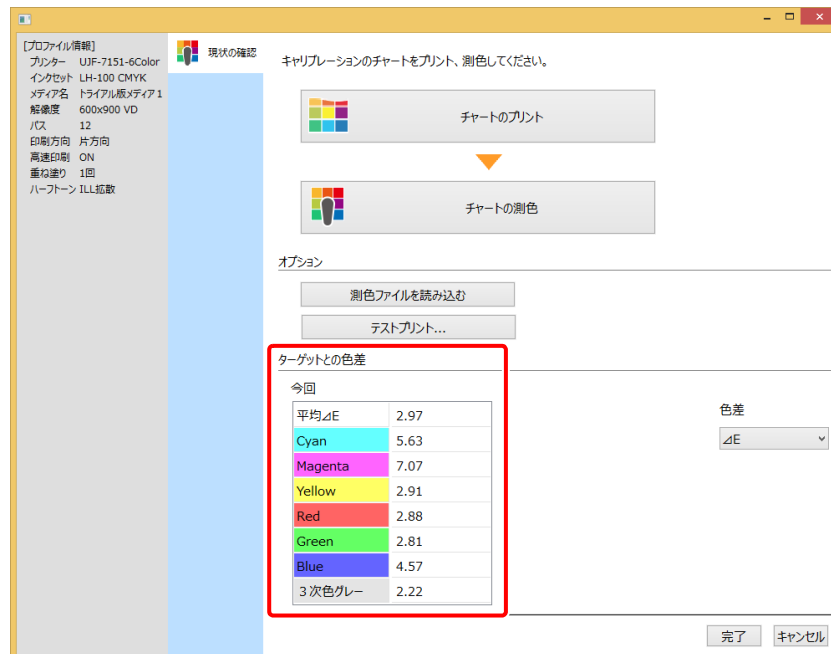
2 キャリブレーションチャートを印刷し、測色する

- ここでの印刷はキャリブレーションがかかりません。
操作手順は、「キャリブレーションチャートの印刷と測色について」(P. 54) を参照してください。



3 色差を確認する

- キャリブレーション基準カラーと今回測色したカラーの色差が表示されます。色差が許容範囲にあるかチェックし、キャリブレーションをするか判定します。



キャリブレーション設定

プリンタの現在の色とキャリブレーション基準カラーとの色差が許容できない場合はキャリブレーションを設定します。キャリブレーションデータはデバイスプロファイルに追加されます。

キャリブレーションの設定を行う

キャリブレーション設定フローは以下の通りです。

ステップ1：インクリミットを調整する

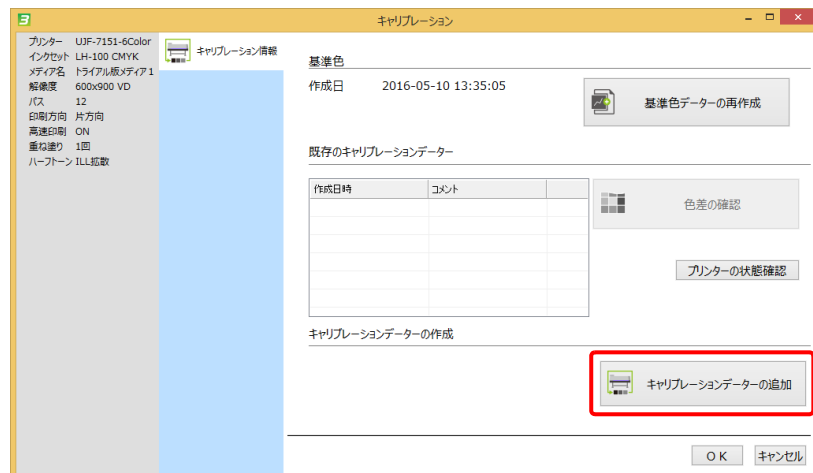
ステップ2：リニアライゼーションを調整する

ステップ3：グレーバランスを調整する

ステップ4：色差を確認する

ステップ5：デバイスプロファイルへ追加する

最初に、[キャリブレーションデータ追加]をクリックする



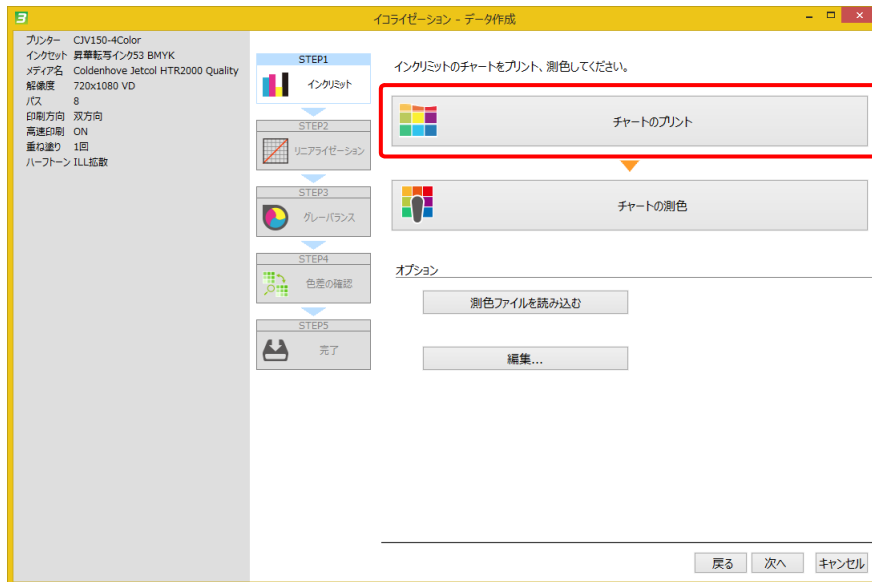
ステップ1：インクリミットを調整する

チャートを印刷、測色することで、基準色の印刷濃度に自動的に合わせます。



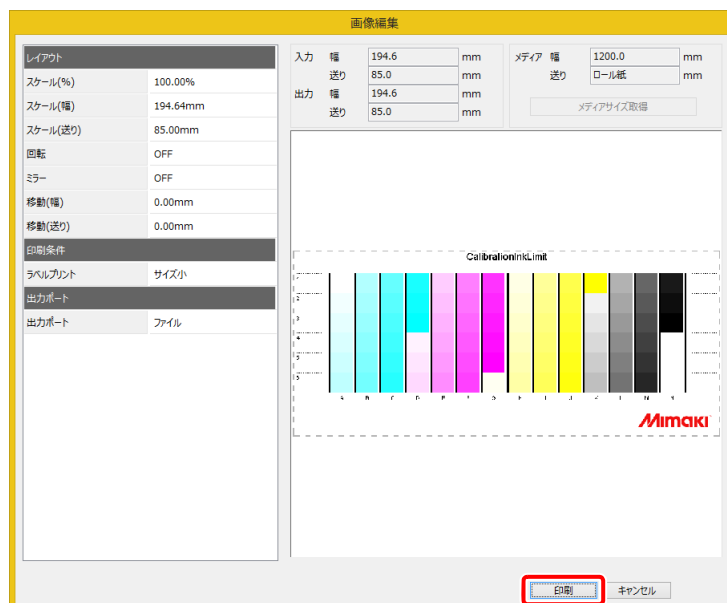
- MPM3.1.8 以前に基準色を設定した場合、チャートのプリント、チャートの測色は行えません。

1 【チャートのプリント】をクリックする



2 【印刷】をクリックする

- インクリミットの測色チャートを印刷します。
- チャートの印刷パラメータ詳細は、「12章 チャートの印刷方法」(P. 159)を参照してください。

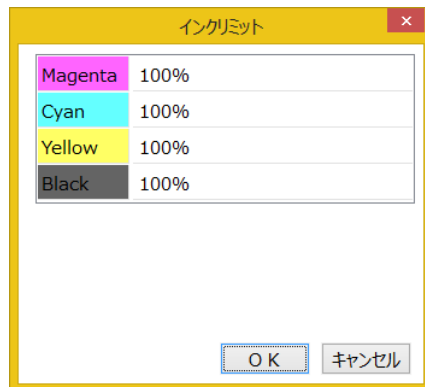


3 チャートを測色する

- 表示に従いチャートを測色します。
- 測色方法は、「13 章 チャートの測色方法」(P. 163)を参照してください。
- 測色機と接続して測色画面を表示します。

4 オプションを設定する

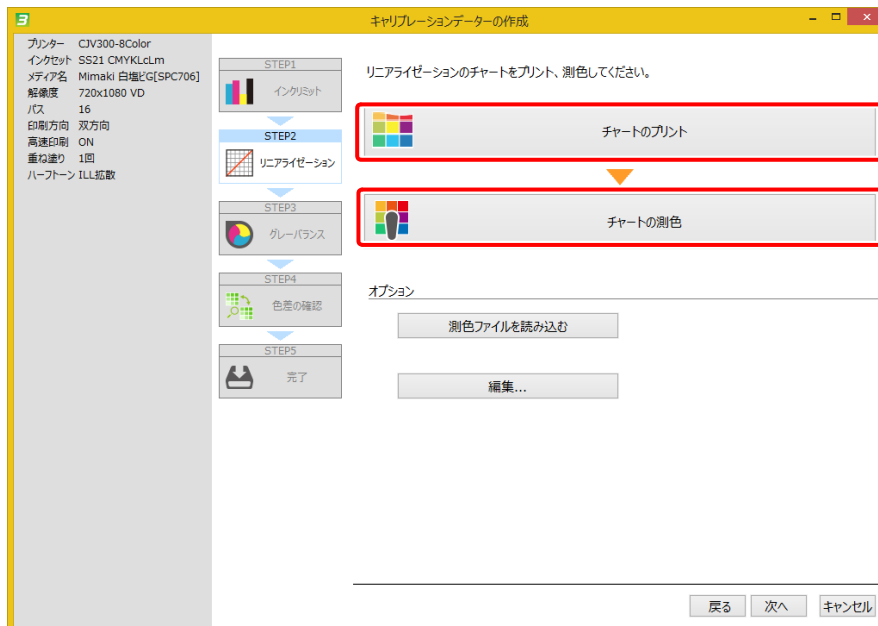
- 測色ファイルを読み込む 保存してある測色値を読み込むことができます
- 編集 インクリミット画面が表示され、インク濃度を編集できます。



ステップ2：リニアライゼーションを調整する

リニアライゼーションを調整します。

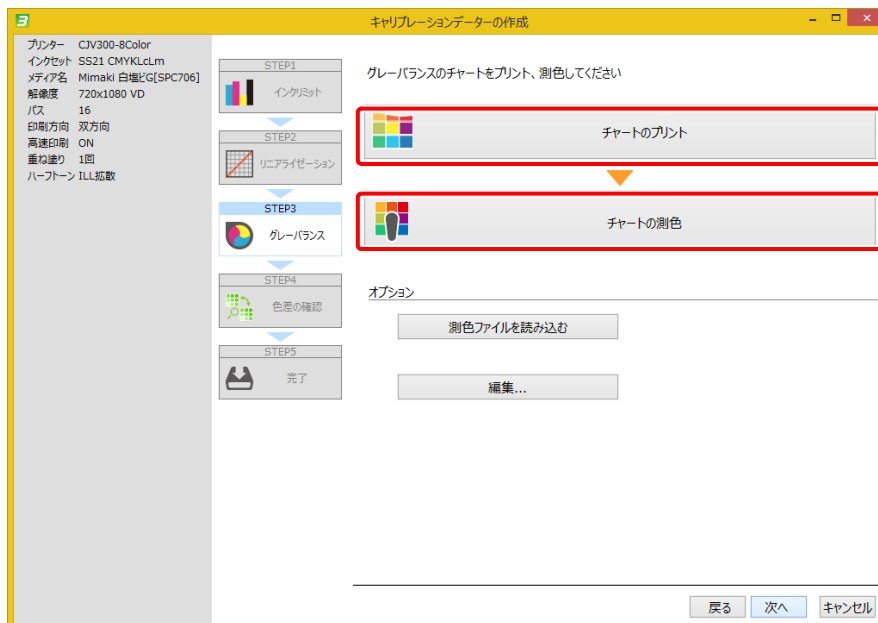
操作手順は「デバイスプロファイルを作成する」の「ステップ5：リニアライゼーションの設定」(P. 27) "参照してください。



ステップ3：グレーバランスを調整する

グレーバランスを調整します。

操作手順は「デバイスプロファイルを作成する」の「ステップ7：グレーバランスの設定」(P. 31) を参照してください。

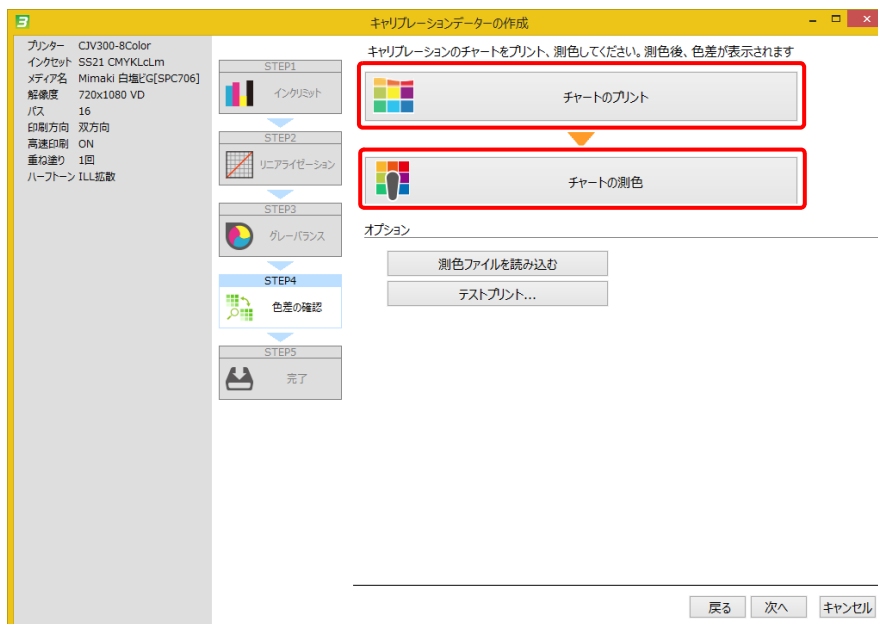


ステップ4：色差を確認する

キャリブレーションしたチャートを測色し、キャリブレーション基準カラーとの色差を確認します。

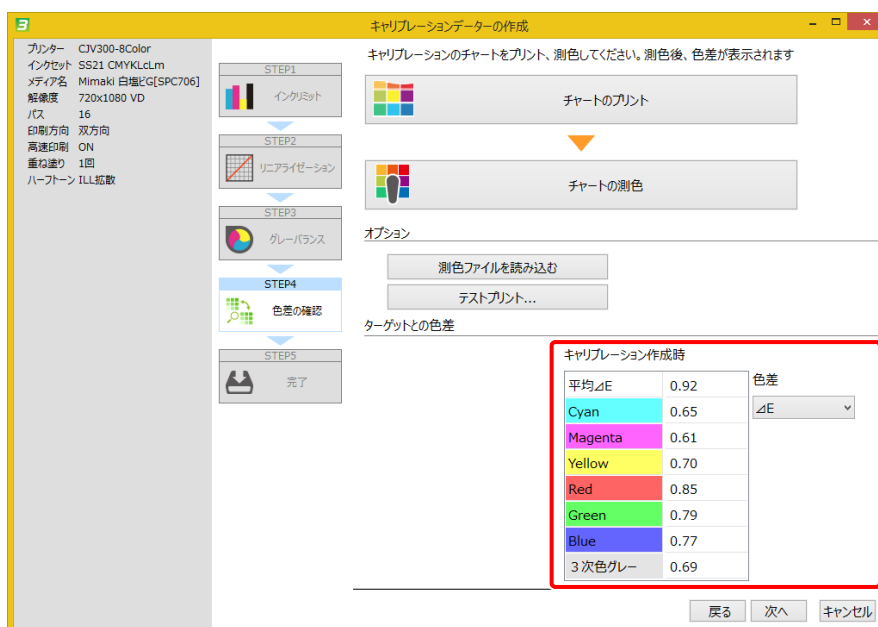
1 キャリブレーションチャートを印刷し、測色する

- 操作手順は「キャリブレーションチャートの印刷と測色について」(P. 54)を参照してください。



2 色差を確認する

- 測色が終了すると色差が表示されます。
- キャリブレーションした色とキャリブレーション基準カラーの色差を確認します。

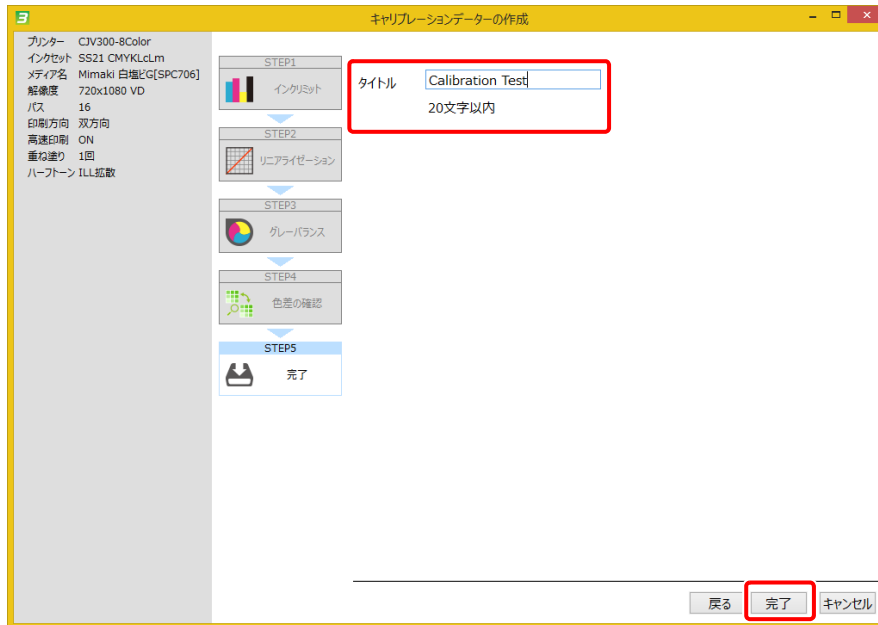


ステップ5：デバイスプロファイルへ追加する

デバイスプロファイルにキャリブレーションデータを追加します。

1 デバイスプロファイルに追加するキャリブレーションデータに名前を付け、[完了]をクリックする

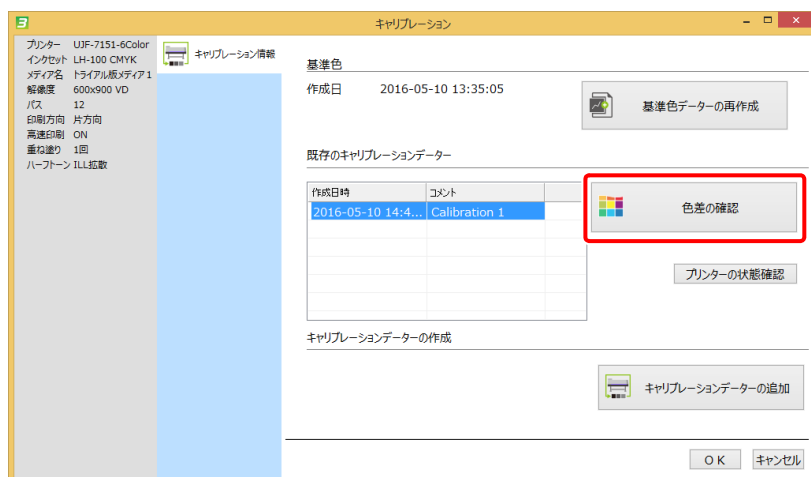
- プロファイル保存ポップアップが表示されるので、名前をつけて保存します。
- 保存したプロファイルを RasterLink にインストールしてください。



キャリブレーションの運用

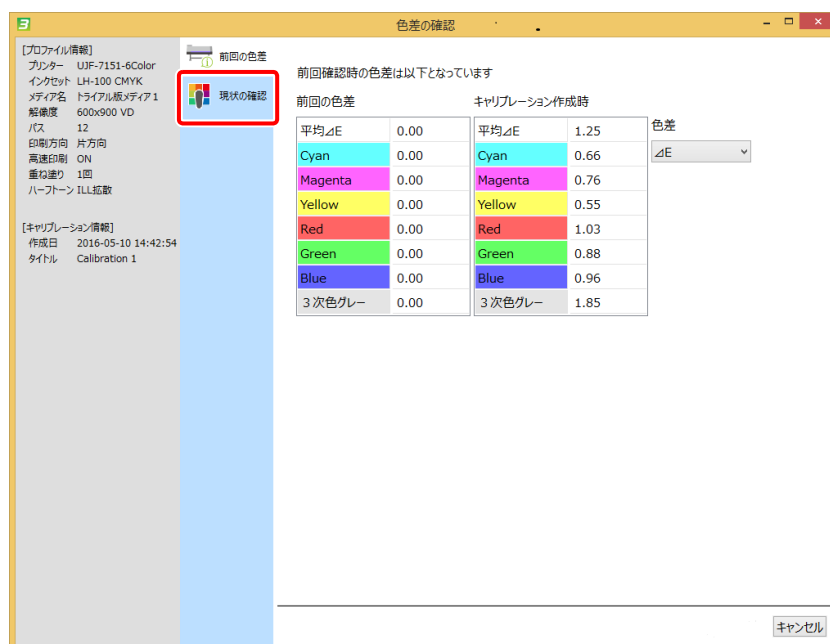
キャリブレーション設定後、プリンタの現在の色を定期的に測色して、キャリブレーション基準カラーとの色差を取ります。許容できる色差からはずれるようであれば、キャリブレーションを取り直し、デバイスプロファイルに追加します。

1 「色差の確認」ボタンをクリックする



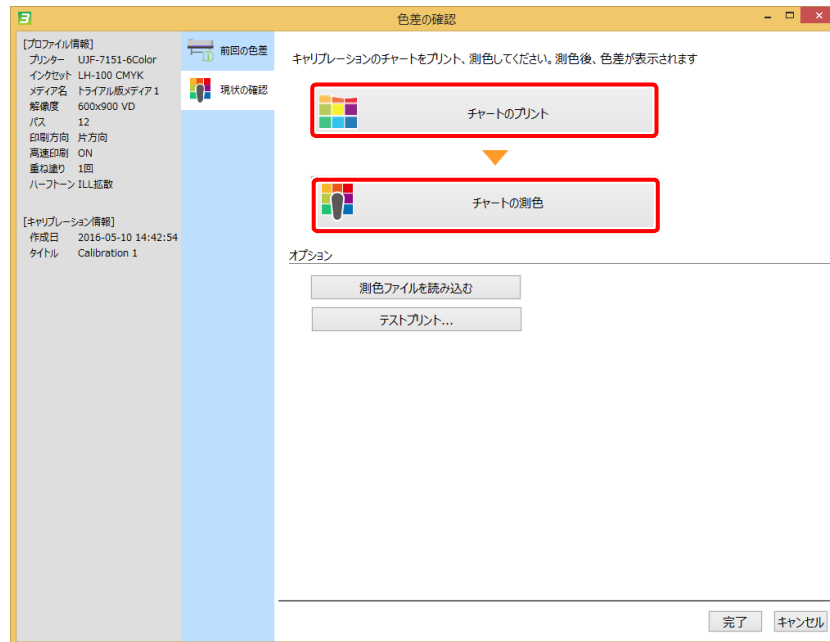
2 “現在の確認”タブをクリックする

- 前回測定した色差が表示されます。(キャリブレーション後、初めての操作の場合は色差0になります。)
- 現在の状態での色差を測定する場合、「現在の確認」タブをクリックします。



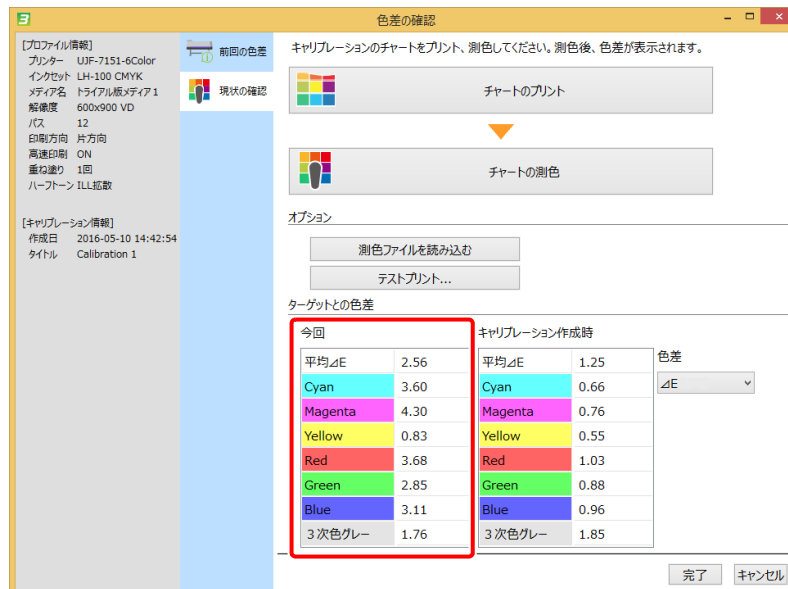
3 キャリブレーションチャートを印刷し、測色する

- ここではキャリブレーションがかかった印刷になります。
操作手順は「キャリブレーションチャートの印刷と測色について」(P. 54)を参照してください。



4 色差を確認する

- 測色が終了すると色差が表示されます。
- キャリブレーションを掛けた現在のカラーとキャリブレーション基準カラーとの色差が表示されます。色差が許容範囲にあるか判定してください。色差が許容範囲外にあるときは、キャリブレーションの再設定が必要です。
- [完了]をクリックすると、ICCプロファイル保存のポップアップが出ます。ICCプロファイル名を指定してください。今日の測定結果が保存されます。



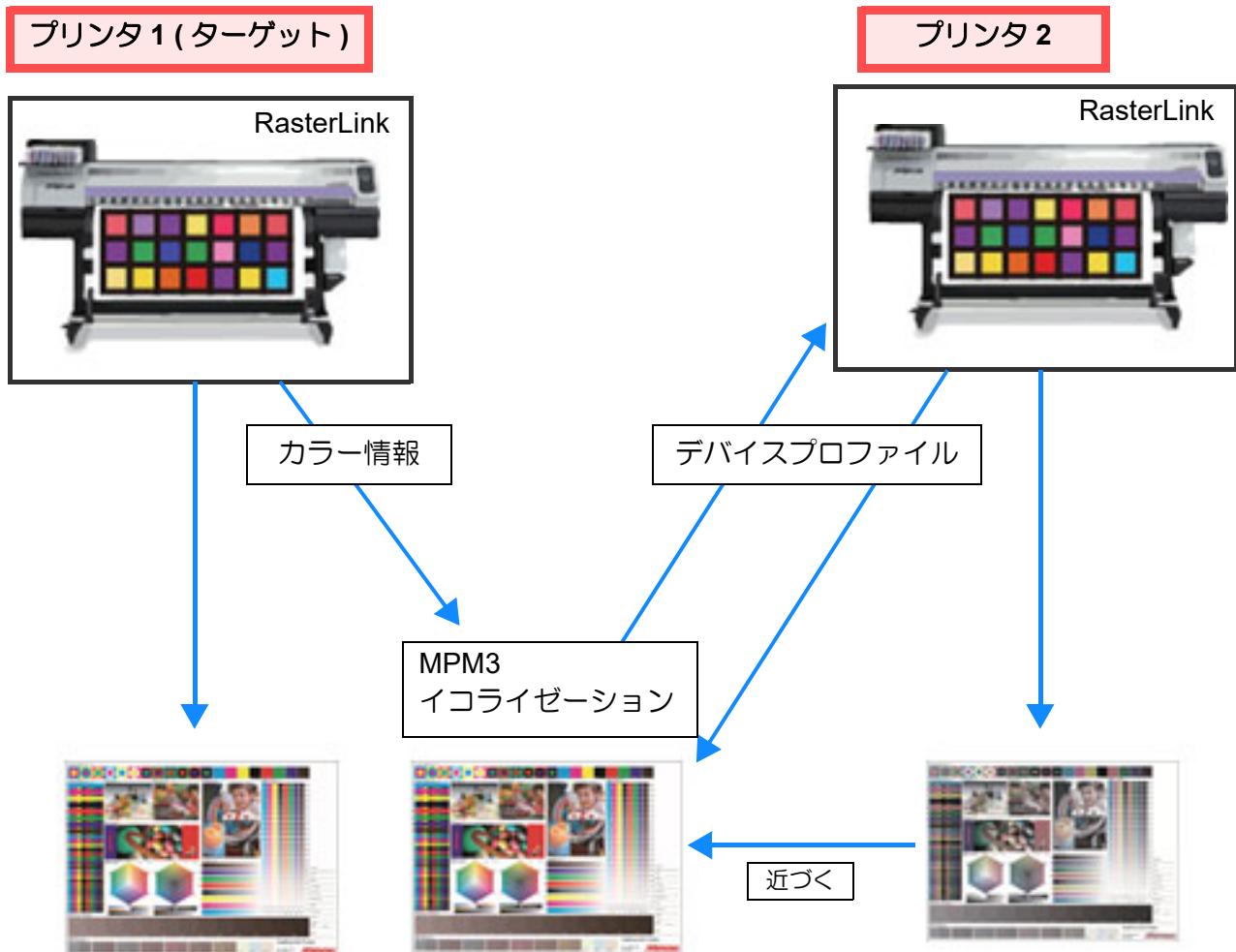
7 章

同一モデルで色を合わせる (イコライゼーション)

イコライゼーション機能

同一モデルで同じインクセットを使用している複数台のプリンタでは、プリンタの個体差により、印刷カラーが異なる場合があります。

イコライゼーション機能は、ターゲットとして設定されたプリンタのカラーに、他のプリンタのカラーを近づける機能です。MPM3 のイコライゼーションは、この目的でデバイスプロファイルを編集します。



重要!

・色差計算は D50 光源を想定していますので、ご利用の環境光源とは必ずしも同じ結果になりません。見た目と数値の差はご了承ください。

イコライゼーション運用フロー

イコライゼーションは以下の運用フローになります。

基準となるプリンタ (ターゲットプリンタ) を決める。

「ターゲットプリンタの決定」(P. 70) を参照してください。



イコライゼーションを設定する。

「イコライゼーションの設定」(P. 71) を参照してください。



イコライゼーションをかけているプリンタのカラーを定期的に測色し、ターゲットプリンタのカラーとの色差が許容内であれば、そのまま運用運用する。

「イコライゼーションの運用」(P. 81) を参照してください。



色差が許容外になったら、イコライゼーションを再設定する。

「イコライゼーションの設定」(P. 71) を参照してください。



ターゲットプリンタで、印刷カラーが変わる事象が発生したら、イコライゼーションを再設定する。

「イコライゼーションの設定」(P. 71) を参照してください。

ターゲットプリンタの決定

複数台あるプリンタの中から、基準となるプリンタを選択します。
イコライゼーションはこのプリンタの色を採取し、ターゲット基準カラーを作成します。イコライゼーションはこの色が目標となります。

次の手順でターゲット基準色を作成します。

ターゲットプリンタの印刷条件を決定する。

「ステップ1：ターゲットデバイスプロファイルを選択する」(P. 74)を参照してください。



ターゲットプリンタにてチャートを印刷・測色し、測色値をターゲット基準カラーとして登録する。

「ステップ2：ターゲットカラーを測色する」(P. 75)を参照してください。



イコライゼーションをかけるプリンタでチャートを印刷し、測色する。

「ステップ3：色差を確認する」(P. 76)を参照してください。



イコライゼーションをかけるプリンタの色とターゲット基準カラーの色差をチェックする。

イコライゼーションの設定

ターゲット基準カラーとイコライゼーションをかけるプリンタの色差が許容範囲を超えた場合は、イコライゼーションをかけるプリンタでイコライゼーションデータを作成します。

次の手順でイコライゼーションを設定します。

インクリミットを調整する。

「ステップ1：インクリミットを調整する」(P. 77) を参照してください。



リニアライゼーションを調整する。

「ステップ2：リニアライゼーションを調整する」(P. 78) を参照してください。



グレーバランスを調整する。

「ステップ3：グレーバランスを調整する」(P. 78) を参照してください。



イコライゼーションした印刷カラーを測色し、ターゲット基準カラーとの色差を確認する。

「ステップ4：色差を確認する」(P. 79) を参照してください。



イコライゼーションデータをデバイスプロファイルに追加する。

「ステップ5：デバイスプロファイルへ追加する」(P. 80) を参照してください。

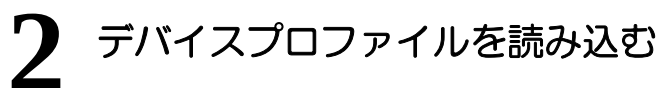


- 複数のイコライゼーションデータをひとつのデバイスプロファイルに登録できます。
- RasterLink で印刷するときには、イコライゼーションデータを選択することができます。
- ひとつのデバイスプロファイルにイコライゼーションをかける複数のプリンタのデータを登録しておくと、RasterLink はひとつのプロファイルで複数のプリンタをサポートできます。



- イコライゼーションはターゲットプリンタとイコライゼーションプリンタが異なる印刷条件のときには適切な効果はできません。

1 [デバイスプロファイルの管理]をクリックする



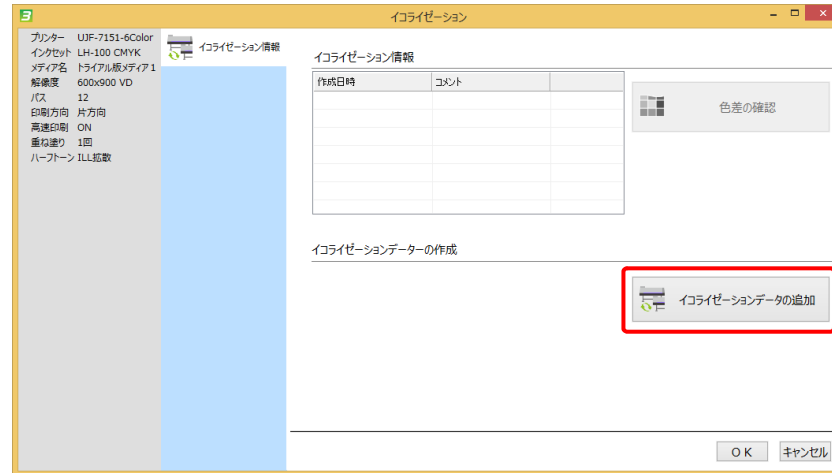
3 イコライゼーションするデバイスプロファイルを選択する

4 【イコライゼーション】をクリックする



イコライゼーションウィザードを開始する

1 【イコライゼーションデータの追加】をクリックする



イコライゼーションのターゲット基準カラーを設定する

イコライゼーションのターゲット基準カラー設定ステップ

ステップ1：ターゲットデバイスプロファイルを選択する

ステップ2：ターゲットカラーを測色する

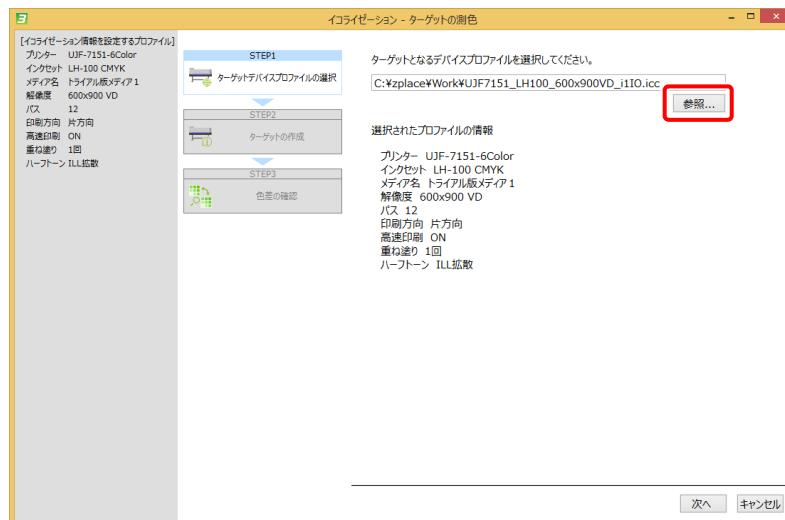
ステップ3：色差を確認する

ステップ1：ターゲットデバイスプロファイルを選択する

ターゲットプリンタの印刷条件を選択します。

1

【参照...】をクリックして、ターゲットプリンタのデバイスプロファイルを選択する



重要!

- 選択されたデバイスプロファイルはターゲットプリンタの色を調べるためのものです。イコライゼーションで編集されません。但し、プロファイル管理画面でイコライゼーションを開始するとき編集ターゲットにしたプロファイルと同じ場合には編集されます。

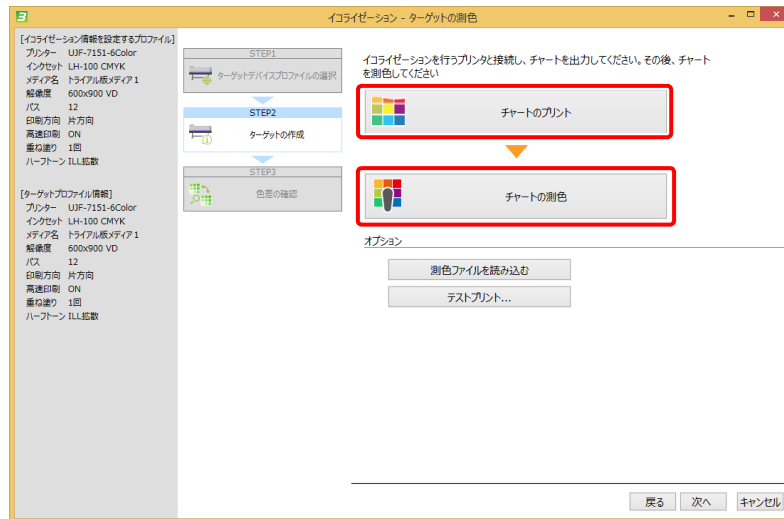
ステップ2：ターゲットカラーを測色する

ターゲットプリンタの印刷カラーを測色します。
キャリブレーションチャートをターゲットプリンタで印刷してください。
測色したカラーはターゲット基準カラーとして設定されます。

1 ターゲットプリンタと接続する

2 キャリブレーションチャートを印刷し、測色する

・操作手順は「キャリブレーションチャートの印刷と測色について」(P. 54)を参照してください。



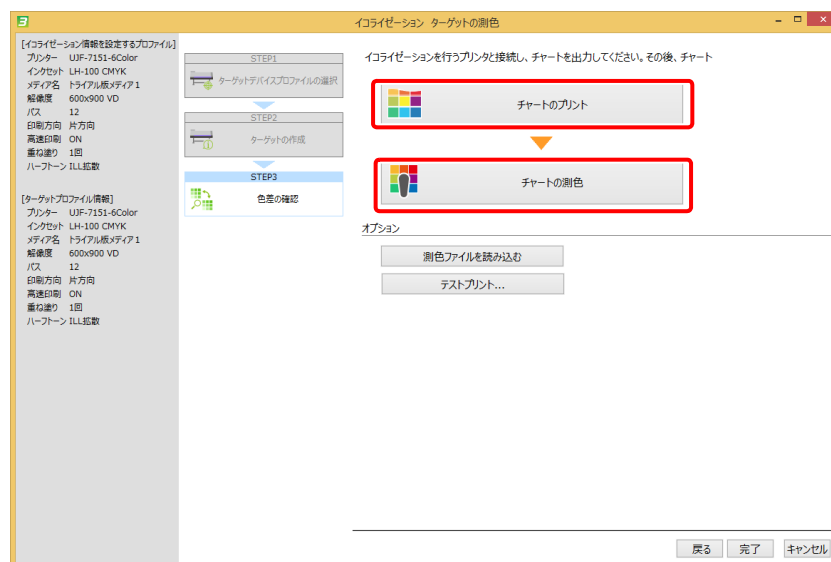
ステップ3：色差を確認する

イコライゼーションをかけるプリンタの印刷カラーを測色します。

1 イコライゼーションをかけるプリンタと接続する

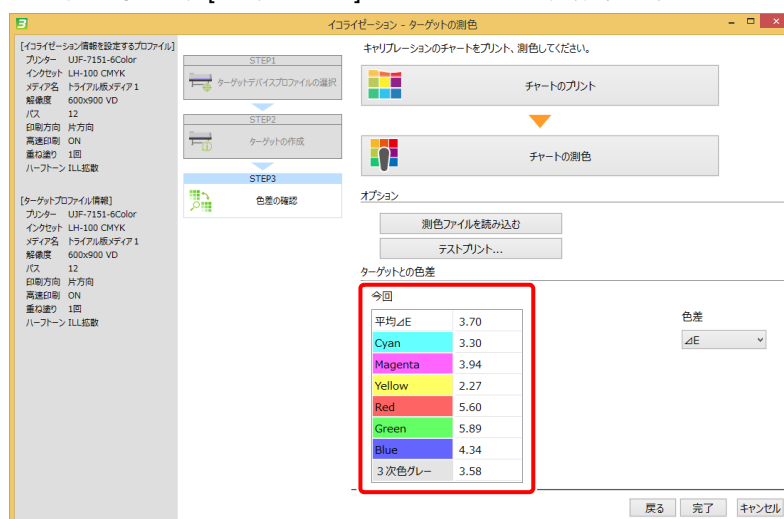
2 キャリブレーションチャートを印刷し、測色する

・操作手順は「キャリブレーションチャートの印刷と測色について」(P. 54)を参照してください。



3 色差を確認する

・イコライゼーションをかけるプリンタの印刷カラーとターゲット基準カラーの色差が表示されます。色差が許容できる場合は、[キャンセル]をクリックして、作業を中止してください。



イコライゼーションデータを追加する

以下の方法でイコライゼーションデータを追加します。

イコライゼーションデータ追加ステップ

ステップ1：インクリミットを調整する

ステップ2：リニアライゼーションを調整する

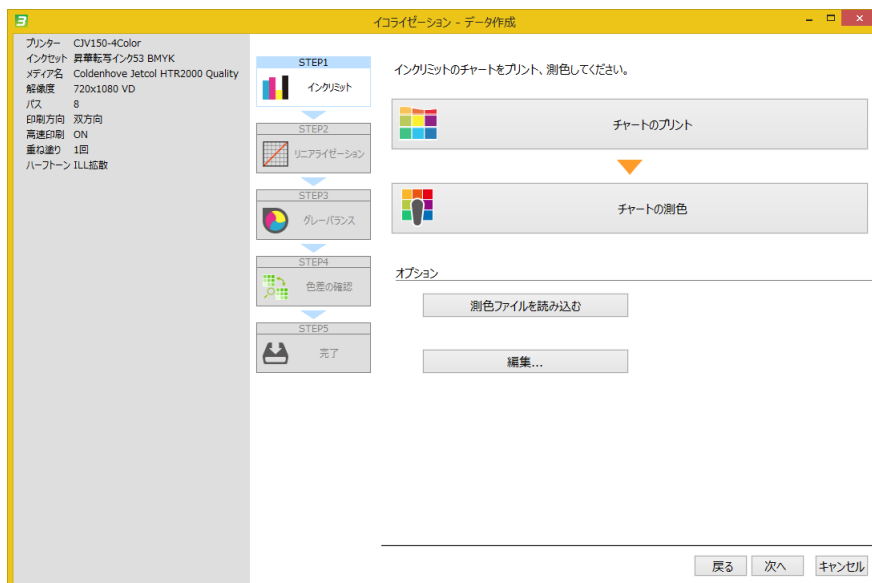
ステップ3：グレーバランスを調整する

ステップ4：色差を確認する

ステップ5：デバイスプロファイルへ追加する

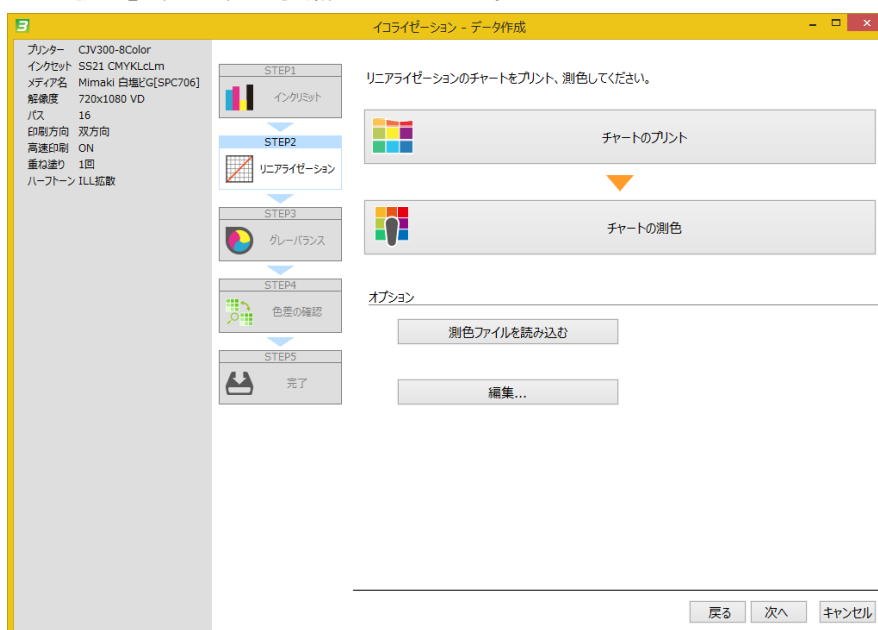
ステップ1：インクリミットを調整する

チャートを印刷、測色することで、ターゲットの印刷濃度に合わせます。
 操作手順は「6 章 同一プリンタで色を合わせる (キャリブレーション)」の「ステップ1：インクリミットを調整する」(P. 59) を参照してください。



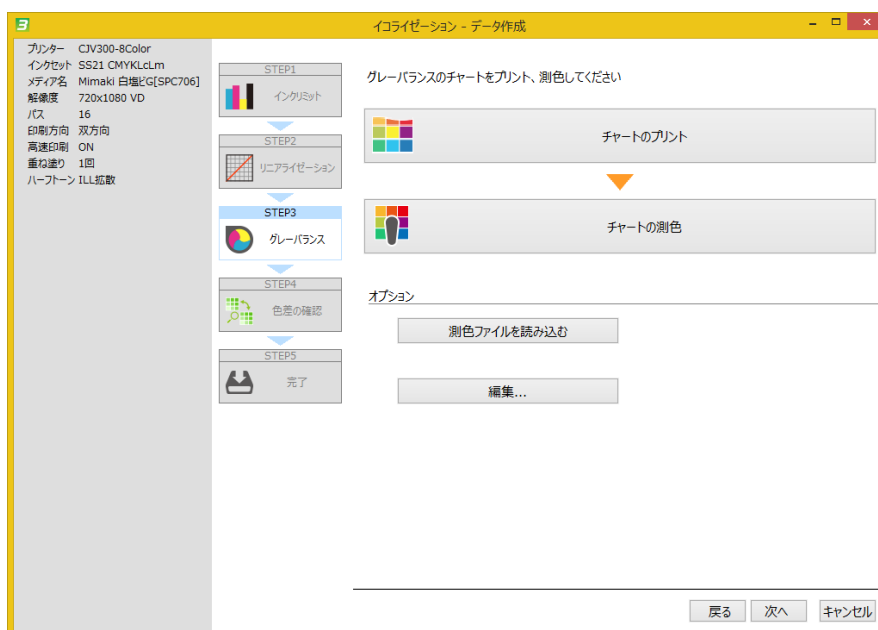
ステップ2：リニアライゼーションを調整する

リニアライゼーションを取ります。操作手順は、「2 章 デバイスプロファイルを作成する」の「ステップ5：リニアライゼーションの設定」(P. 27)を参照してください。



ステップ3：グレーバランスを調整する

グレーバランスを取ります。操作手順は、「2 章 デバイスプロファイルを作成する」の「ステップ7：グレーバランスの設定」(P. 31)を参照してください。

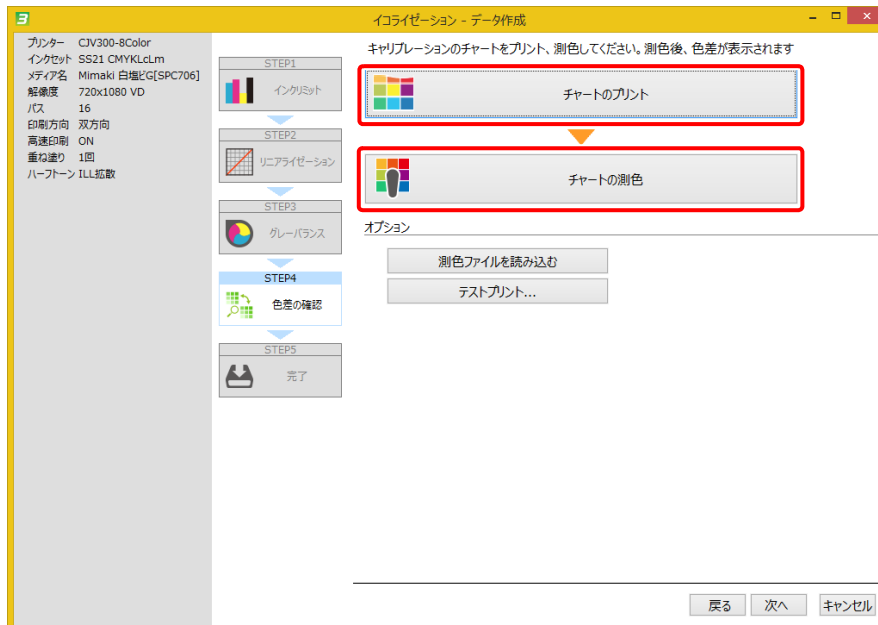


ステップ4：色差を確認する

イコライゼーションをかけて印刷し、ターゲット基準カラーと色差を確認します。

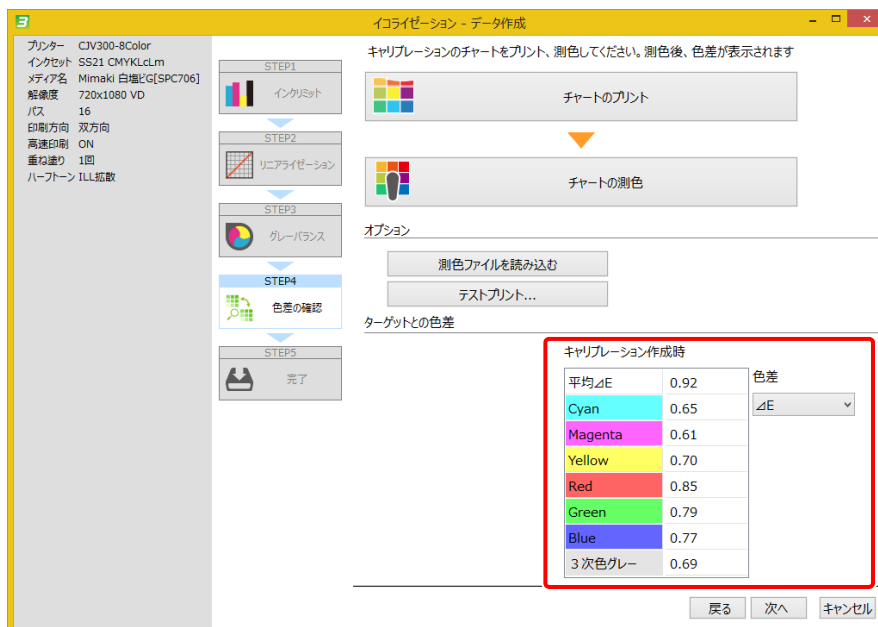
1 キャリブレーションチャートを印刷し、測色する

- 操作手順は、「キャリブレーションチャートの印刷と測色について」(P. 54) を参照してください。



2 色差を確認する

- イコライゼーションの印刷カラーとターゲット基準カラーの色差が表示されます。色差が許容できるか確認してください。

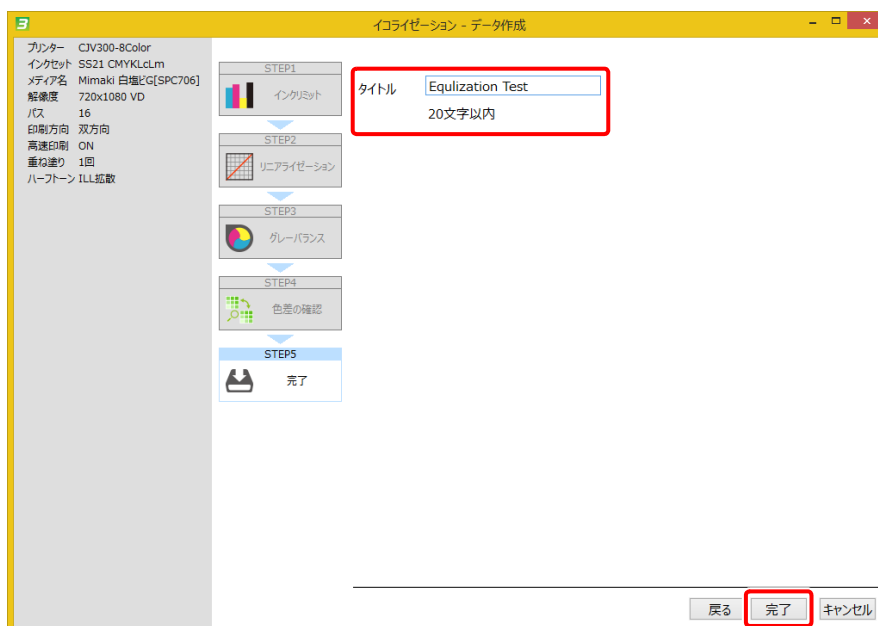


ステップ5：デバイスプロファイルへ追加する

デバイスプロファイルにキャリブレーションデータを追加します。

1 デバイスプロファイルに追加するイコライゼーションデータに名前を付け、[完了] をクリックする

- プロファイル保存のポップアップが表示されるので、名前をつけて保存します。
- 保存したプロファイルを RasterLink にインストールしてください。

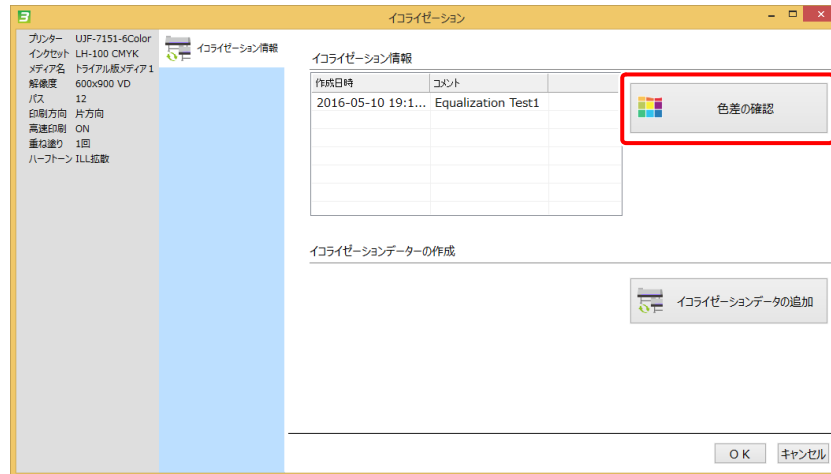


イコライゼーションの運用

イコライゼーション設定後、イコライゼーションをかけたプリンタの色を定期的に測色して、ターゲット基準カラーと色差を取ります。

色差が許容できる範囲からはずれるようであれば、イコライゼーションを取り直し、デバイスプロファイルに追加します。また、ターゲットプリンタの色が変わったときは、ターゲット基準カラーとイコライゼーションの取り直しが必要です。

1 「色差の確認」ボタンをクリックする



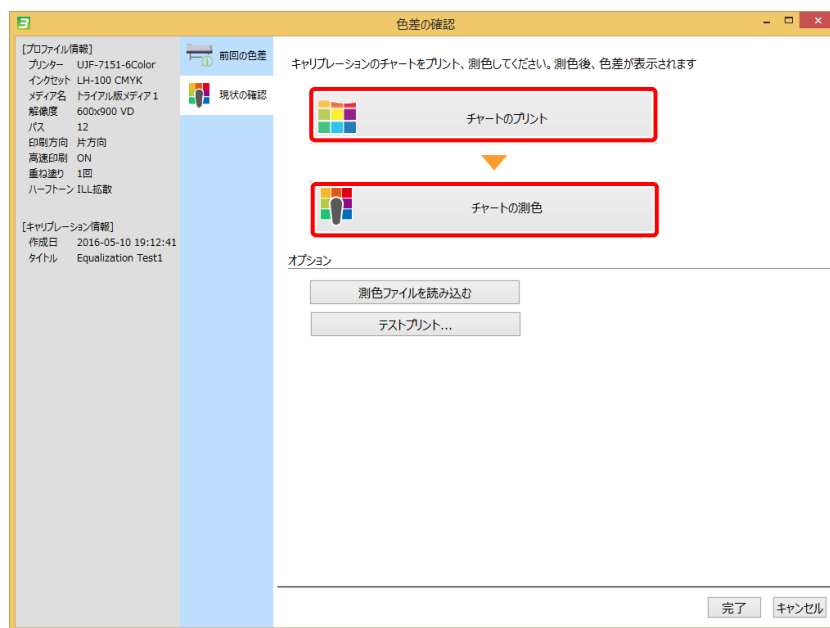
2 “現在の確認”タブをクリックする

- ・前回測定した色差が表示されます。
(イコライゼーション後、初めての操作の場合は色差0になります。)
- ・現在の状態での色差を測定する場合、「現在の確認」タブをクリックします。



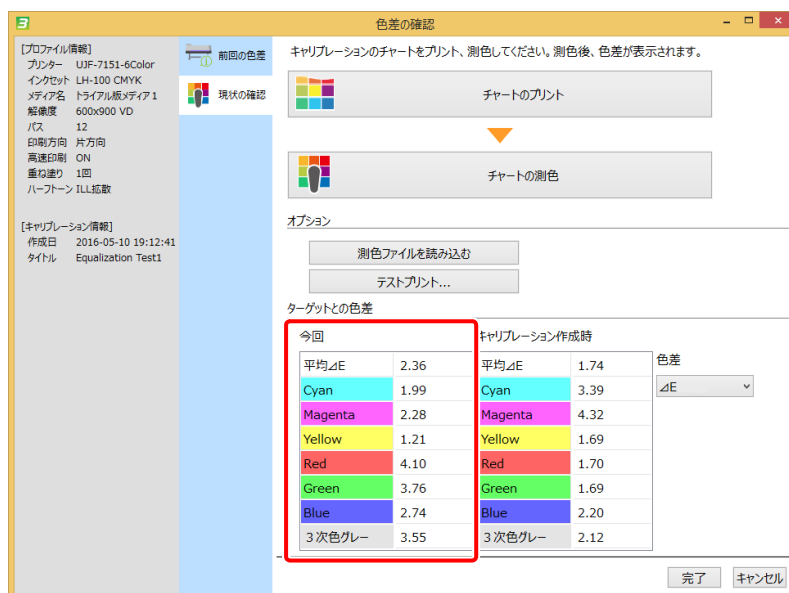
3 キャリブレーションチャートを印刷し、測色する

- 操作手順は「キャリブレーションチャートの印刷と測色について」(P. 54)を参照してください。



4 イコライゼーションチャートをプリントし、測色する

- 測色が終了すると色差が表示されます。
- イコライゼーションを掛けた現在のカラーとターゲット基準カラーとの色差が表示されます。色差が許容範囲にあるか判定してください。色差が許容範囲外にあるときは、イコライゼーションの再設定が必要です。

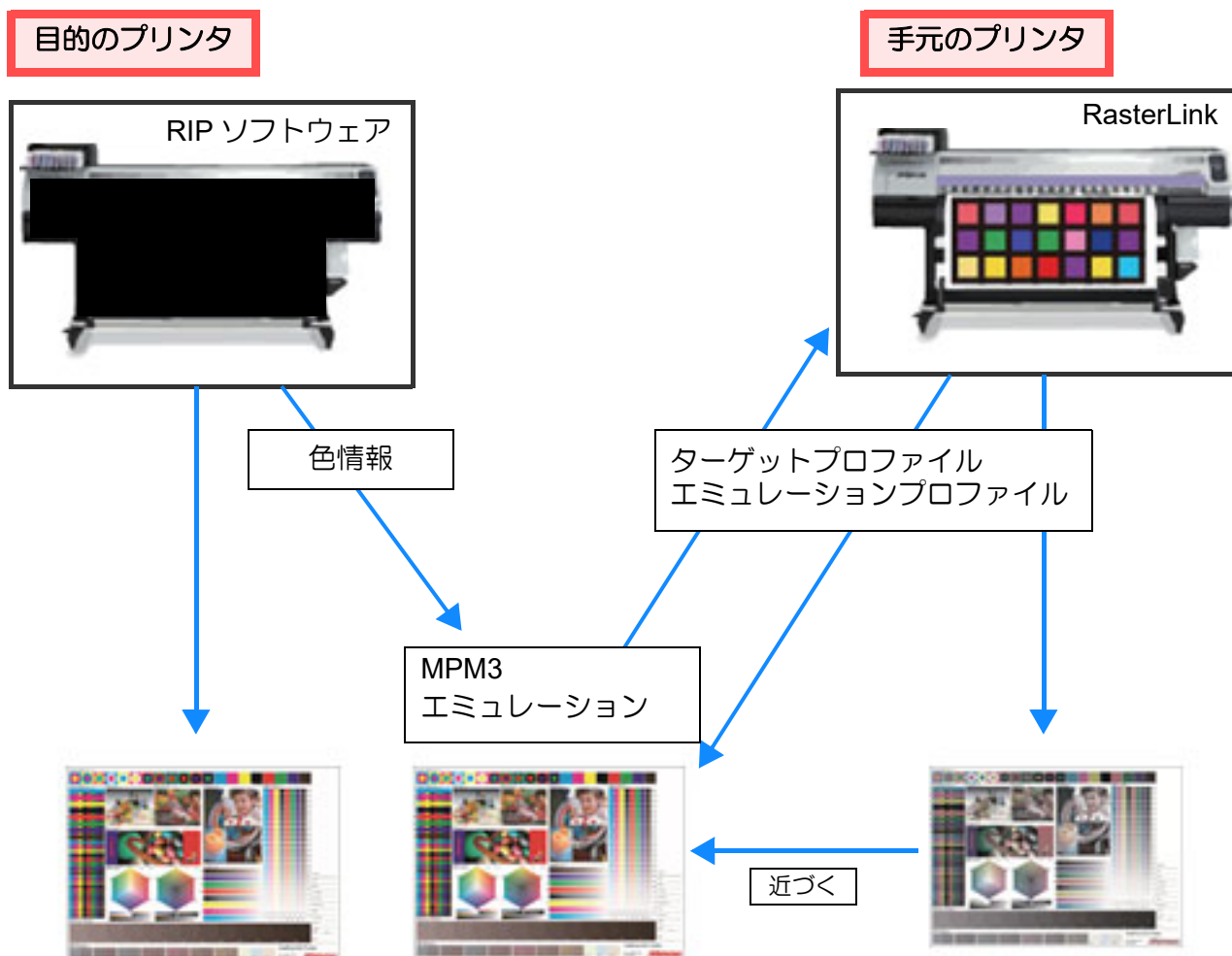


8 章

異なるプリンタの色合わせ (エミュレーション)

エミュレーション機能

エミュレーション機能は手元のプリンタで目的のプリンタに近い色を出します。
MPM3 のエミュレーションはターゲットプロファイル (入力) とエミュレーションプロファイル (デバイス) を作成します。



- 重要!**
- 色差計算は D50 光源を想定していますので、ご利用の環境光源とは必ずしも同じ結果になりません。見た目と数値の差はご了承ください。

エミュレーションプロファイル作成フロー

エミュレーションの作成フローは以下の通りです。

エミュレーションする印刷条件を決める。

「エミュレーションプリンタの印刷準備」(P. 86) を参照してください。

エミュレーションのベースとなるプロファイルを選択する。

「ベースデバイスプロファイルの指定」(P. 87) を参照してください。

ターゲットプリンタでチャートをプリントする。

「ステップ1：ターゲットプロファイルを作成する」(P. 89) を参照してください。

ターゲットのチャートを測色し、ターゲットプロファイルを作る。

「ステップ1：ターゲットプロファイルを作成する」(P. 89) を参照してください。

エミュレーションプリンタでインクリミット調整を行う。

「ステップ2：エミュレーションプロファイルのインク濃度を設定する」(P. 91) を参照してください。

エミュレーションプリンタでエミュレーションプロファイルのチャートをプリントする。

「ステップ3：エミュレーションプロファイルを作成する」(P. 92) を参照してください。

エミュレーションのチャートを測色し、エミュレーションプロファイルを作成する。

「ステップ3：エミュレーションプロファイルを作成する」(P. 92) を参照してください。

エミュレーションしたチャートとターゲットチャートの色差を調べる。

「ステップ4：精度向上」(P. 93) を参照してください。

色差が大きいときには追い込みをする。

「ステップ4：精度向上」(P. 93) を参照してください。

ターゲットプロファイル、エミュレーションプロファイルを RasterLink にインストールする。

「RasterLink で印刷する」(P. 96) を参照してください。

エミュレーションプロファイルを作成する

ターゲットプリンタの印刷準備

1 ターゲットプリンタの印刷準備をする

(1) 測色チャートの最小印刷サイズを確認する

- チャートの最小サイズを以下に示します。このサイズを印刷できない場合は、エミュレーションプロファイルは作成できません。

モード	測色器			
	i1Pro/i1Pro2	i1IO/i1IO2	i1isis	Barbieri
標準モード	300 x 210 mm	288 x 184 mm	対応していません	297 x 210 mm
多色モード	293 x 216 mm	319 x 226 mm		
高精細モード	293 x 253 mm	294 x 205 mm		

(2) 印刷条件を決定する

No.	印刷条件
1	プリンタモデル
2	インク
3	インクセット構成 (CMYK、CMYKLcLm、等)
4	メディア
5	解像度

エミュレーションプリンタの印刷準備

1 エミュレーションプリンタの印刷準備をする

(1) 印刷条件を決定する

- なるべくターゲットに近い印刷条件を選択してください。印刷条件が大きく異なる場合はエミュレーションの精度が低下する恐れがあります。

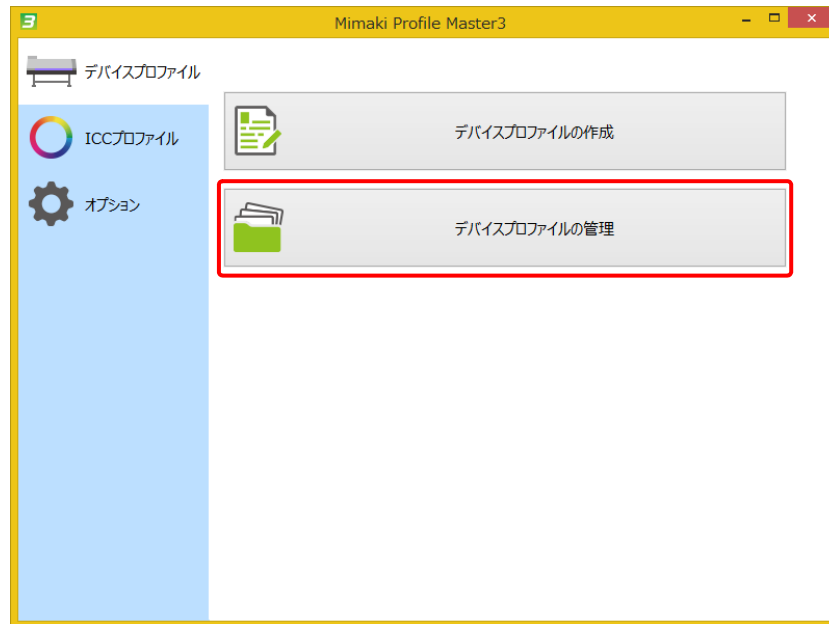
(2) ベースとなるデバイスプロファイルを準備する

- エミュレーションプリンタのデバイスプロファイルを準備します。
以下、ベースデバイスプロファイルと呼びます。

ベースデバイスプロファイルの指定

エミュレーションのベースとなるデバイスプロファイルを指定します。

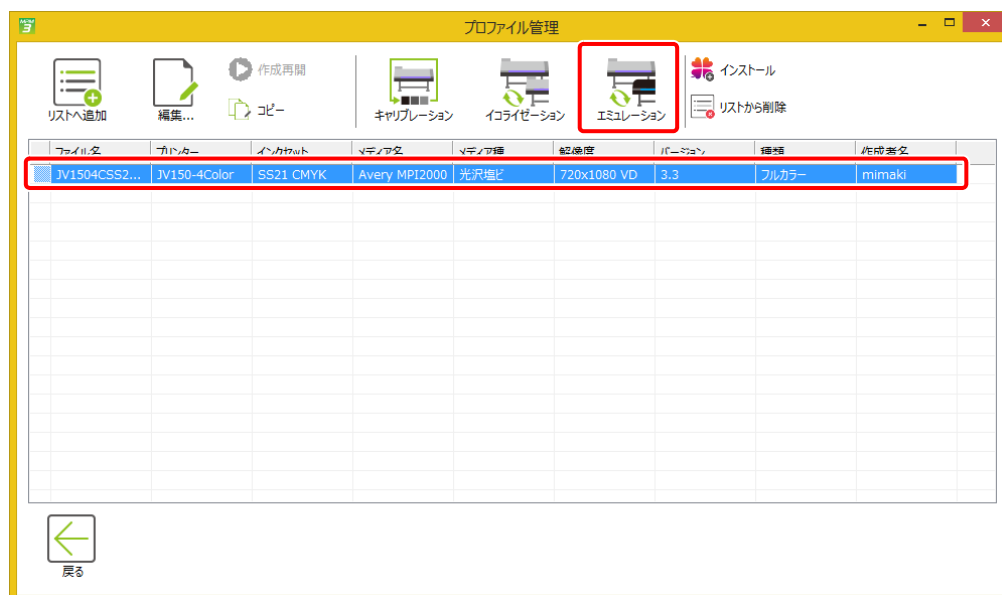
1 [デバイスプロファイルの管理] をクリックする



2 デバイスプロファイルを読み込む

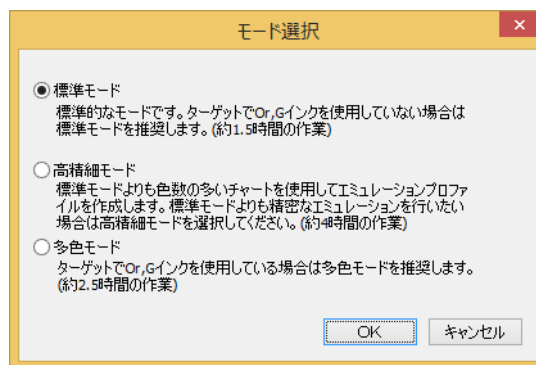
3 ベースのデバイスプロファイルを選択する

4 [エミュレーション] をクリックする



エミュレーションの品質の指定

ポップアップ画面でモード選択します。



エミュレーションプロファイルを作成する

エミュレーションプロファイルの作成設定ステップ

ステップ1：ターゲットプロファイルを作成する

ステップ2：エミュレーションプロファイルのインク濃度を設定する

ステップ3：エミュレーションプロファイルを作成する

ステップ4：精度向上

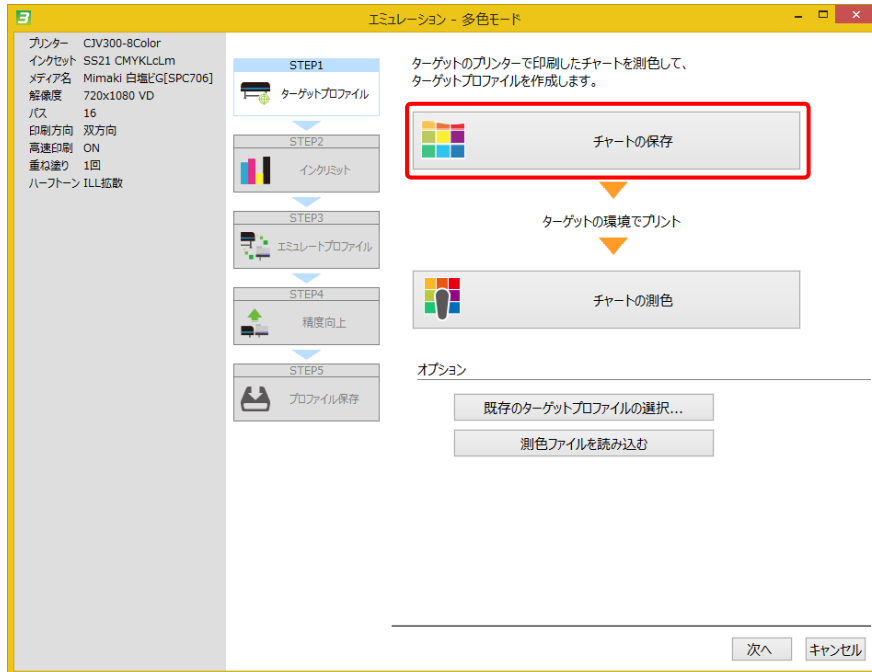
ステップ5：プロファイルを保存する

ステップ1：ターゲットプロファイルを作成する

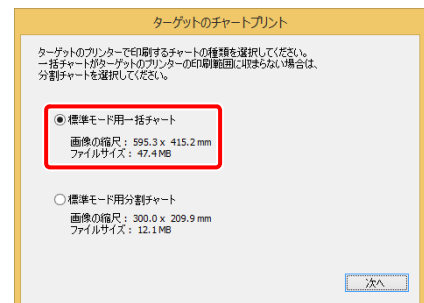
印刷チャートをターゲットプリンタでプリントします。印刷チャートを測色して、ターゲットプロファイルを作成します。ターゲットプリンタでプリントする印刷チャートは画像ファイルとして保存されます。そのデータをターゲットの印刷システムでプリントします。

1 【チャートの保存】をクリックする

- ターゲットプリンタでプリントするデータをファイル保存します。

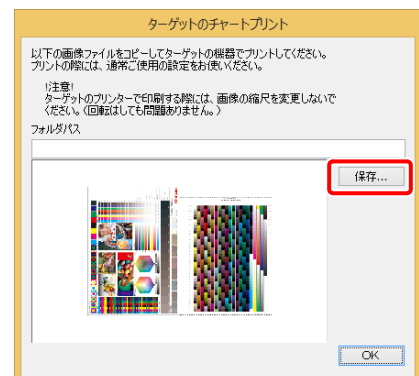


(1) チャートのサイズを選択する



(2) 印刷データをファイル保存する

- フォルダパスのみ指定します。フォルダの中に「EmulationInput_Basic_00x.tif」のようなファイルが保存されます。このファイルをターゲットの印刷システムでプリントしてください。



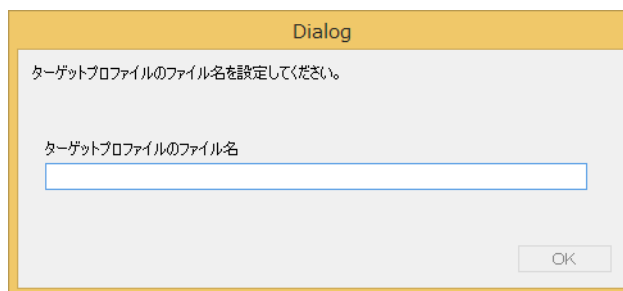
2 チャートを測色する

- ターゲットプリンタでプリントしたチャートを測色します。
- 測色方法は、「13 章 チャートの測色方法」(P. 163) を参照してください。
- チャート測色が終了すると、ターゲットプロファイルが作成されます。
- ターゲットプロファイルの作成が完了すると、ターゲットプロファイルの保存名の入力ポップアップが表示されます。

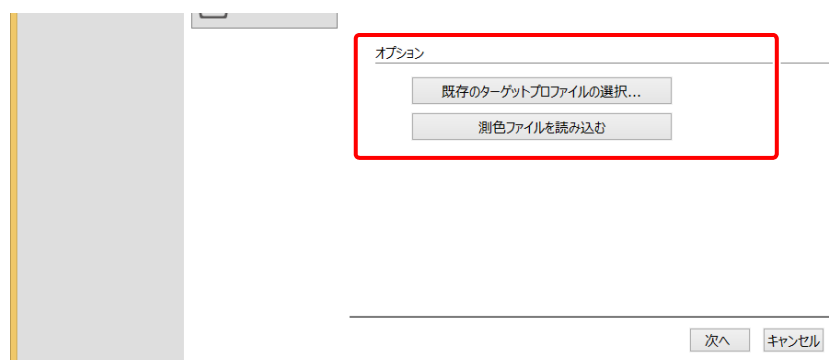


3 ファイル名を指定する

- ターゲットプロファイルは RasterLink の入力プロファイルとなります。



4 オプションの設定をする



既存のターゲットプロファイルの選択
測色ファイルを読み込む

以前作成したターゲットプロファイルを選択できます。
保存してある測色値を読み込むことができます。

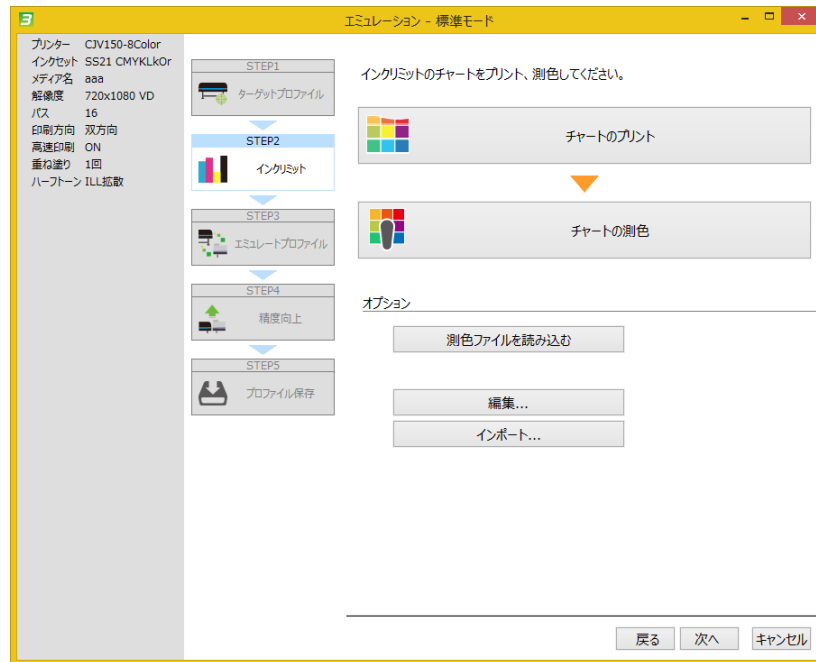
ステップ2：エミュレーションプロファイルのインク濃度を設定する

エミュレーションプリンタにてチャートを印刷、測色することでターゲットの印刷濃度に自動的に合わせます。

操作手順は「6 章 同一プリンタで色を合わせる (キャリブレーション)」の「ステップ1：インクリミットを調整する」(P. 59) を参照してください。



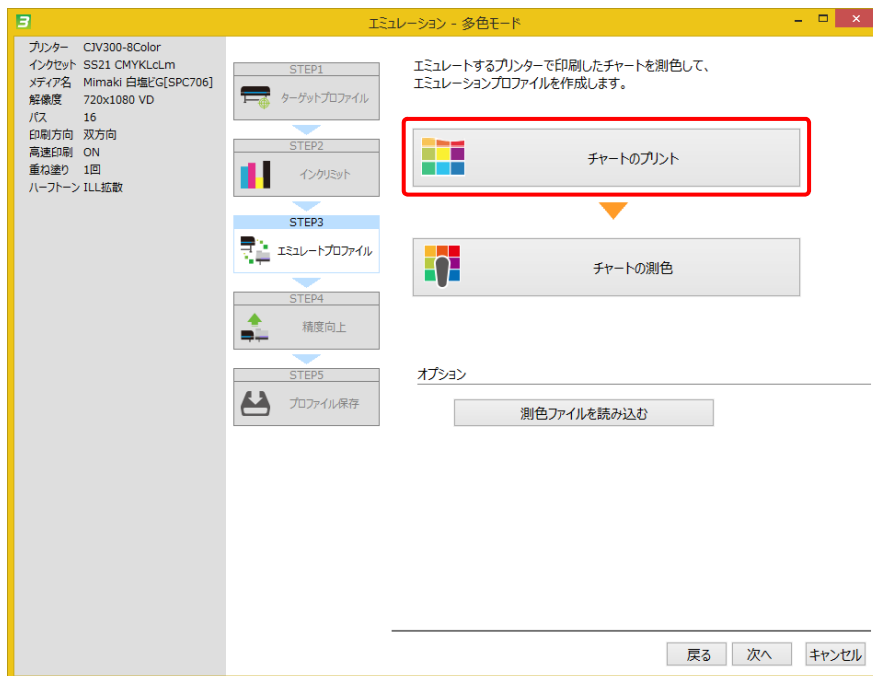
- ターゲットプロファイル作成時、既存のターゲットプロファイルを読み込んだ、もしくはMPM3.1.8 以前に測色した測色値を使って作成した場合、チャートのプリント、チャートの測色は行えません。



ステップ3：エミュレーションプロファイルを作成する

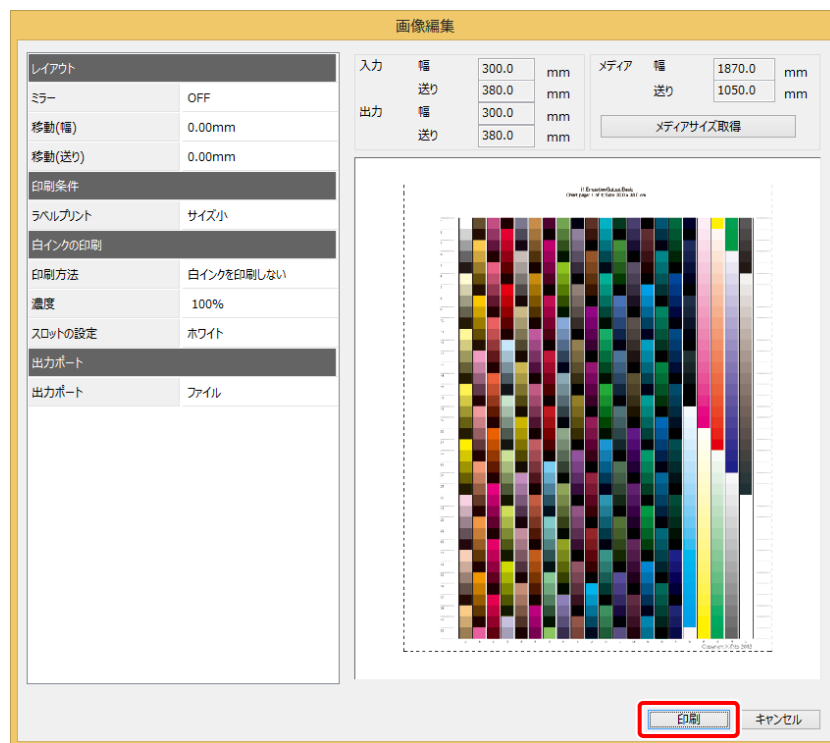
印刷チャートをエミュレーションプリンタでプリントします。印刷チャートを測色して、エミュレーションプロファイルを作成します。

1 「チャートのプリント」をクリックする



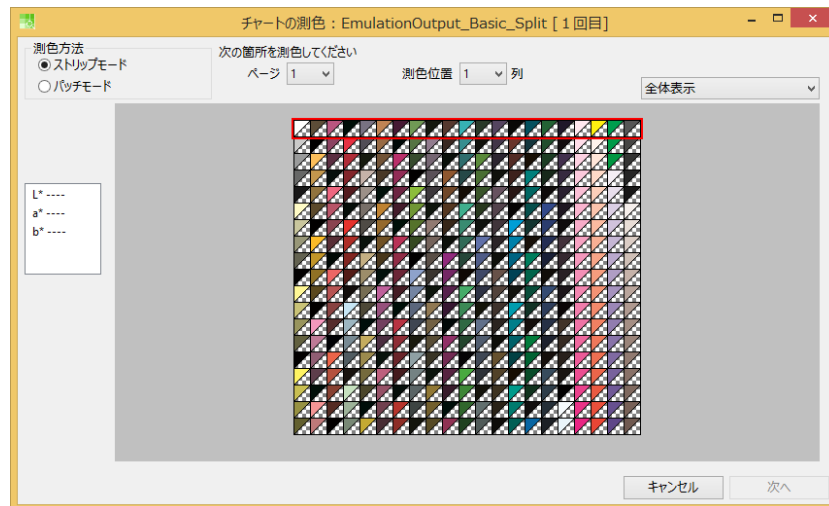
2 「印刷」をクリックして、チャートをプリントする

- ・チャートをエミュレーションプリンタでプリントします。
- ・チャートのプリント方法は、「12章 チャートの印刷方法」(P. 159)を参照してください。



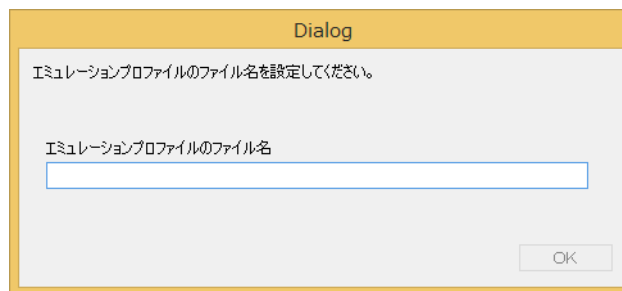
3 チャートを測色する

- エミュレーションプリンタでプリントしたチャートを測色します。
- 測色方法は、「12 章 チャートの印刷方法」(P. 159) を参照してください。
- チャート測色が終了すると、エミュレーションプロファイルが作成されます。
- エミュレーションプロファイルの作成が完了すると、エミュレーションプロファイルの保存名の入力ポップアップが表示されます。



4 ファイル名を指定する

- エミュレーションプロファイルは RasterLink のデバイスプロファイルとなります。

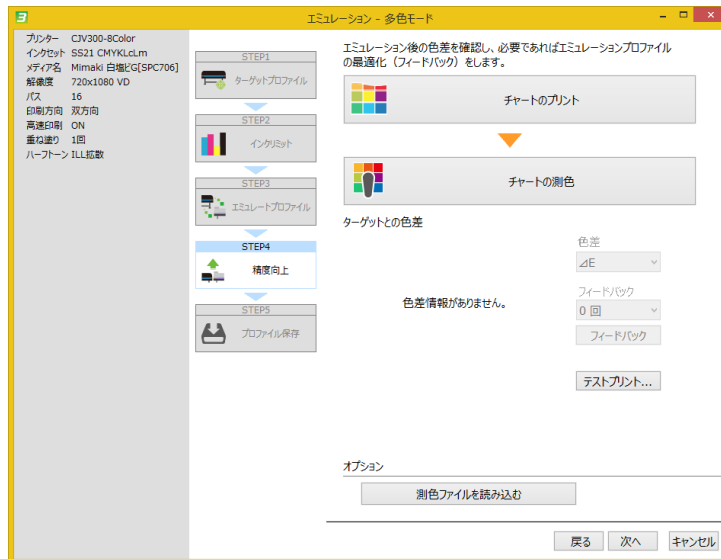


ステップ4：精度向上

エミュレーションした印刷チャートをエミュレーションプリンタでプリントします。印刷チャートを測色して、ターゲットチャートと色差をチェックします。

1 エミュレーションプリンタで、チャートをプリントし測色する

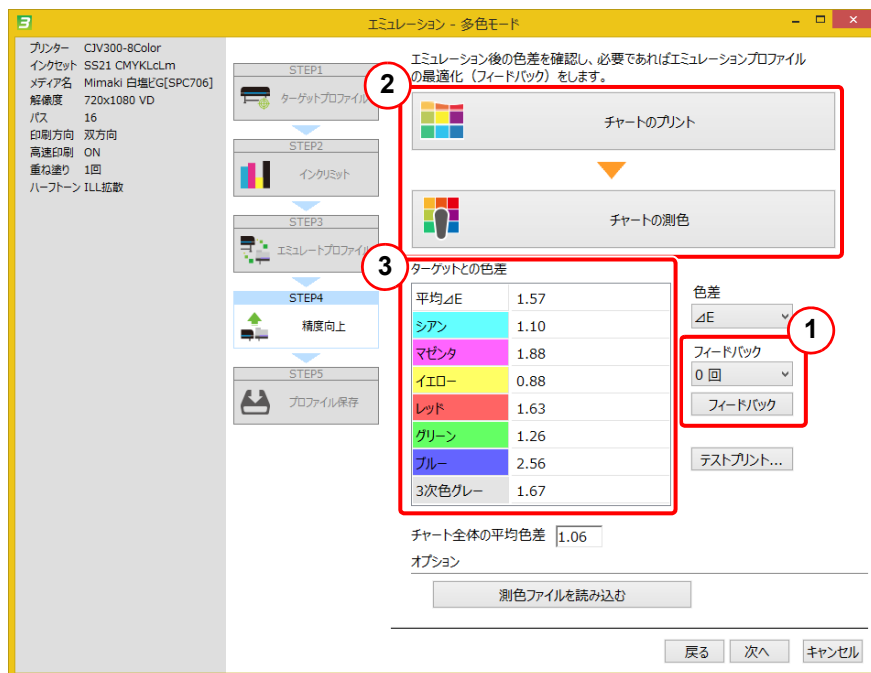
- エミュレーションプリンタでチャートをプリント / 測色することにより、ターゲットとの色差が表示されます。
- チャートのプリントと測色方法は、「ステップ3：エミュレーションプロファイルを作成する」(P. 92) を参照してください。



2 フィードバック機能で、エミュレーションプロファイルを最適化する

・フィードバック機能とは、最新のエミュレーションプロファイルでプリントしたチャートの測色値を使って、エミュレーションプロファイルを最適化する機能です。

- (1) [フィードバック]をクリックして、エミュレーションプロファイルを最適化する
- (2) 再度チャートのプリントと測色を行う
 - ・ターゲットとの色差が更新されます。
 - ・フィードバックをしても色差が変わらないときは最適化の限界となります。

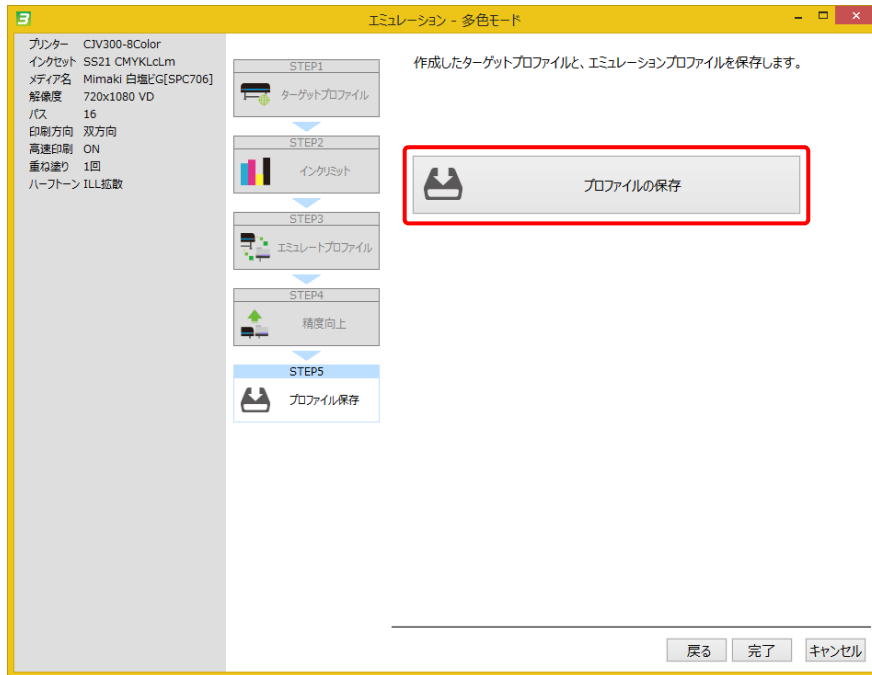


ステップ5：プロファイルを保存する

ターゲットプロファイルとエミュレーションプロファイルを指定されたファイルフォルダに保存します。

1 表示ダイアログに従って、ファイルフォルダを指定する

- 指定したフォルダの中に EmulationYYYYMMDD_HHMMSS（年月日_時分秒）のフォルダが作成されます。
その中にターゲットプロファイル、エミュレーションプロファイル、コメントファイルが保存されます。
- RasterLink のプロファイルマネージャーでは次のように読み込んでください。
ターゲットプロファイル → 入力プロファイル
エミュレーションプロファイル → デバイスプロファイル



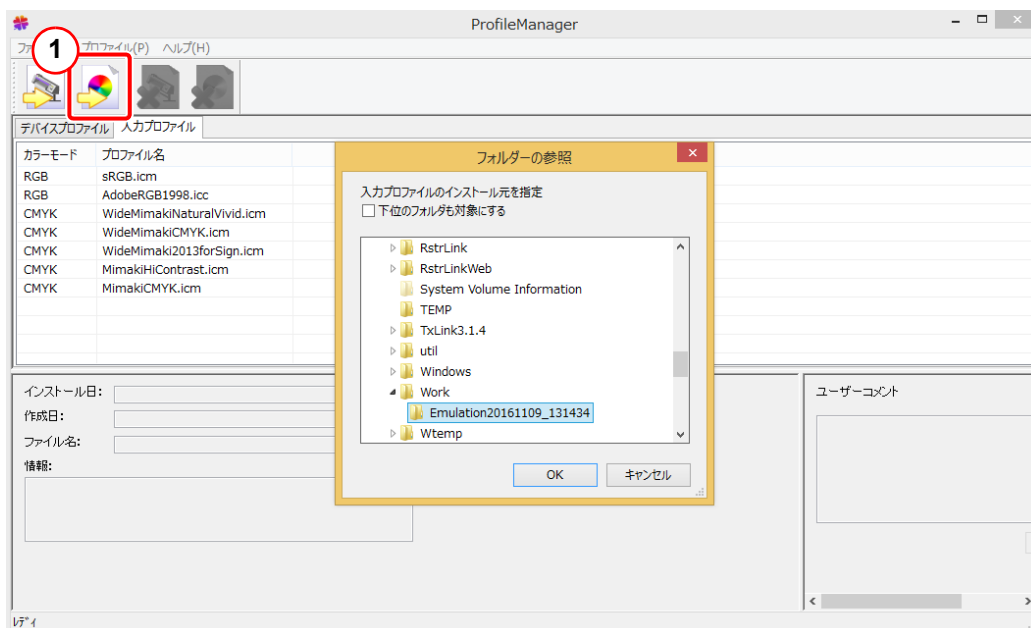
RasterLink で印刷する

保存したターゲットプロファイルとエミュレーションプロファイルを RasterLink にインストールします。印刷条件としてターゲットプロファイル、エミュレーションプロファイルを選択します。

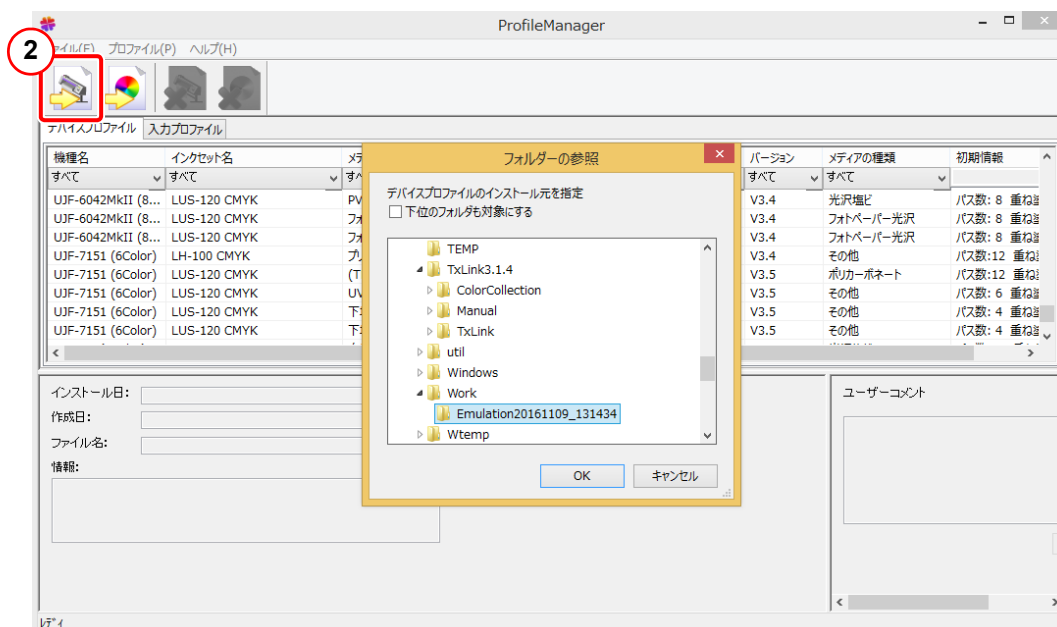
1 RasterLink にターゲットプロファイルとエミュレーションプロファイルをインストールする

RasterLink のプロファイルマネージャを起動します。

- (1) [入力プロファイル] をクリックし、EmulationYYYYMMDD_HHMMSS のフォルダを選択します。表示されたプロファイル一覧からターゲットプロファイルを選択し、インストールします。



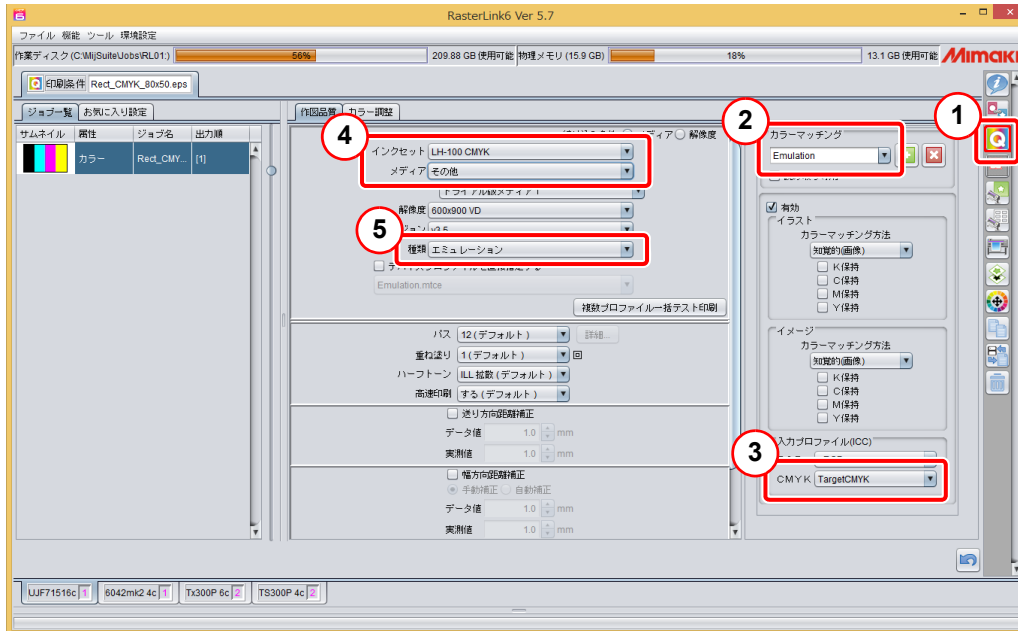
- (2) [出力プロファイル] をクリックし、EmulationYYYYMMDD_HHMMSS のフォルダを選択します。表示されたプロファイル一覧からエミュレーションプロファイルを選択し、インストールします。



2 RasterLink で印刷条件を指定する

RasterLink に印刷したい画像を読み込みます。

- (1) [品質] をクリックします
- (2) カラーマッチング設定にて、新しいカラーマッチングセット名を指定し、[追加] をクリックします
- (3) 入力プロファイル：CMYK でターゲットプロファイルを指定します
- (4) インクセット、メディアをエミュレーションプロファイルの条件に合わせます
- (5) プロファイルが選択されて、種類に「エミュレーション」が表示されます



9 章

新しい色合わせ方法

新しい色合わせ

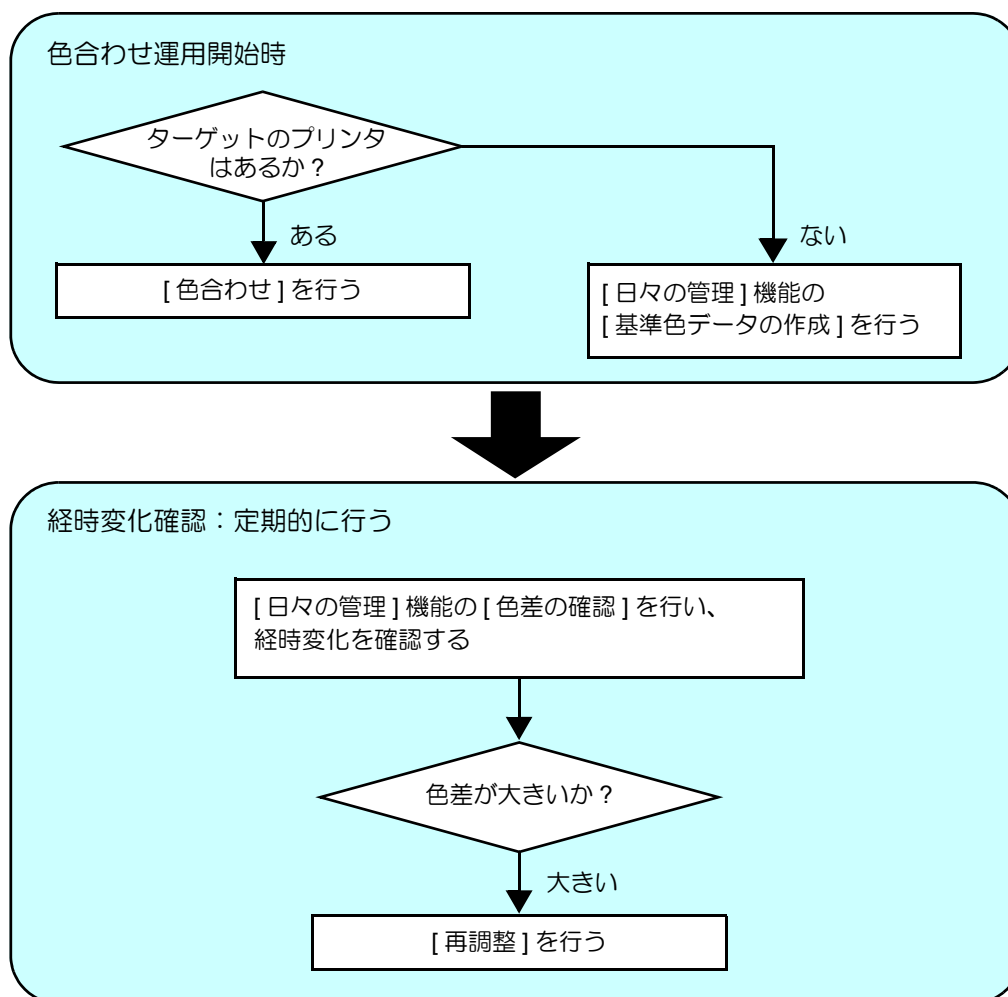
従来の色合わせは、色を合わせる対象別に実行する機能が3つに分かれていました。([キャリブレーション]、[イコライゼーション]、[エミュレーション])

新しい色合わせでは、これらを「色合わせ」機能として統合しました。また、日々のカラー管理は [日々の確認] と [再調整] の2つの独立した機能になっています。

- (重要!)** ・色差計算は D50 光源を想定していますので、ご利用の環境光源とは必ずしも同じ結果になりません。見た目と数値の差はご了承ください。

各機能を行う

[色合わせ]、[日々の確認]、[再調整] の各機能は以下フローに沿って行います。



5 【色合わせ】画面が表示される



色合わせフロー

色合わせのフローは、以下のようにターゲットとなるプリンタで使用している RIP により異なります。

ターゲットの環境で使用している RIP が RasterLink シリーズの場合

ステップ1：ターゲット環境の情報を作成する

- 「ターゲット環境でチャートをプリントする」(P. 106)
- 「ターゲット環境で使ったデバイスプロファイルを読み込む」(P. 107)
- 「ターゲットのチャートを測色する」(P. 108)
- 「情報をファイルに保存する」(P. 109)

ステップ2：イコライゼーションを行う

- 「インクリミットを調整する」(P. 110)
- 「リニアライゼーションを調整する」(P. 111)
- 「グレーバランスを調整する」(P. 111)
- 「イコライゼーションをかけたチャートを印刷し、ターゲット環境との色差を確認する」(P. 112)

色差確認し、良ければステップ4へ、悪ければステップ3へ進む

ステップ3：エミュレーションを行う

- 「ターゲットプロファイルを作成する」(P. 113)
- 「エミュレーションプロファイルを作成する」(P. 113)
- 「精度向上を行う」(P. 114)

ステップ4：プロファイルを保存する

- 「メディア名を選択する」(P. 114)
- 「プロファイルを保存する」(P. 115)

ターゲットの環境で使用している RIP が RasterLink シリーズ以外の場合

ステップ1：ターゲット環境の情報を作成する

「ターゲット環境でチャートをプリントする」(P. 117)

「ターゲットのチャートを測色する」(P. 117)

「情報をファイルに保存する」(P. 118)

ステップ2：エミュレーションを行う

「ターゲットプロファイルを作成する」(P. 119)

「インクリミットを調整する」(P. 120)

「エミュレーションプロファイルを作成する」(P. 120)

「精度向上を行う」(P. 121)

ステップ3：ファイルを保存する

「メディア名を選択する」(P. 122)

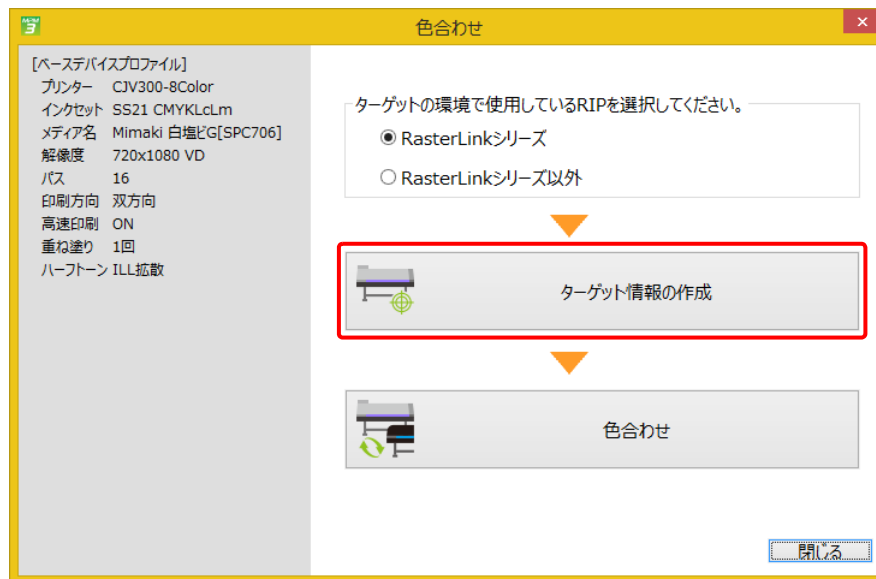
「ファイルを保存する」(P. 122)

色合わせの方法

ターゲット環境で使用している RIP が RasterLink シリーズの場合の色合わせ
起動

1 [色合わせ] 画面にて、"RasterLink シリーズ" を選択する

2 [ターゲット情報の作成] をクリックする



3 [ターゲット情報の作成] 画面が表示される

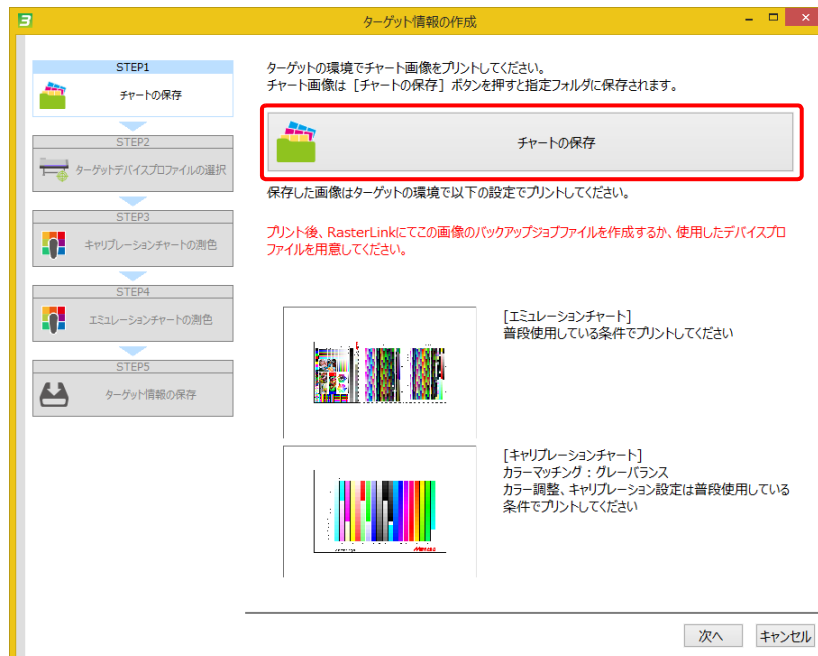
ステップ1：ターゲット環境の情報を作成する

1 ターゲット環境でチャートをプリントする

- ・ターゲットで印刷する画像を保存します。

(1) [チャートの保存] をクリックする

詳細は「[チャートの保存] をクリックする」(P. 89) を参照してください。



(2) 保存した画像ファイルを、以下条件でターゲット環境にて RasterLink シリーズを用いてプリントする

(重要!)

・【エミュレーションチャート】

カラーマッチング：普段使用している設定

その他の設定（デバイスプロファイル、カラーマッチング、パス、印刷方向、カラー調整セット等）も普段使用している設定でプリントします。

・【キャリブレーションチャート】

カラーマッチング：グレーバランス

その他の設定（デバイスプロファイル、カラーマッチング、パス、印刷方向、カラー調整セット等）は普段使用している設定でプリントします。

(3) プリント後、RasterLink から以下のいずれかのファイルを取得する

- ・プリントしたチャートのバックアップジョブファイル
- ・プリントした際に使用したデバイスプロファイル

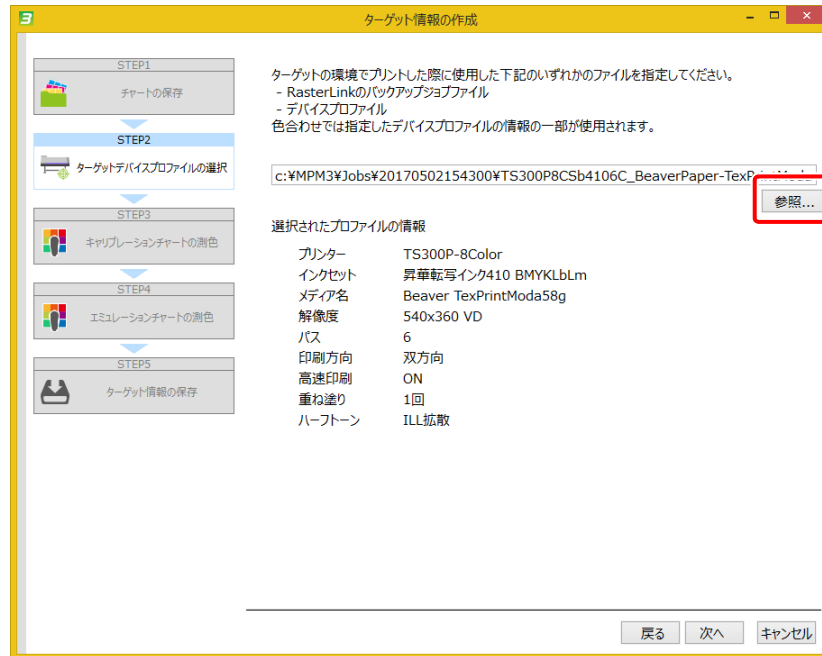
(4) [次へ] をクリックする

2 ターゲット環境で使ったデバイスプロファイルを読み込む

ターゲットの環境でチャートを印刷した際に使用した以下のいずれかのファイルを読み込みます。

- プリントしたチャートのバックアップジョブファイル
- プリントした際に使用したデバイスプロファイル

(1) [参照 ...] をクリックして、上記のファイルを選択する

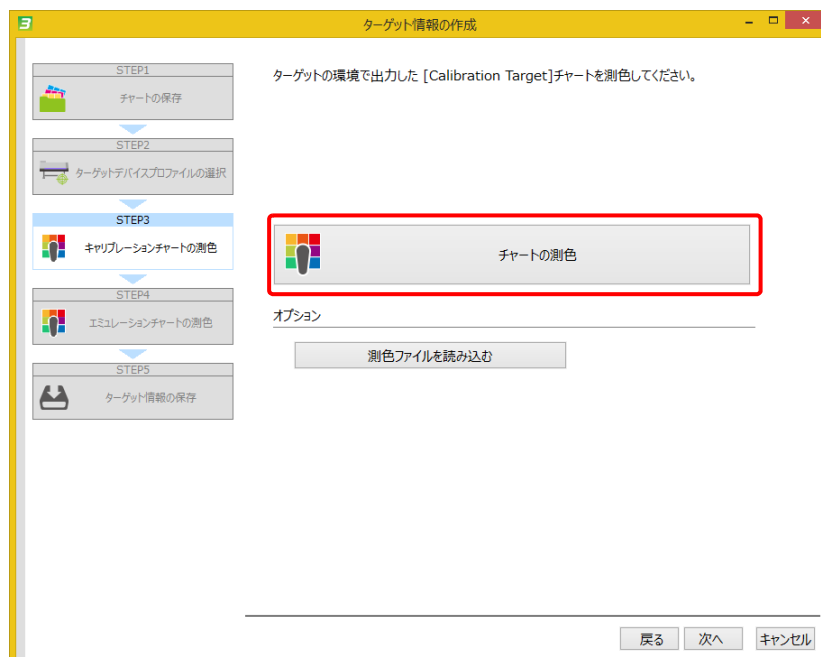


(2) [次へ] をクリックする

3 ターゲットのチャートを測色する

- ターゲットの環境でプリントしたキャリブレーションターゲットチャートを測色します。

(1) [チャートの測色] をクリックする

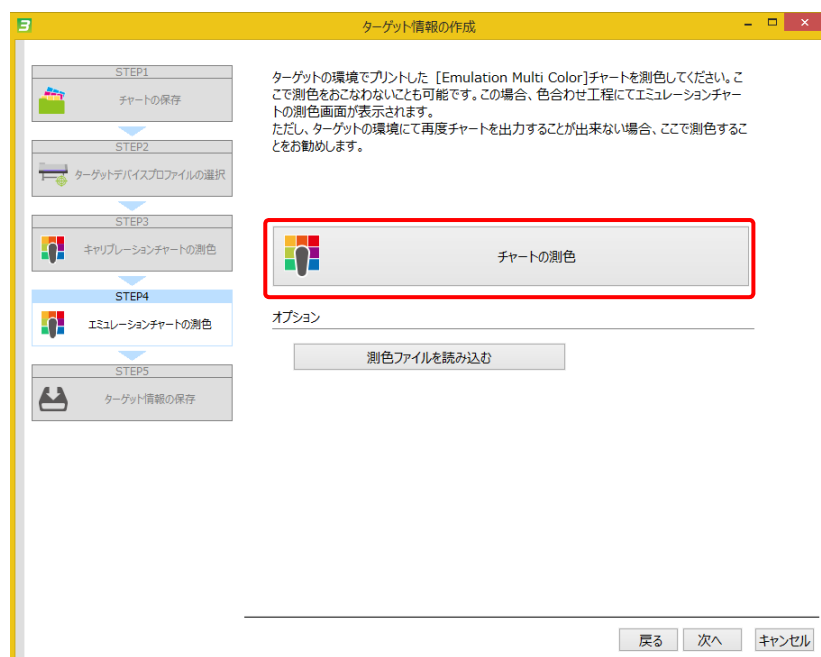


(2) [次へ] をクリックする

(3) ターゲットの環境でプリントしたエミュレーションチャートを測色する
操作手順は「13 章 チャートの測色方法」(P. 163) を参照してください。



- このページで測色を行わないことも可能です。その場合、後の工程で必要であれば、エミュレーションチャートの測色画面が表示されます。ただし、ターゲットの環境で再度チャートを測色することが難しい場合、ここで測色することをお勧めします。

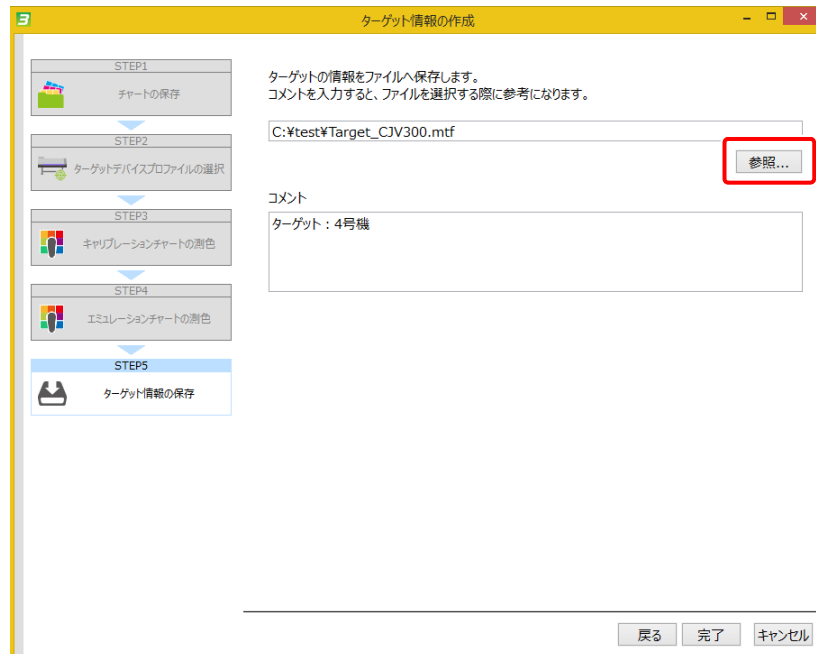


(4) [次へ] をクリックする

4 情報をファイルに保存する

- ターゲット情報ファイル（mtf ファイル）を保存します。

(1) [参照 ...] をクリックして、保存先を指定する



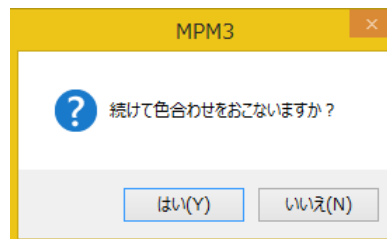
(2) [完了] をクリックする

- ターゲット情報ファイルが指定先に保存されます

(3) 以下のメッセージ画面が表示される

- 続けて色合わせを行う場合
- ターゲット情報の作成だけで一旦終了する場合

[はい] をクリックします。
[いいえ] をクリックします。
[色合わせ] のメイン画面に戻ります。



ステップ2：イコライゼーションを行う

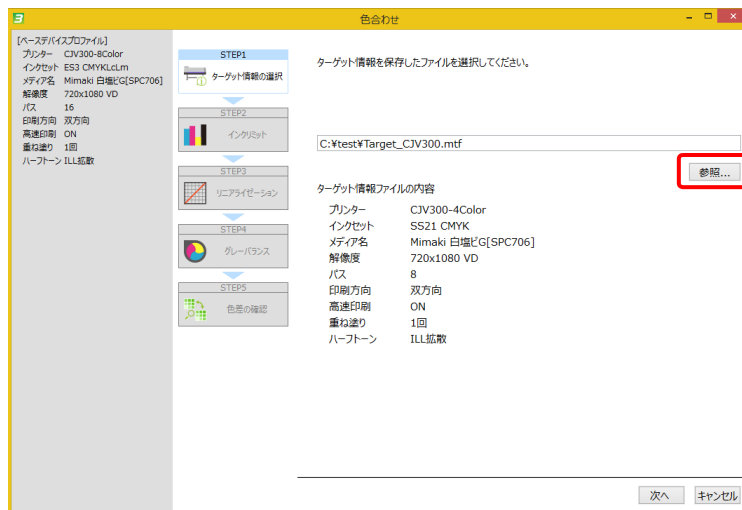
1 ターゲット情報ファイルを指定する



- ・ステップ1から引き続き行っている場合は、2へ進んでください。

(1) [参照...]をクリックして、ファイルを選択する

- ・ターゲットで使用していたデバイスプロファイルの情報が表示されます。



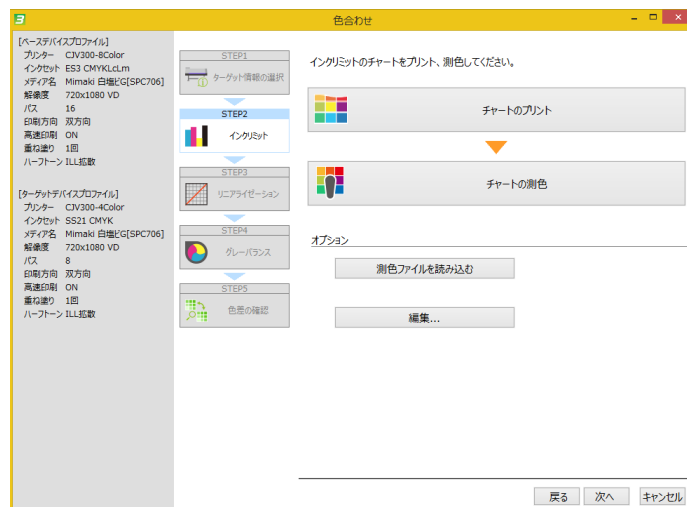
(2) [次へ]をクリックする

2 インクリミットを調整する

(1) 色合わせを行うプリンタと接続し、キャリブレーションインクリミットチャートをプリントする

(2) プリントしたチャートを測色する

操作手順は「13章 チャートの測色方法」(P. 163)を参照してください。



(3) [次へ]をクリックする

3 リニアライゼーションを調整する

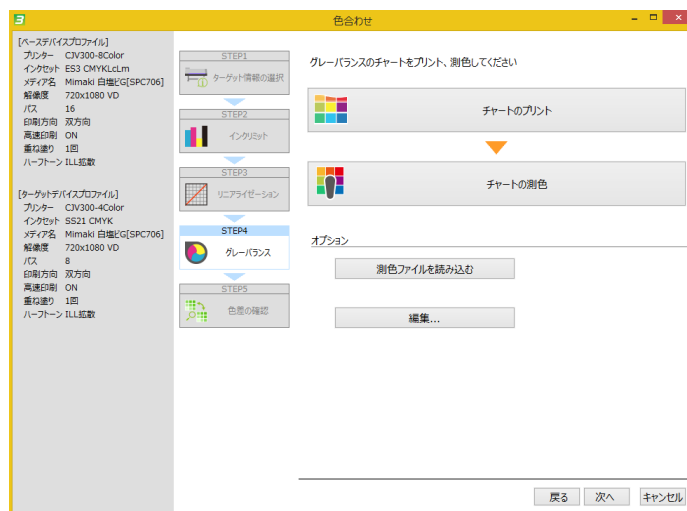
- (1) 色合わせを行うプリンタと接続し、リニアライゼーションチャートをプリントする
- (2) プリントしたチャートを測色する
操作手順は「13章 チャートの測色方法」(P. 163)を参照してください。



- (3) [次へ] をクリックする

4 グレーバランスを調整する

- (1) 色合わせを行うプリンタと接続し、グレーバランスチャートをプリントする
- (2) プリントしたチャートを測色する
操作手順は「13章 チャートの測色方法」(P. 163)を参照してください。



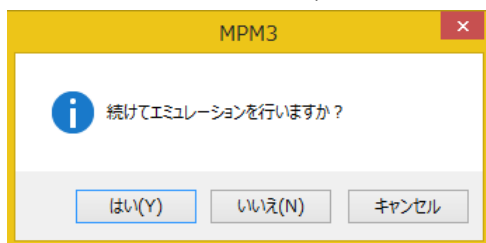
- (3) [次へ] をクリックする

5 イコライゼーションをかけたチャートを印刷し、ターゲット環境との色差を確認する

- (1) 色合わせを行うプリンタと接続し、キャリブレーションチャートをプリントする
- (2) プリントしたチャートを測色する
- (3) ターゲットとの色差が表示される
- (4) 色差が許容できるか確認する



- (5) [完了] をクリックすると以下のメッセージが表示される
 - ・色差が許容できない場合 [はい] をクリックし、エミュレーションを行います (→ 次ページへ)
 - ・色差が許容できる場合 [いいえ] をクリックします
ファイルの保存画面が表示されます (→ 「情報をファイルに保存する」(P. 109) へ)

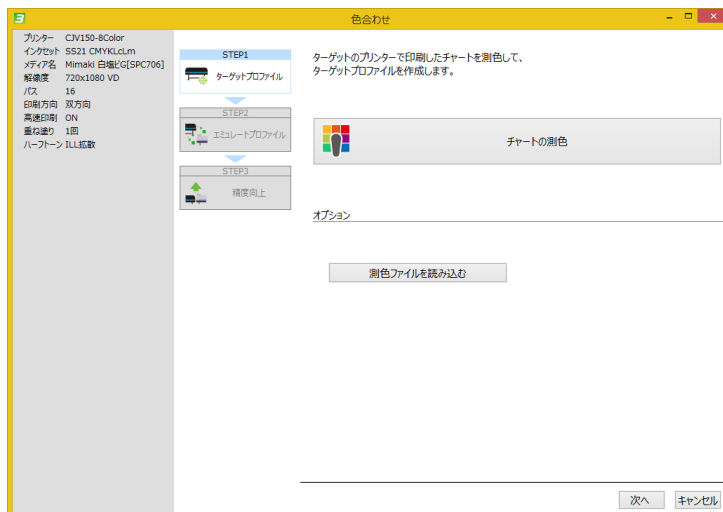


ステップ3：エミュレーションを行う

1 ターゲットプロファイルを作成する

- (1) ターゲット情報作成時にエミュレーションチャートを測色したかどうかで、表示されるボタンが異なる

- ・ 測色していない場合 [チャートの測色]が表示されるので測色します
- ・ 測色した場合 2の[エミュレーションプロファイルの作成]が表示されます。
[チャートのプリント]をクリックすると、測色データを元にプロファイルが作成されます。



- (2) プロファイルを作成後、ファイル名入力画面が表示される

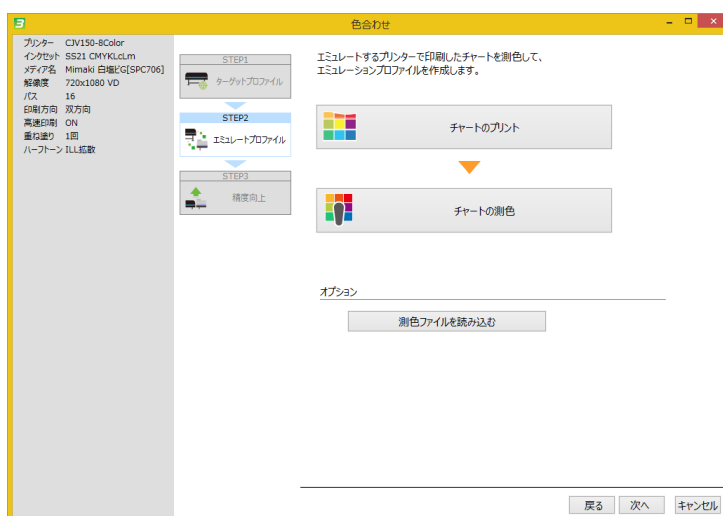
- ・ ファイル名を入力する

- (3) [次へ]をクリックする

2 エミュレーションプロファイルを作成する

- (1) エミュレーションプロファイルを作成する

作成手順は「ステップ3：エミュレーションプロファイルを作成する」(P. 92)を参照してください。

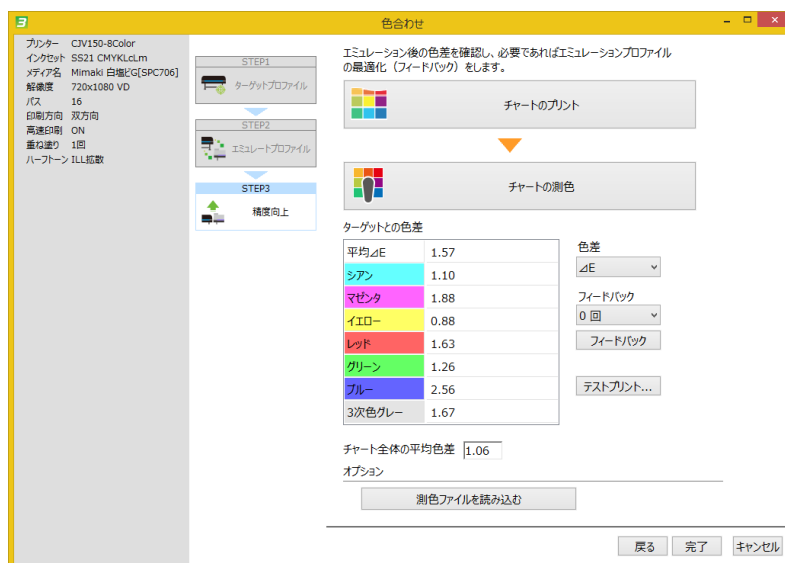


- (2) [次へ]をクリックする

3 精度向上を行う

(1) 精度向上を行う

手順は「ステップ4：精度向上」（P. 93）を参照してください。



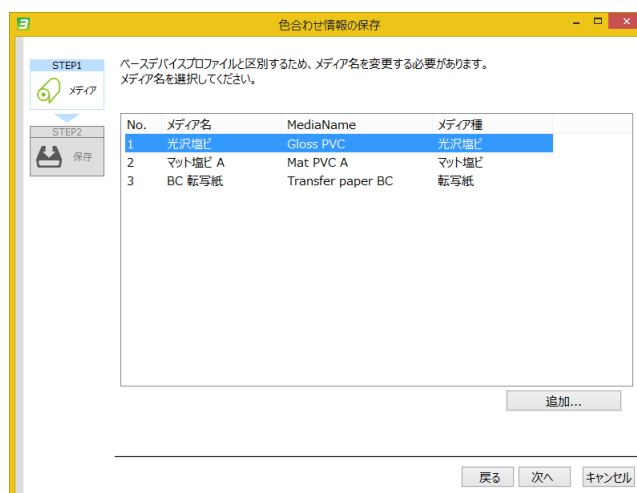
(2) [完了] をクリックする

ステップ4：プロファイルを保存する

1 メディア名を選択する

(1) メディア名を選択する

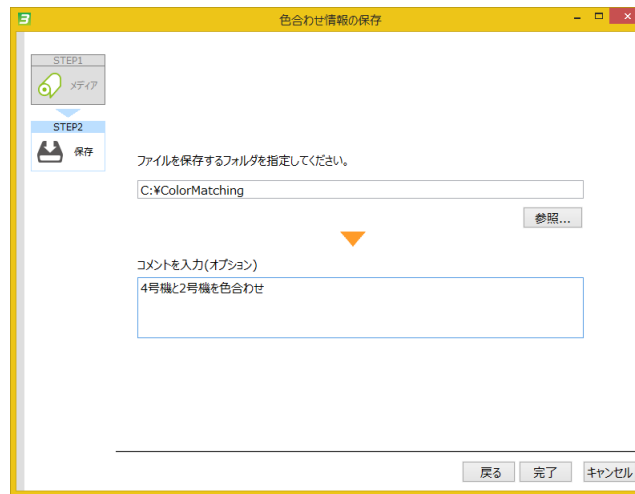
作成されたデバイスプロファイルは、ベースプロファイルと区別するために、メディア名を変更し別ファイルとして保存します。



(2) [次へ] をクリックする

2 プロファイルを保存する

- (1) イコライゼーションまでおこなった場合 デバイスプロファイル名と保存先フォルダを指定する
 エミュレーションまでおこなった場合 保存先フォルダのみを指定する



- (2) [完了] をクリックする
 ・ ファイルが保存されます。



保存されるファイルについて

イコライゼーションまでおこなった場合、以下のファイルが保存されます。

- ・ デバイスプロファイル (*.icc)：ターゲット情報が基準色として保存されます。
- ・ 色合わせ情報を記載したテキストファイル
- ・ 測色値ファイル

エミュレーションまでおこなった場合、以下のファイルが保存されます。

- ・ ターゲットプロファイル (*.icm)
- ・ エミュレーションプロファイル (*.mtce)：ターゲットの情報が基準色として保存されます。
- ・ 色合わせ情報を記載したテキストファイル
- ・ 測色値ファイル

ターゲット環境で使用している RIP が RasterLink シリーズの以外の場合の色合わせ 起動

1 [色合わせ] 画面で "RasterLink シリーズ以外" を選択する

2 [ターゲット情報の作成] をクリックする



3 [ターゲット情報の作成] 画面が表示される

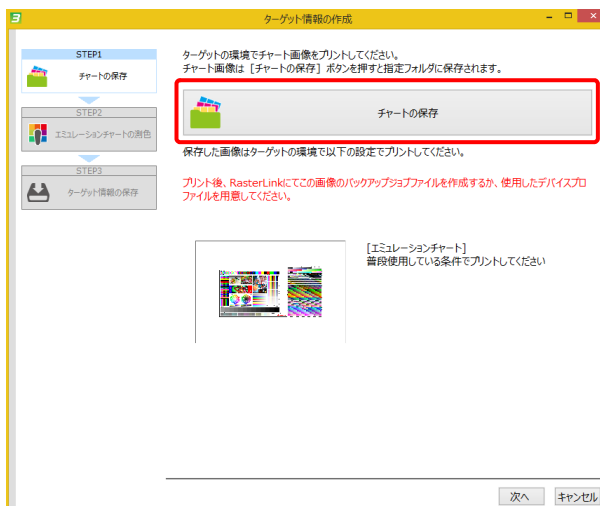
ステップ1：ターゲット環境の情報を作成する

1 ターゲット環境でチャートをプリントする

- ・ターゲットで印刷する画像を保存します。

(1) [チャートの保存] をクリックする

詳細は「[チャートの保存] をクリックする」(P. 89) を参照してください。



(2) 保存した画像ファイルをターゲット環境にて、普段使用する設定（プロファイル、カラーマッピング、印刷条件、カラー調整等）を使ってプリントする

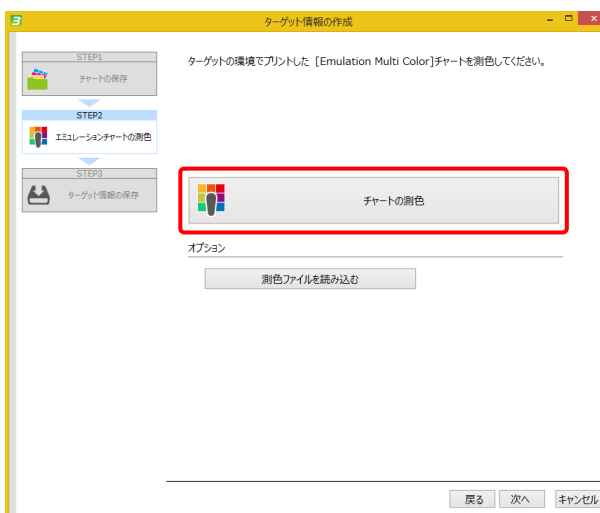
(3) [次へ] をクリックする

2 ターゲットのチャートを測色する

- ・ターゲットの環境でプリントしたエミュレーションチャートを測色します。

(1) [チャートの測色] をクリックする

操作手順は「13 章 チャートの測色方法」(P. 163) を参照してください。

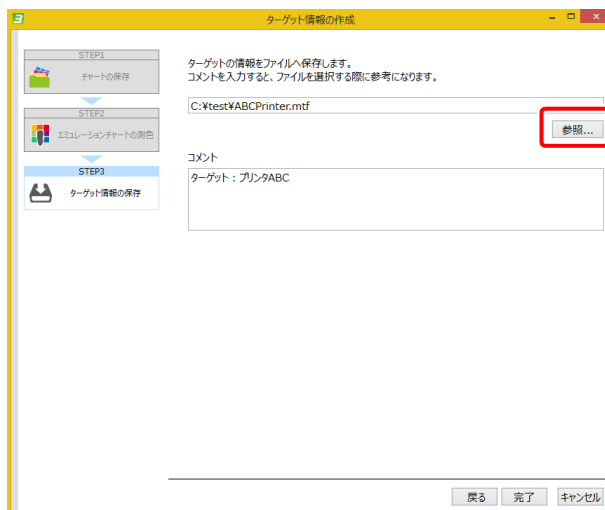


(2) [次へ] をクリックする

3 情報をファイルに保存する

- ・ターゲット情報ファイル（mtf ファイル）を保存します。

(1) [参照 ...] をクリックし、保存先を指定する



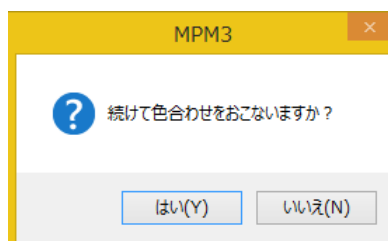
(2) [完了] をクリックする

- ・ターゲット情報ファイルが指定先に保存されます

(3) 以下のメッセージ画面が表示される

- ・続けて色合わせを行う場合
- ・ターゲット情報の作成だけで一旦終了する場合

[はい] をクリックします
[いいえ] をクリックします。
[色合わせ] のメイン画面に戻ります。



ステップ2：エミュレーションを行う

1 ターゲット情報ファイルを指定する



- ・ ステップ1から引き続き行っている場合は、2へ進んでください。

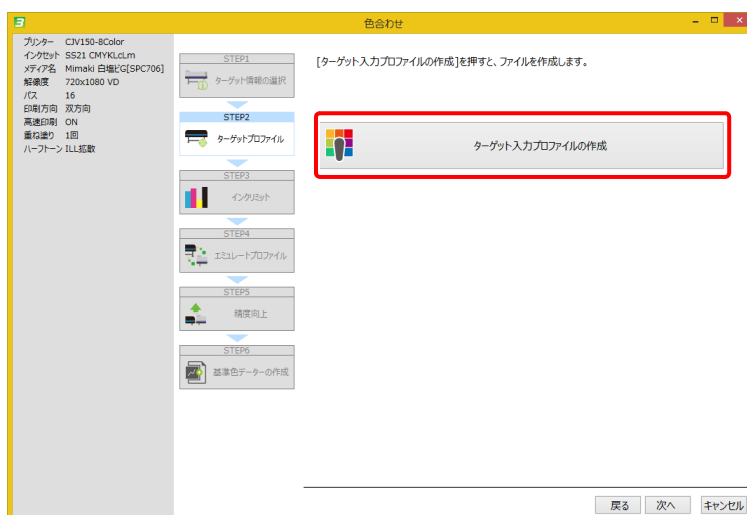
(1) [参照...]をクリックし、ファイルを選択する



(2) [次へ]をクリックする

2 ターゲットプロファイルを作成する

(1) [ターゲット入力プロファイルの作成]をクリックし、測色データからプロファイルを作成する



(2) プロファイルを作成後、ファイル名入力画面が表示される

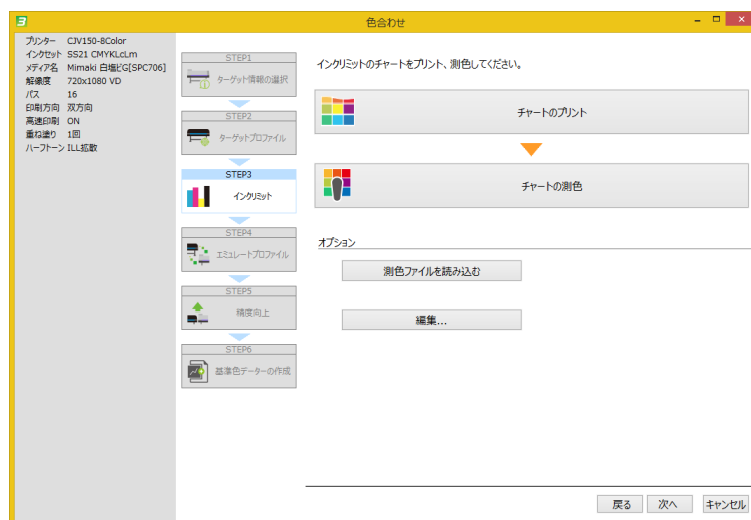
- ・ ファイル名を入力する

(3) [次へ]をクリックする

3 インクリミットを調整する

- ・エミュレーション環境でインクリミットを設定します。

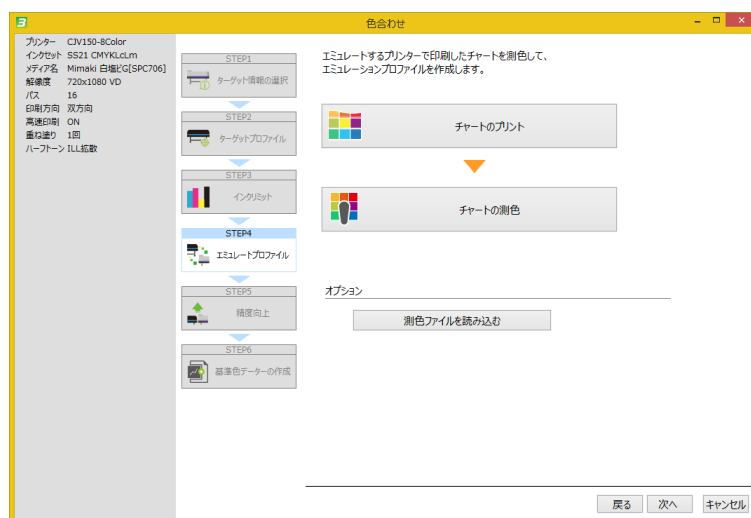
- (1) 色合わせを行うプリンタと接続し、キャリブレーションインクリミットチャートをプリントする
- (2) プリントしたチャートを測色する
操作手順は「13 章 チャートの測色方法」(P. 163) を参照してください。



- (3) [次へ] をクリックする

4 エミュレーションプロファイルを作成する

- (1) エミュレーションプロファイルを作成する
作成手順は「ステップ3：エミュレーションプロファイルを作成する」(P. 92) を参照してください。

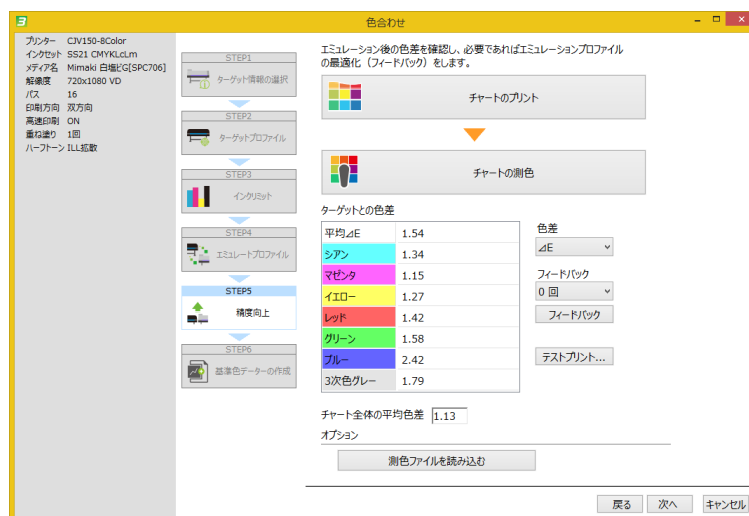


- (2) [次へ] をクリックする

5 精度向上を行う

(1) 精度向上を行う

作成手順は「ステップ4：精度向上」（P. 93）を参照してください。

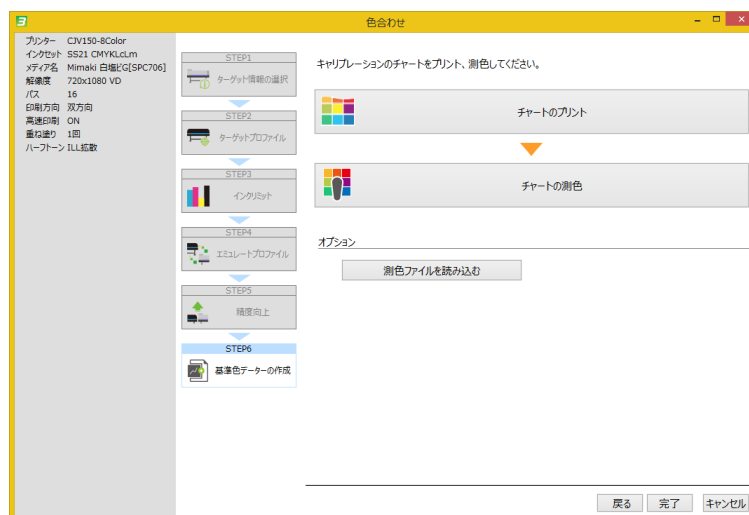


(2) [次へ] をクリックする

6 基準色データの作成を行う

(1) 以降の色合わせ運用のため、現在の色を基準色として保存する

作成手順は「[基準色データの作成] をクリックし、キャリブレーションチャートを測色する」（P. 53）を参照してください。



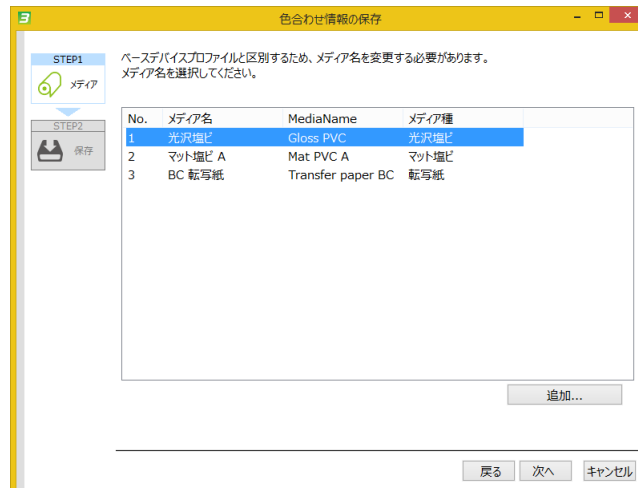
(2) [完了] をクリックする

ステップ3：ファイルを保存する

1 メディア名を選択する

- 作成されたデバイスプロファイルは、ベースプロファイルと区別するために、メディア名を変更し別ファイルとして保存します。

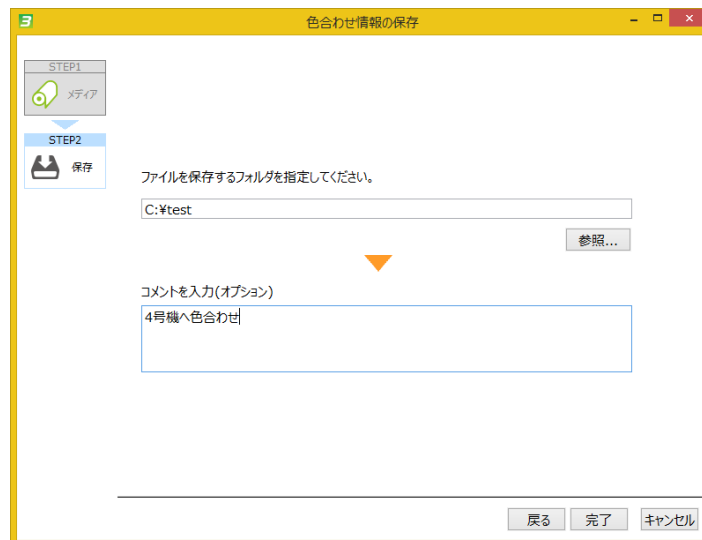
(1) メディア名を選択する



(2) [次へ] をクリックする

2 ファイルを保存する

(1) 保存先フォルダを指定する



(2) [完了] をクリックする

- ファイルが保存されます。



保存されるファイルについて
以下のファイルが保存されます。

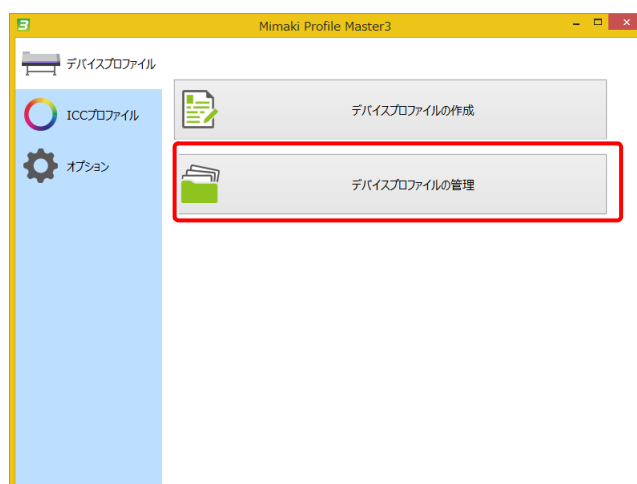
- ターゲットプロファイル (*.icm)
- エミュレーションプロファイル (*.mtce) : 「基準色データの作成を行う」(P. 121) で作成したデータが基準色として保存されます
- 色合わせ情報を記載したテキストファイル
- 測色値ファイル

日々の確認

デバイスプロファイル／エミュレーションプロファイル内の基準色をターゲットとして、経時変化を確認できます。

[日々の確認] 機能の起動

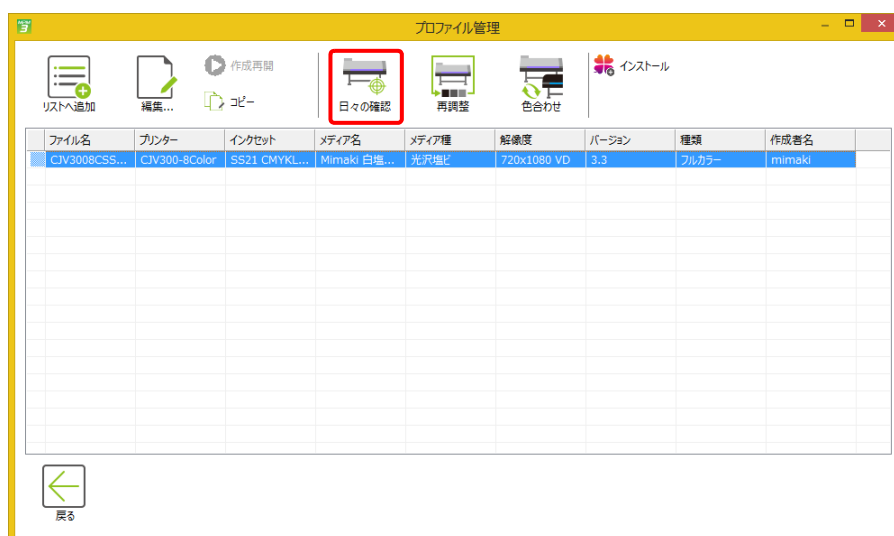
1 [デバイスプロファイルの管理] をクリックする



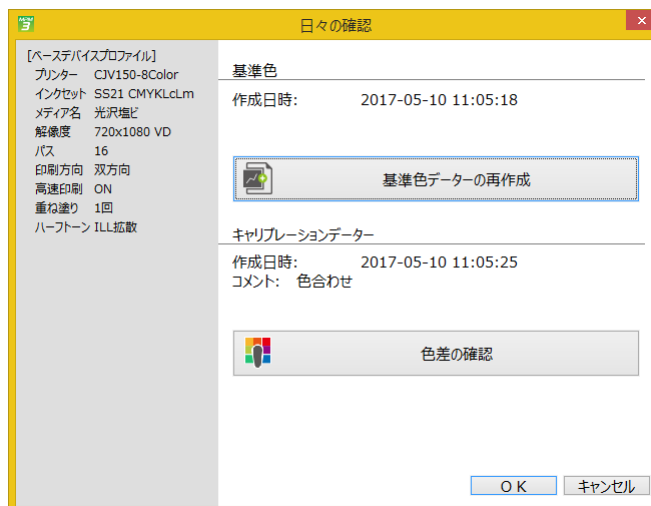
2 デバイスプロファイルを読み込む

3 [日々の確認] を行うデバイスプロファイルを選択する

4 [日々の確認] をクリックする



5 【日々の確認】画面が表示される

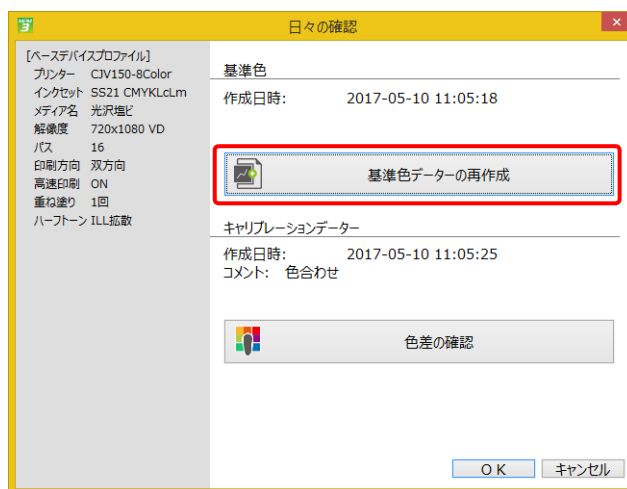
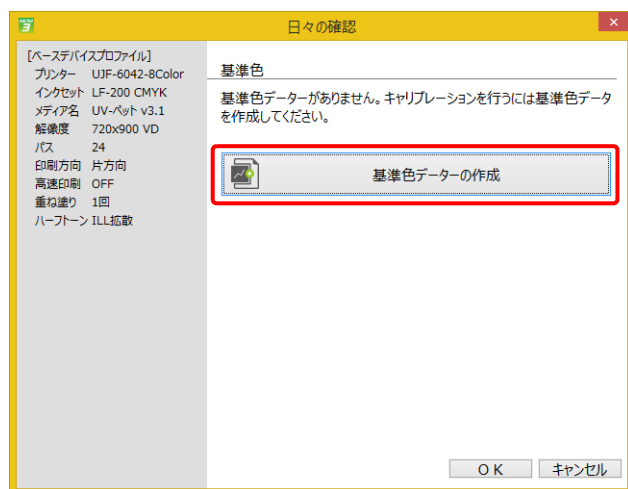


基準色の作成／再作成

基準色が設定されてない場合、現在のプリンタの色を基準色としてプロファイルに保存します。
また、基準色を取り直すこともできます。

基準色を新規作成する場合は [基準色データの作成]、再作成する場合は [基準色データの再作成] をクリックしてください。

作成方法については「キャリブレーション基準カラーを設定する」(P. 53) をご覧ください。



色差の確認

日々の色差確認を行います。

作成方法については「キャリブレーションの運用」(P. 64) を参照してください。

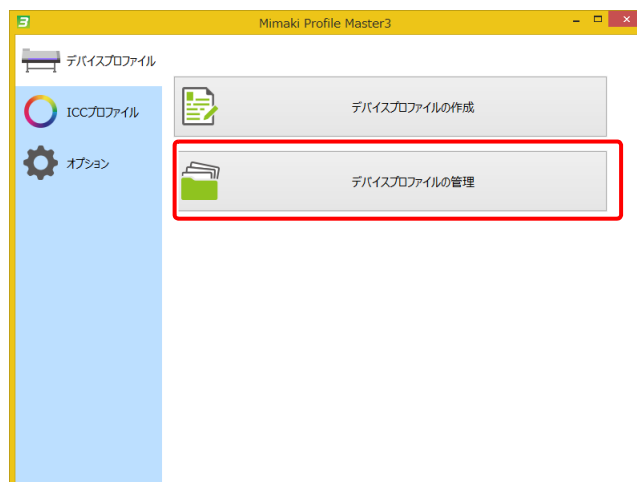
色差が許容でなくなった場合、次ページの [再調整] を行ってください。

再調整

[日々の確認]にて色差が大きくなってきた場合、[再調整]を行います。

[再調整]機能の起動

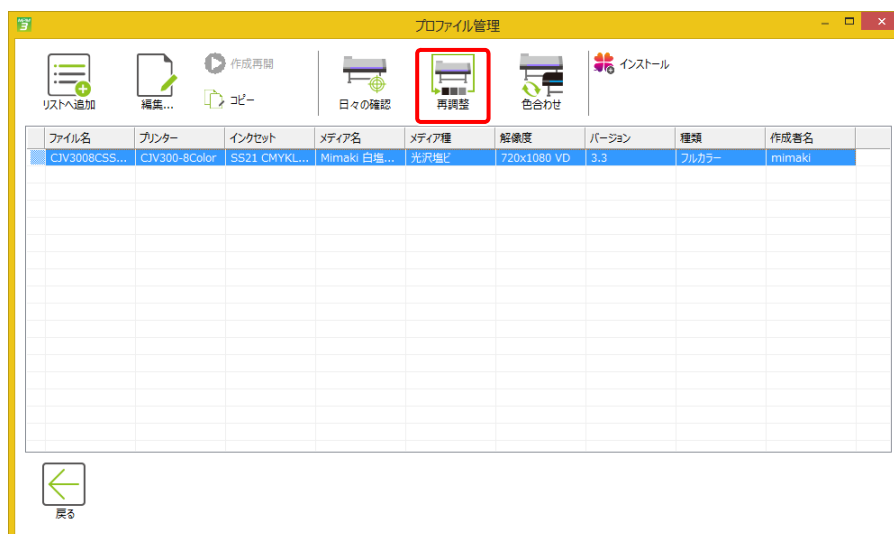
1 [デバイスプロファイルの管理]をクリックする



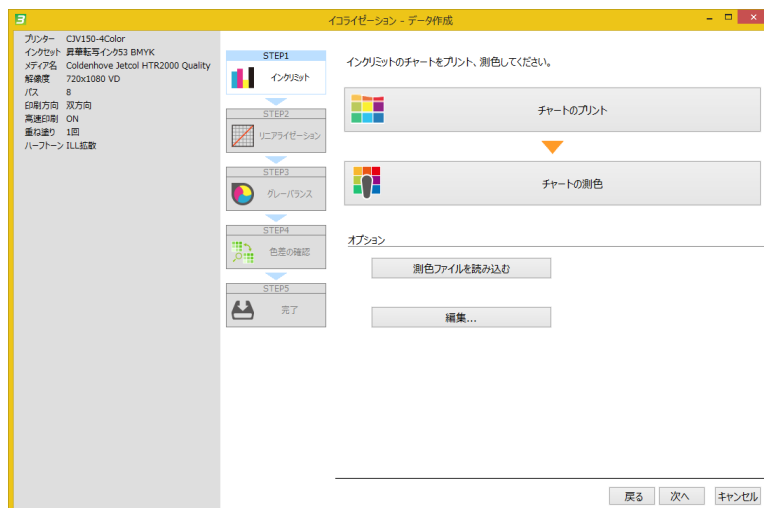
2 デバイスプロファイルを読み込む

3 [再調整]を行うデバイスプロファイルを選択する

4 [再調整]をクリックする



5 【再調整】画面が表示される



再調整の手順

手順は「キャリブレーション設定」の「ステップ 1: インクリミットを調整する」(P. 59)～を参照してください。

10 章

ICC プロファイルを作成 する

作成できる ICC プロファイル

MPM3 では以下の 3 種類のプロファイルが作成できます。

プロファイルの種類	詳細
CMYK プロファイル	・ カラーシミュレーション機能で、CMYK カラー画像をモニター上に表示するためのプロファイル 「CMYK プロファイルを作成する」(P. 130) ・ ICC プロファイルに対応した他社 RIP アプリケーション用の出力プロファイル
RGB プロファイル	・ カラーシミュレーション機能で RGB カラー画像をモニター上に表示するためのプロファイル 「RGB プロファイルを作成する」(P. 134) ・ プリンタドライバを使用している校正用プリンタの出力プロファイル
モニタープロファイル	・ 色をモニターで再現するためのプロファイル 「モニタープロファイルを作成する」(P. 137)

ICC プロファイル作成の流れ

CMYK プロファイル / RGB プロファイルの作成

MPM3 でチャート画像を保存する



対象環境でチャート画像を印刷する



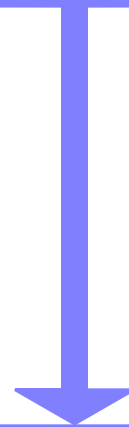
MPM3 で印刷したチャート画像を測色する



ICC プロファイルを保存する

モニタープロファイルの作成

MPM3 で画面を測色する

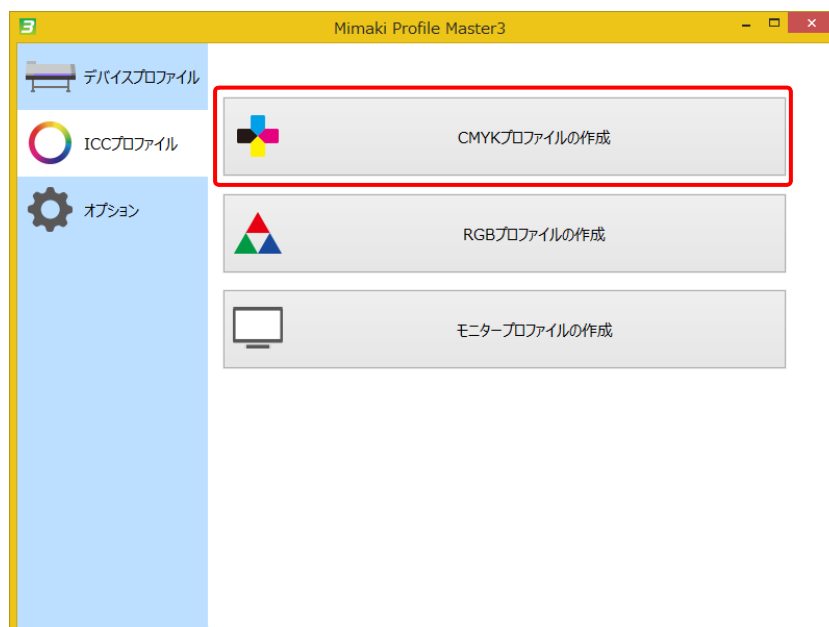


ICC プロファイルを保存する

CMYK プロファイルを作成する

CMYK プロファイル作成ウィザードの開始

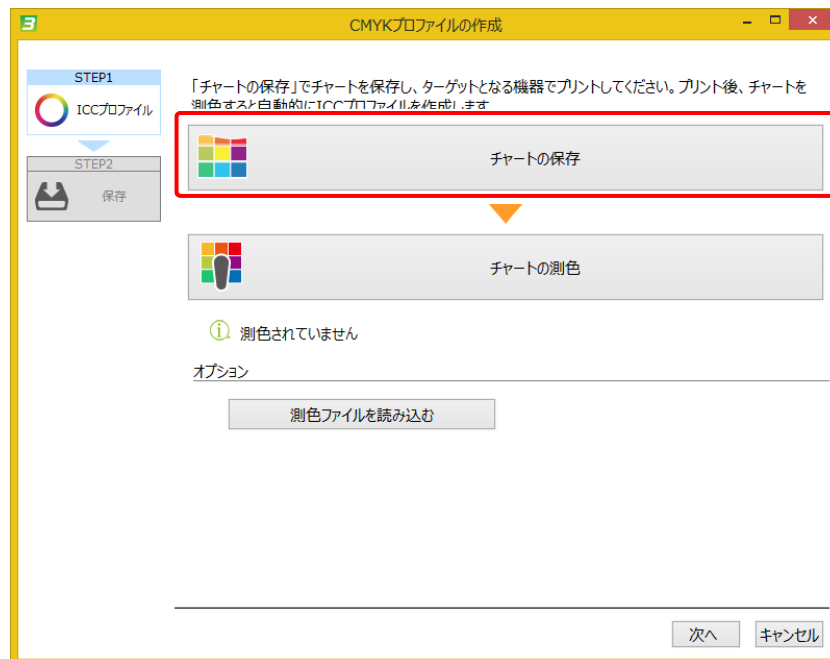
- 1 メイン画面から[ICCプロファイル]-[CMYKプロファイルの作成]を選択する



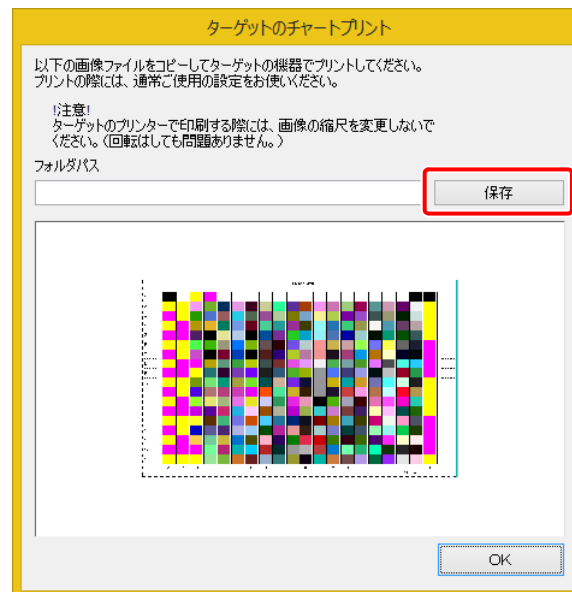
CMYK プロファイルを作成する

1 「チャートの保存」をクリックする

- ターゲットプリンタでプリントするチャート画像をファイル保存します。



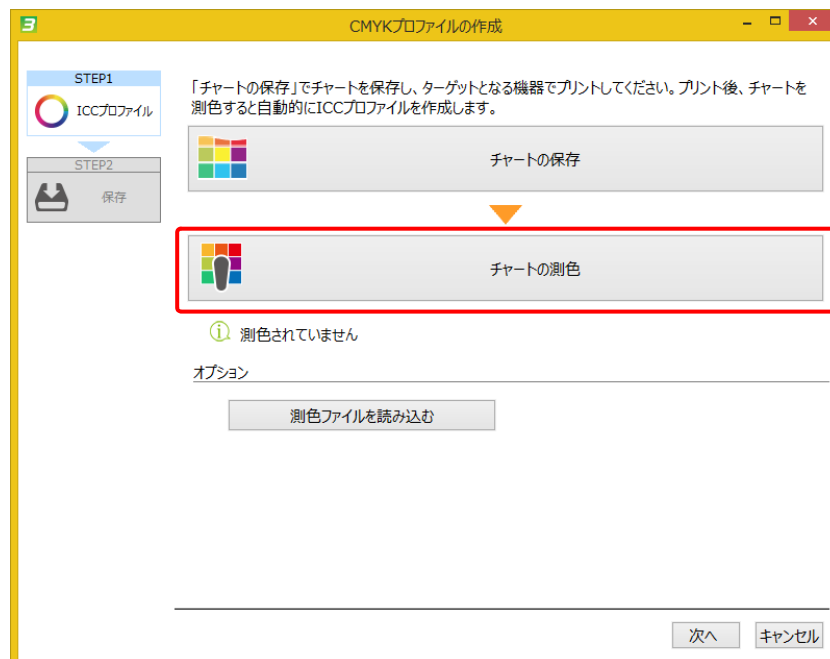
- 保存画面が表示されるので、フォルダを指定して画像を保存します。



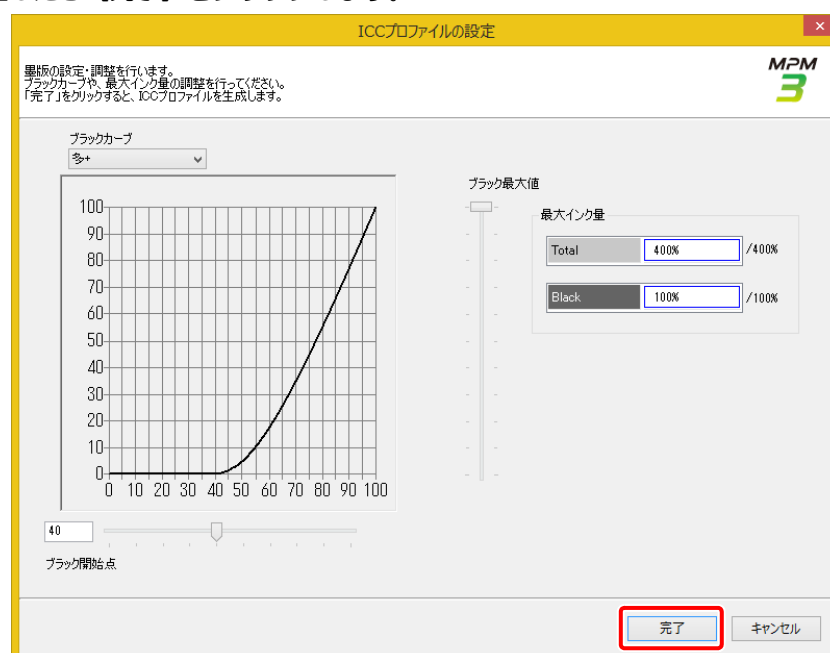
2 ターゲットプリンタで保存したチャート画像をプリントする

- ターゲット環境の RIP、ソフトウェアなどへチャート画像を読み込ませ、プリントします。

3 「チャートの測色」をクリックする



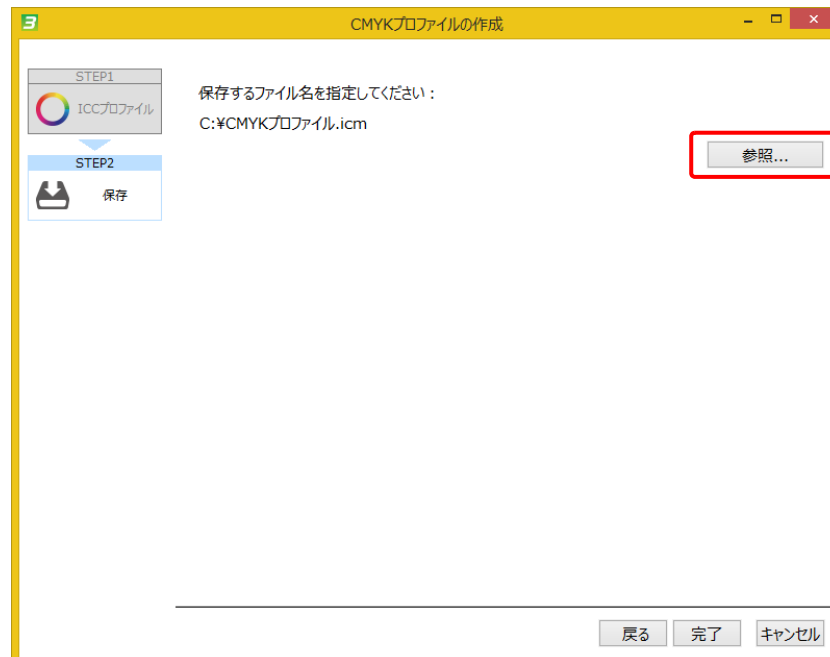
- (1) ターゲットプリンタでプリントしたチャート画像を測色してください。
 - ・測色方法は「13章 チャートの測色方法」(P. 163)を参照してください。
- (2) チャート測色が終了すると、ICC プロファイルの墨版設定画面が表示されます。
 - ・設定については「墨版のパラメータを決める」(P. 34)を参照してください。
 - ・設定したら「完了」をクリックします。



- ・CMYK プロファイルの作成画面に戻ったら「次へ」をクリックします。

4 保存ファイル名を指定する

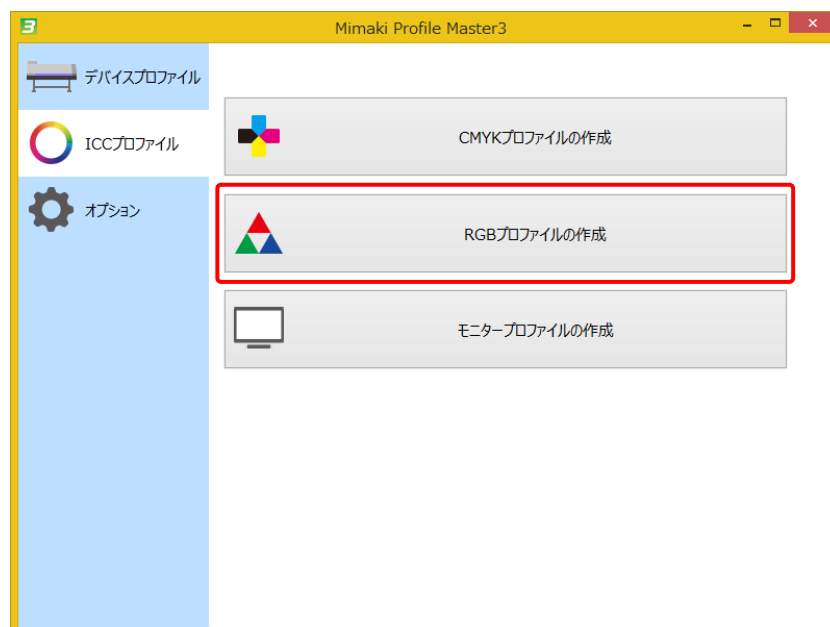
- [参照 ...] ボタンをクリックし、保存先を指定します。
- 指定後、[完了] ボタンをクリックするとファイルが保存され、終了します。



RGB プロファイルを作成する

RGB プロファイル作成ウィザードの開始

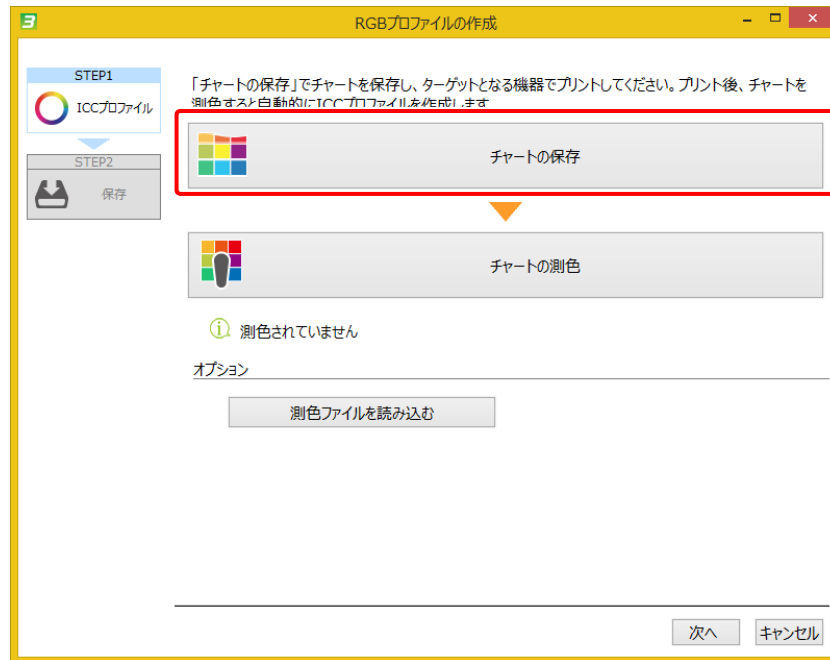
- 1 メイン画面から[ICC プロファイル]-[RGB プロファイルの作成]を選択する



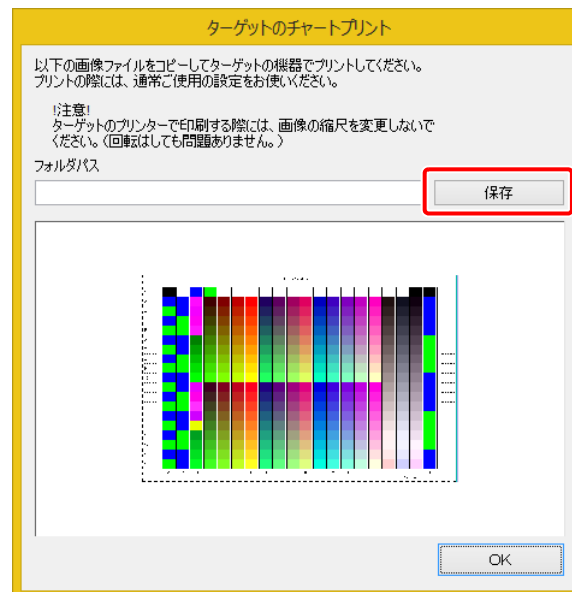
RGB プロファイルを作成する

1 「チャートの保存」をクリックする

- ターゲットプリンタでプリントするチャート画像をファイル保存します。



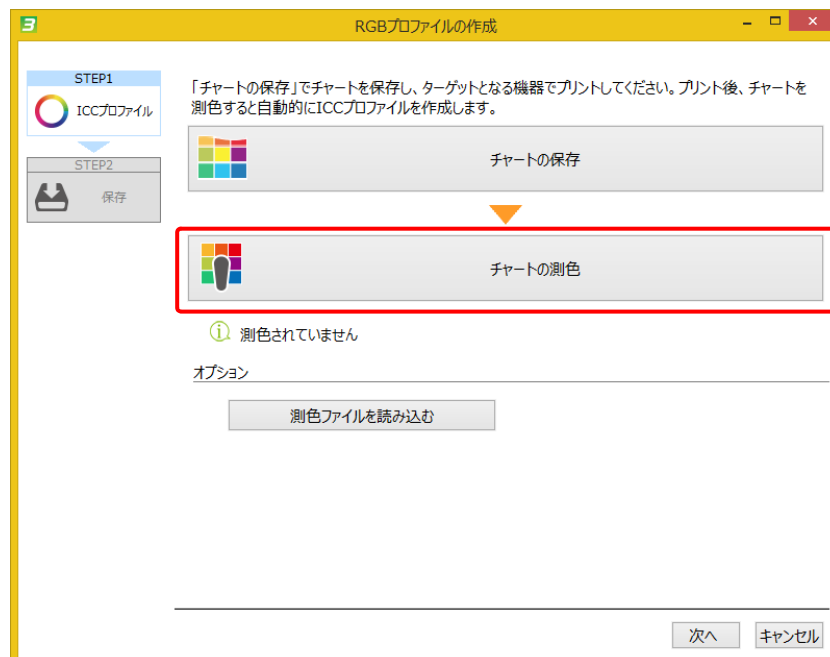
- 保存画面が表示されるので、フォルダを指定して画像を保存します。



2 ターゲットプリンタで保存したチャート画像をプリントする

- ターゲット環境の RIP、ソフトウェアなどへチャート画像を読み込ませ、プリントします。

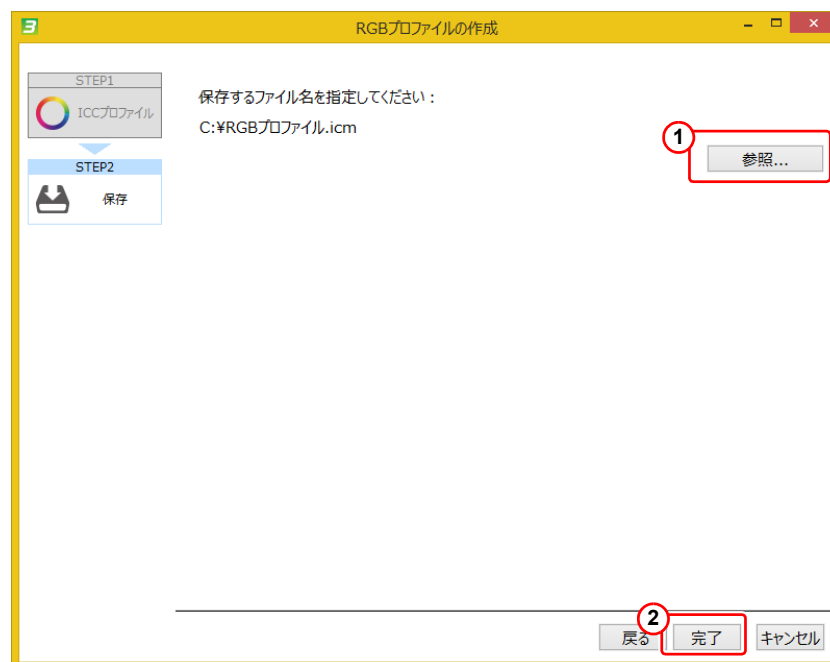
3 「チャートの測色」をクリックする



- (1) ターゲットプリンタでプリントしたチャート画像を測色してください。
 - ・ 測色方法は「13 章 チャートの測色方法」(P. 163) を参照してください。
- (2) チャート測色が終了すると自動的にプロファイルが作成されます。
 - ・ RGB プロファイルの作成画面に戻ったら「次へ」をクリックします。

4 保存ファイル名を指定する

- (1) 「参照 ...」 ボタンをクリックし、保存先を指定します。
- (2) 指定後、「完了」 ボタンをクリックするとファイルが保存され、終了します。



モニタープロファイルを作成する

- (重要!)** ・モニタープロファイルの作成は以下の測色器のみ対応しています。その他の測色器が選択されている場合、この機能は使用できません。
【対応測色器】
i1Pro

モニターの準備

モニター本体の設定を変更します。モニターにより以下の設定にしてください。

モニターの設定にて「色温度」がある場合

印刷物を見る環境（観察環境）に合わせた色温度にします。印刷向けでは以下の2つが多く使用されます。

5000K	蛍光灯昼白色相当、印刷分野での標準
6500K	蛍光灯：昼光色相当（日中の曇天時の明るさ）

モニター設定に色温度がない場合

工場出荷状態にしてください。

モニターの設定方法についてはお使いのモニターの取扱説明書をご覧ください。

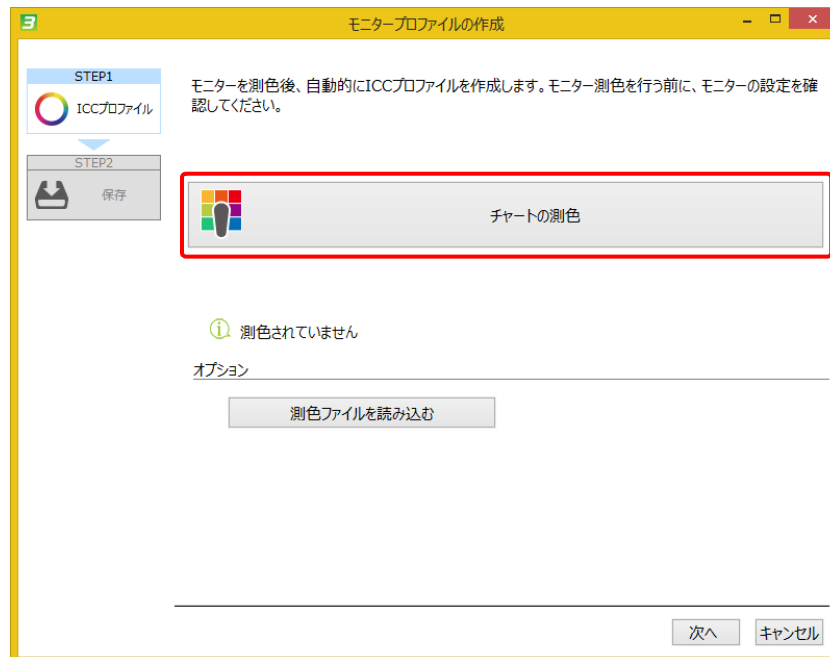
モニタープロファイル作成ウィザードの開始

1 メイン画面から [ICC プロファイル]-[モニタープロファイルの作成] を選択する



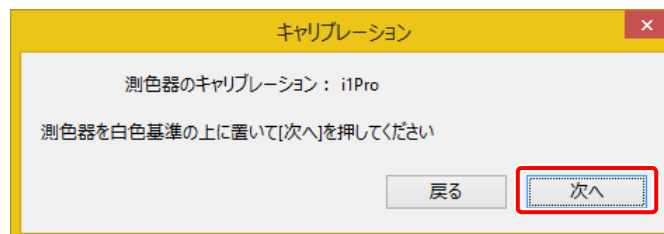
モニタープロファイルを作成する

1 「チャートの測色」をクリックする



2 測色器を取り付ける

- i1Pro を白色基準に置き、[次へ] ボタンを押します。



- 画面背景が黒くなり、ディスプレイの中央に「モニター測色」画面が表示されます。
- モニターが複数接続されている場合、「モニター測色」画面をプロファイルを作成するモニターに移動させることにより、そのモニターを測色することが出来ます。
- 「モニター測色」画面左の測色エリアの中央が、モニター中央になるように画面を動かしてください。
- i1Pro にモニター測色用の機器を取り付け、モニターに設置します。この際、「モニター測色」画面の測色エリア中央に受光部を設置してください。



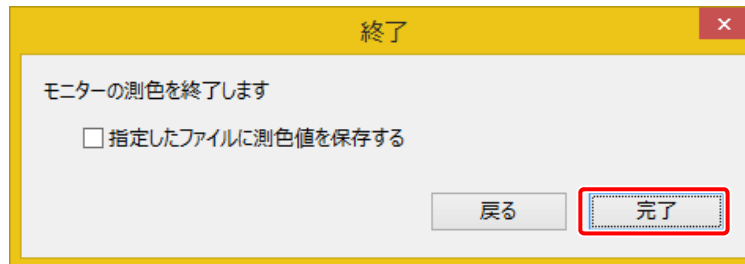
- 測色器の設置が終わったら「スタート」をクリックします。

3 測色結果を確認する

- 測色結果を確認したら、[終了する] ボタンをクリックします。



- 測色値を保存する場合、下記の画面で「指定したファイルに測色値を保存する」を ON にしてください。
[完了] ボタンをクリックします。



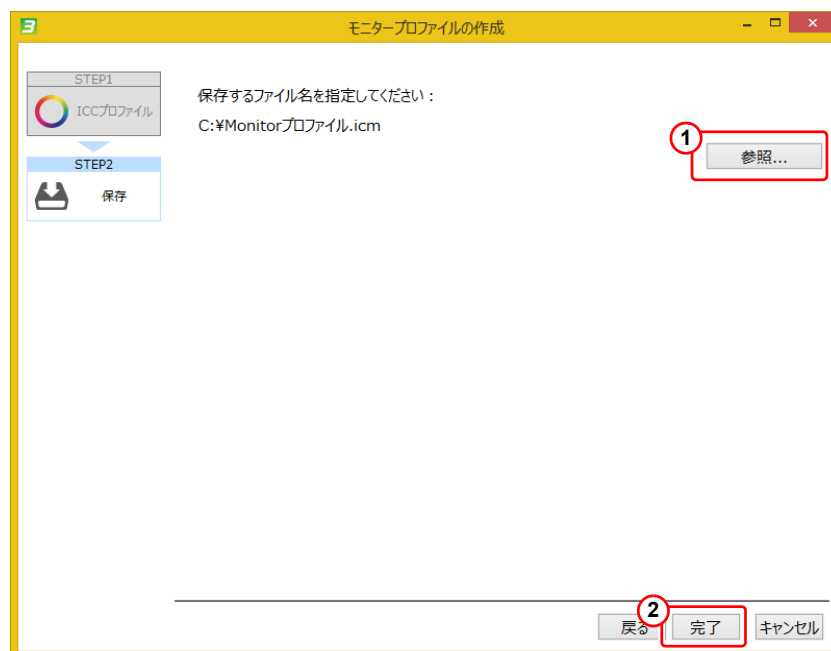
4 [モニタープロファイルの設定] を設定する



- 設定したら [OK] をクリックします。

5 保存ファイル名を指定する

- (1) [参照 ...] ボタンをクリックし、保存先を指定します。
- (2) 指定後、[完了] ボタンをクリックするとファイルが保存され、終了します。



モニタープロファイルを使用する

OS にモニタープロファイルを設定します。

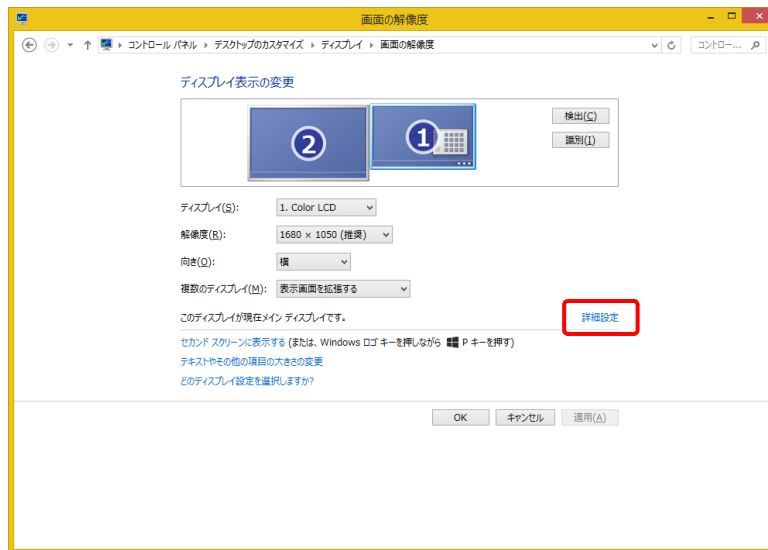
Windows

- 1 作成したモニタープロファイルを選択し、右クリックする
 - ・表示されたメニューより「プロファイルのインストール」を選択します。

- 2 コントロールパネルを開き、[デスクトップのカスタマイズ] - [解像度の調整] を選択する
 - ・[画面の解像度] 画面が表示されます。

3 “詳細設定” をクリックする

- ・モニターのプロパティ画面が表示されます。

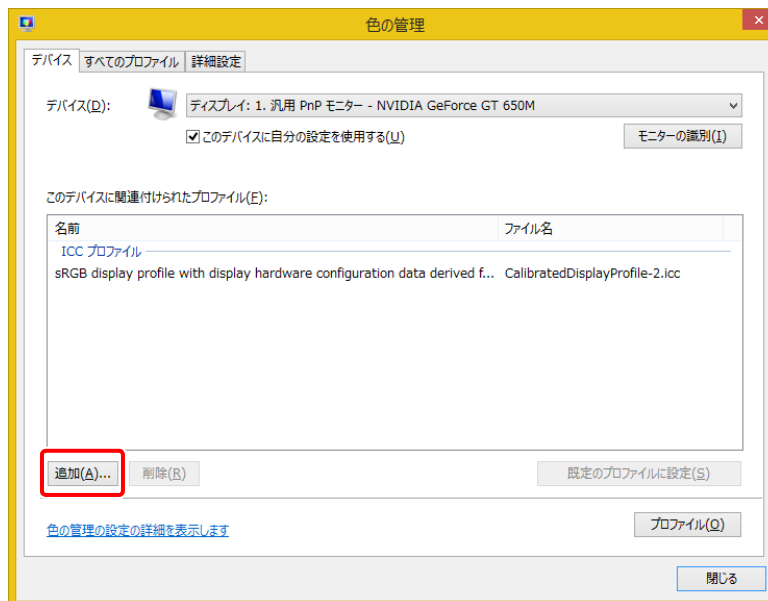


4 「色の管理」タブ内の[色の管理 ...] ボタンをクリックする

- ・「色の管理」画面が表示されます。

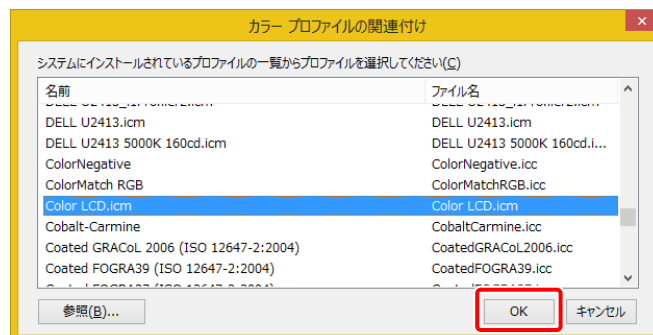
5 [追加] ボタンをクリックする

- ・「カラープロファイルの関連付け」画面が表示されます。

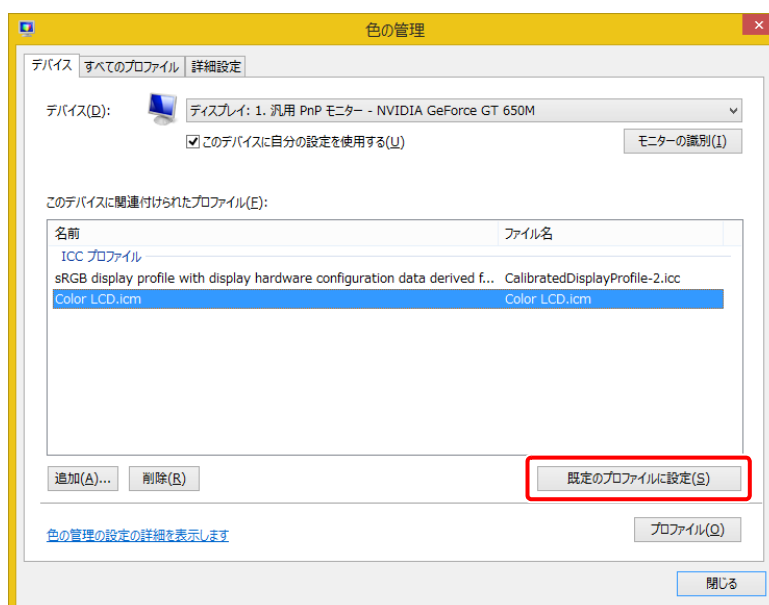


6 インストールしたモニタープロファイルを選択し、[OK] ボタンをクリックする

- ・「色の管理」画面に戻る



7 6で指定したプロファイルを選択し、[規定のプロファイルに設定] ボタンをクリックする



8 [閉じる] ボタンをクリックする

Macintosh

- 1** 作成したモニタープロファイルを以下のフォルダー にコピーする
 - User/ ログイン名 /Library/ColorSync/Profiles/Displays/
 - 2** [システム環境設定] より [ディスプレイ] をクリックする
 - [カラー] 画面が表示されます。
 - 3** リストより作成したモニタープロファイルを選択する
 - 4** 画面を閉じる
-

11 章

モニターシミュレーション

モニターシミュレーションとは

適切に設定したモニターと、印刷物の色域をあらわしたシミュレートプロファイルを用いることで、モニター上で印刷物の色を再現（シミュレート）することが出来ます。

本項では、RasterLink シリーズを用いてミマキ製プリンタへ出力した際の結果をモニターでシミュレートするための環境構築方法について説明します。

（重要！）

以下の理由により、完全にモニターと印刷物の色をシミュレートすることはできませんのでご了承ください。

- ・モニターと印刷物のガモットが異なり、ガモット外の色を再現できない
- ・モニターおよびプリンタの特性差、個体差があるため
- ・印刷物の色は、ご利用の環境光源によって見え方が変化するため。

モニターシミュレーションに必要な環境

モニターシミュレーションを行う際には以下の機器、ソフトウェアが必要です。

機器 / ソフトウェア	概要
MPM3	・モニタープロファイル、シミュレートプロファイルを作成します。
RasterLink シリーズ	・シミュレートプロファイルを作成するためのチャートを出力します。
測色器	・モニターおよび印刷したチャートの測色で使します。MPM3 ではモニター測色では X-Rite 社 i1Pro/i1Pro2 のみ対応しています。
ICC プロファイルを使用したカラーマネージメント対応デザインソフトウェア	・シミュレーション結果の表示、および色調整で使します。 ・本項では Adobe Photoshop / Illustrator を使します。
モニター	・デザインソフトウェアがインストールされている PC で使されているモニターです。 - 詳細仕様について「モニターを調整する」にて記載します。
観察環境	・印刷物を観察する環境です。 - 詳細につきましては「観察環境を整える」にて記載します。

環境構築フロー

ステップ 1：観察環境を整える

ステップ 2：モニターを調整する

ステップ 3：シミュレートプロファイルを作成する

ステップ 4：Photoshop/Illustrator にシミュレートプロファイルを設定する

ステップ 5：印刷物とモニターを見比べる

ステップ 1：観察環境を整える

印刷物を観察する環境、特に光源と周囲の色味により色が異なって見えます。そのため、印刷物を見る環境は常時一定にすることが望ましいです。

MPM3 では以下の観察環境を推奨いたします。

標準照明	CIE 昼色 D50
照度	2000±500[lx]

観察環境の構築

観察環境の構築方法にはいくつかの方法があります。

- Case 1:
市販の色観察ブースを用意する
厳密な色再現を求める場合、市販の色観察ブースを使用することをお勧めします。
- Case 2:
色評価用光源を使用する
色評価用として市販されている蛍光灯等へ室内の照明やデスクライトを変更する方法です。色観察ブースを使用するより安価です。
この際、光源の他に壁、机などの色は無彩色（ニュートラルグレー）とすることが望ましいです。

ステップ2：モニターを調整する

モニターの見え方を観察環境に合わせるためにモニターを調整します。

モニターシミュレーションで使用するモニターについて

【モニター最低スペック】

sRGB カバー率	90 %
AdobeRGB カバー率	90%

- sRGB/Adobe RGB カバー率については各モニターのカatalogおよび取扱説明書にてご確認ください。

モニターの調整

モニターにより以下のように調整します。

ハードウェアキャリブレーション対応モニターで、キャリブレーションソフトウェアをお持ちの場合	ハードウェアキャリブレーションを行ってください。詳しくはモニターおよびキャリブレーションソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
上記以外	MPM3 でモニタープロファイルを作成し、OS にインストールすることでモニターを調整します。作成方法並びにインストールの詳細については「モニタープロファイルを作成する」(P. 138) をご覧ください。



- モニター調整時の白色点、輝度の設定は観察環境の光源に合わせてください。
- MPM3 にてモニタープロファイルを作成する場合、白色度、輝度を観察環境に合わせて設定してください。

モニタープロファイルの設定

設定 D50 印刷標準

白色点

☒ CIEイルミナントから選択 CIEイルミナントD50

☐ 色温度を指定

☐ xyを指定

☐ uvを指定

輝度

☒ プリセット値から選択 80 cd/m²

☐ カスタム値設定

ガンマ

☒ プリセット値から選択 2.2 (標準)

☐ カスタム値設定

コントラスト

☒ プリセット値から選択 初期設定値

☐ コントラスト比率を指定

☐ ブラックポイントの輝度を指定

OK キャンセル

ステップ3：シミュレートプロファイルを作成する

印刷結果を再現するためのシミュレートプロファイルを作成します。
シミュレートプロファイルは画像のカラーモード別に CMYK、RGB の2種類作成します。

CMYK シミュレートプロファイルを作成する

CMYK プロファイル作成機能を使用します。詳細については「CMYK プロファイルを作成する」(P. 131)をご覧ください。

1 メイン画面から[ICCプロファイル]-[CMYKプロファイルの作成]を選択する

- ・[CMYK プロファイルの作成] 画面が起動します。

2 [チャートの保存] をクリックし、チャート画像を保存する

3 チャート画像を RasterLink シリーズを使ってプリントする

[RasterLink6 でのプリント方法]

- (1) RasterLink に保存したチャート画像を読み込ませる
- (2) チャート画像のジョブを選択し、[印刷条件] 画面を表示させ、通常使用している設定であることを確認します。
 - ・通常使用時、カラー調整、キャリブレーションを設定している場合、それらを必ず設定してください。
 - ・カラーマッチング、カラー調整にて「イラスト」「イメージ」に別の値を設定している場合、チャート画像には「イメージ」の設定が反映されます。
 - ・裏打ち用に白インクを用いる場合、版生成にて「画像全体」を指定してください。
- (3) 印刷します。

4 MPM3 に戻り [チャートの測色] をクリックし、印刷したチャートを測色する

- ・測色後、「ICC プロファイルの設定」画面が表示されます。
- ・ここでは初期設定のままとしてください。

5 ICC プロファイルを保存する

RGB シミュレートプロファイルを作成する

RGB プロファイル作成機能を使用します。詳しくは「RGB プロファイルを作成する」(P. 135)をご覧ください。

1 メイン画面から[ICCプロファイル]-[RGBプロファイルの作成]を選択する

- ・[RGB プロファイルの作成] 画面が起動します。

2 [チャートの保存] をクリックし、チャート画像を保存する

3 チャート画像を RasterLink シリーズを使ってプリントする

【RasterLink6 でのプリント方法】

- (1) RasterLink に保存したチャート画像を読み込ませる
- (2) チャート画像のジョブを選択し、[印刷条件] 画面を表示させ、通常使用している設定であることを確認します。
 - ・ 通常使用時、カラー調整、キャリブレーションを設定している場合、それらを必ず設定してください。
 - ・ カラーマッチング、カラー調整にて「イラスト」「イメージ」に別の値を設定している場合、チャート画像には「イメージ」の設定が反映されます。
 - ・ 裏打ち用に白インクを用いる場合、版生成にて「画像全体」を指定してください。
- (3) 印刷します

4 MPM3 に戻り [チャートの測色] をクリックし、印刷したチャートを測色する

- ・ 測色後、ICC プロファイル作成が開始されます。

5 ICC プロファイルを保存する

ステップ 4：Photoshop/Illustrator にシミュレートプロファイルを設定する

作成したシミュレートプロファイルを Photoshop/Illustrator に設定します。

OS にプロファイルをインストール

Photoshop/Illustrator で作成したシミュレートプロファイルを使用する場合、OS にこれらをインストールする必要があります。

【Windows】

エクスプローラ上で作成したシミュレートプロファイルを選択、右クリックして表示されたメニューより [プロファイルのインストール] を選択します。



【Macintosh】

作成したシミュレートプロファイルを以下のフォルダーにコピーします。
User/ ログイン名 /Library/ColorSync/Profiles

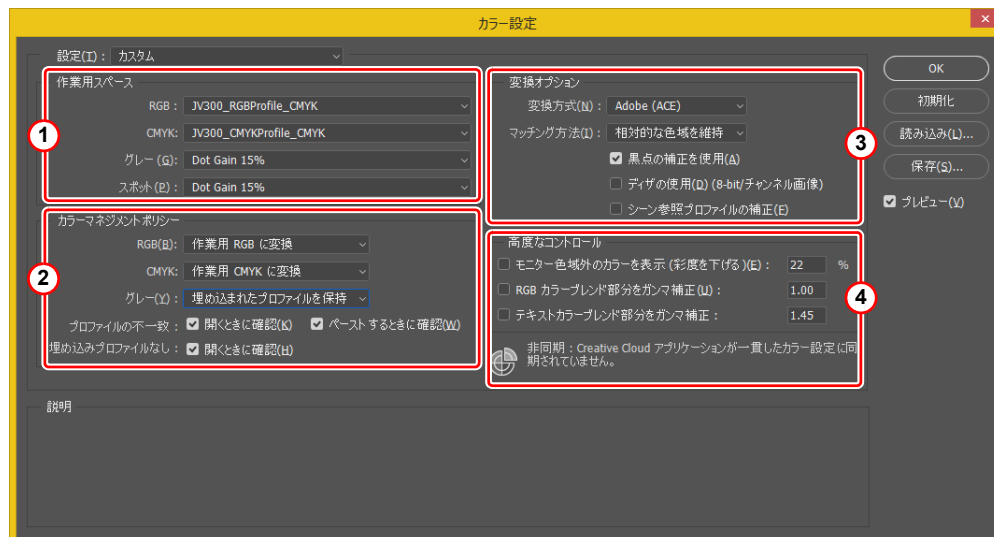
Photoshop の設定

ここでは Photoshop CC2017 を例にとり説明します。

1 Photoshop を起動する

2 メニューより [編集] - [カラー設定] を選択する

- ・[カラー設定] 画面が表示されますので、以下のように設定してください。



①作業用スペース

RGB	作成した RGB シミュレートプロファイル
CMYK	作成した CMYK シミュレートプロファイル
グレー	そのまま
スポット	そのまま

②カラーマネージメントポリシー

RGB	作業用 RGB に変換
CMYK	作業用 CMYK に変換
グレー	そのまま
プロファイルの不一致	“開くときに確認”、“パーストするとき確認”を ON にする
埋め込みプロファイルなし	“開くときに確認”を ON にする

③変換オプション

変換方式	Adobe(ACE)
マッチング方法	相対的な色域を維持
黒点の補正を使用	ON
ディザの使用	OFF
シーン参照プロファイル補正	OFF

④高度なコントロール すべて OFF にする

3 設定修了後、[保存 ...] ボタンを押し、設定を保存する

4 [OK] ボタンをクリックする

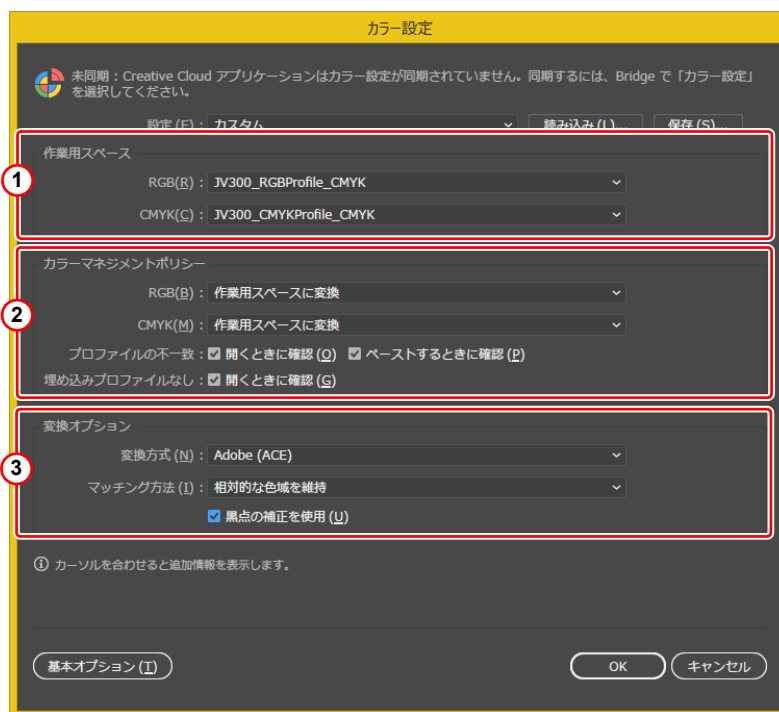
Illustrator の設定

ここでは Illustrator CC2017 を例にとり説明します。

1 Illustrator を起動する

2 メニューより [編集] - [カラー設定] を選択する

- ・[カラー設定] 画面が表示されますので、以下のように設定してください。



①作業用スペース

RGB	作成した RGB シミュレートプロファイル
CMYK	作成した CMYK シミュレートプロファイル

②カラーマネージメントポリシー

RGB	作業用スペースに変換
CMYK	作業用スペースに変換
プロファイルの不一致	“開くときに確認” “ペーストするときに確認” を ON にする
埋め込みプロファイルなし	“開くときに確認” を ON にする

③変換オプション

変換方式	Adobe(ACE)
マッチング方法	相対的な色域を維持
黒点の補正を使用	ON

3 設定修了後、[保存 ...] ボタンをクリックし、設定を保存する

4 [OK] ボタンをクリックする

ステップ 5：印刷物とモニターを見比べる

実際にモニターと印刷物がどれだけ近い色味か確認します。

印刷物の用意

RasterLink6 にて比較用画像をプリントします。このときシミュレートプロファイル用のチャートを出力したときと同じ設定で出力してください。

モニターと観察環境の配置

モニターを観察環境の真横に置き、見比べられるようにします。

モニターに画像を表示する

Photoshop/Illustrator を用いてモニターに画像を表示します。

- (重要!)** ・ 開く前に「カラー設定」が「11 章 モニターシミュレーション」(P. 145) で設定、保存したものであることを確認してください。

モニターシミュレーションの運用

色合わせした環境を使った画像の色調整～印刷までのフローは以下となります。

ステップ 1 : Illustrator/Photoshop に画像を読み込む

ステップ 2: 校正設定

ステップ 3 : 色調整する

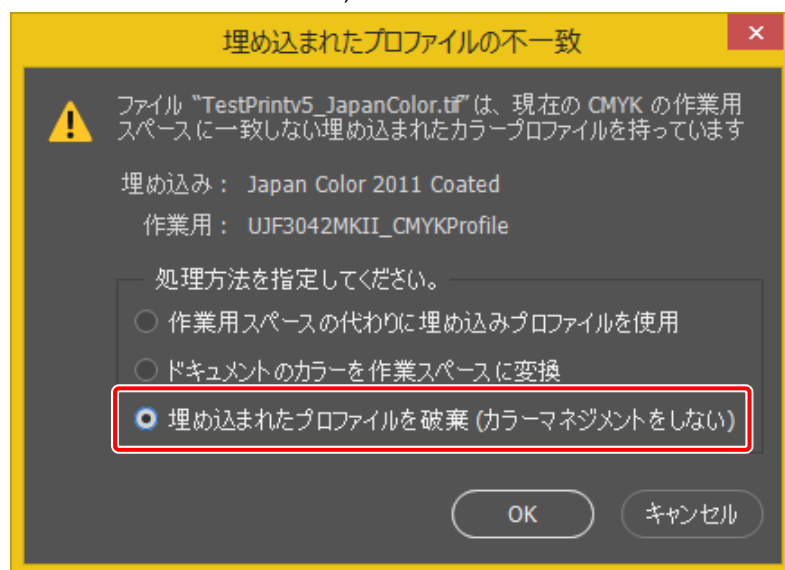
ステップ 4 : 保存する

ステップ 5 : 印刷する

ステップ 1 : Illustrator/Photoshop に画像を読み込む

Photoshop/Illustrator を用いてモニターに画像を表示します。

- (重要!)**
- 開く前に「カラー設定」が「11 章 モニターシミュレーション」(P. 145) で設定、保存したものであることを確認してください。
 - 画像を開いた際に以下の画面が表示されることがあります。この場合、「埋め込まれたプロファイルを破棄 (カラーマネージメントをしない)」を選択してください。



ステップ 2: 校正設定

Photoshop/Illustrator をモニター — シミュレートモードで表示するための設定を行います。

[Photoshop]

- 1 メニューより [表示]-[校正設定]-[カスタム ...] を選択する
 ・[校正条件のカスタマイズ] 画面が表示されます。

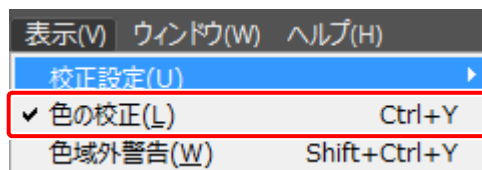
- 2 [校正条件のカスタマイズ] を設定する

- 以下のように設定します。
 シミュレートするデバイス：現在使用しているモニタープロファイルを指定
 マッチング方法：絶対的な色域を維持



- 3 [保存] を押し、設定を保存する
 ・保存後、[OK] を押し、画面を閉じます。

- 4 メニューより [表示]-[色の校正] にチェックを入れる



[Illustrator]

- 1 メニューより [表示]-[校正設定]-[カスタム ...] を選択する
 - [校正条件のカスタマイズ] 画面が表示されます。

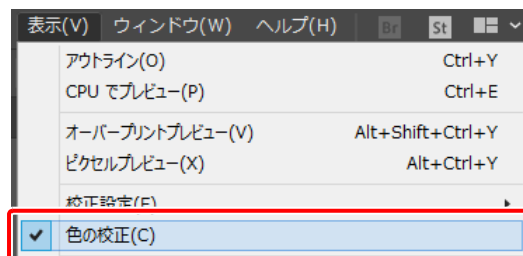
- 2 [校正条件のカスタマイズ] を設定する

- 以下のように設定します。
シミュレートするデバイス：現在使用しているモニタープロファイルを指定
マッチング方法：絶対的な色域を維持



- 3 [OK] を押し、画面を閉じます。

- 4 メニューより [表示]-[色の校正] にチェックを入れる



ステップ 3：色調整する

Photoshop/Illustrator 上で色調整を行います。

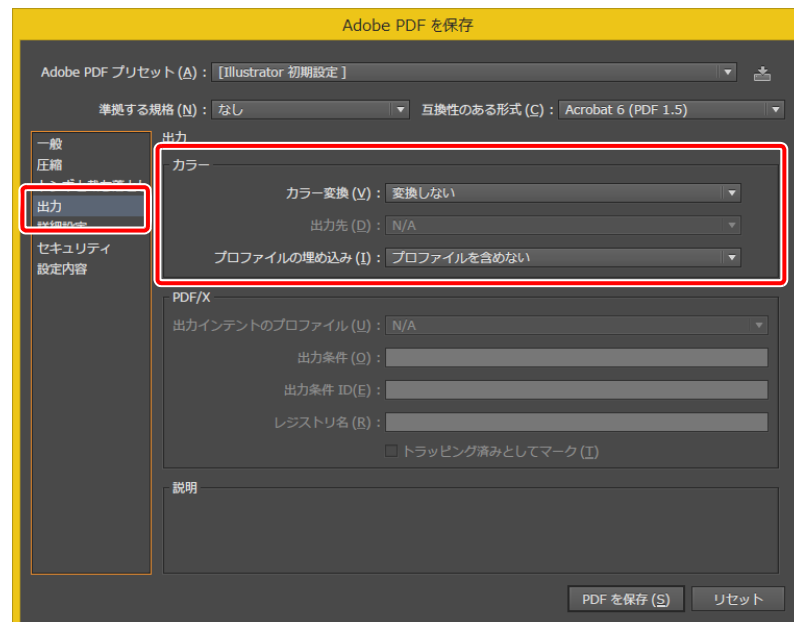
ステップ 4：保存する

画像を保存します。

- 重要!** ・ 画像を保存する際に、プロファイル情報を埋め込むおよびカラー変換をしないでください。
Photoshop



Illustrator PDF 保存



ステップ 5：印刷する

RasterLink6 にて印刷します。

- 重要!** ・ シミュレートプロファイル用のチャートをプリントしたときと同じ設定で出力してください。
・ RasterLink6 にシミュレートプロファイルをインストールしないでください。

12 章

チャートの印刷方法

測色チャートの印刷

測色チャート印刷パラメータ

測色チャート印刷では、印刷に関するパラメータを設定できます。

画像編集

レイアウト

① スケール(%) 100.00%

スケール(幅) 290.40mm

スケール(送り) 390.56mm

② 回転 OFF

③ ミラー OFF

④ 移動(幅) 0.00mm

移動(送り) 0.00mm

印刷条件

⑤ ラベルプリント サイズ小

白インクの印刷

⑥ 印刷方法 白インクを印刷しない

濃度 100%

スロットの設定 特色1

品質 レベル 1 (速い)

出力ポート

⑦ 出力ポート CJV300-160(Active print)

入力 幅 290.4 mm 送り 390.6 mm

メディア 幅 1200.0 mm 送り ロール紙 mm

メディアサイズ取得

印刷

キャンセル

1	スケール	縮尺を変えて印刷できます。測色チャートではスケールはかかりません。
2	回転	90°、180°、270° 回転して印刷します。
3	ミラー	ミラー反転して印刷します。
4	移動	メディア上での印刷位置を変更します。
5	ラベルプリント	印刷条件をラベルプリントします。文字の大きさを小・中・大指定できます。 次の項目が印刷されます。 (1) デバイスプロファイル名、画像ファイル名 / チャート名、 (2) 印刷条件 (パス数、重ね塗り回数、印刷方向、高速印刷の設定、ハーフトーン設定) (3) メディア補正值、インクリミット値、バリアブルドットプリセット、ライトインクプリセット、インポートファイル名 (4) テストプリント時の印刷条件
6	白インクの印刷	白インクサポートプリンタのとき、表示が出ます。 透明メディアで下地として、白インクを敷く場合に設定します。
7	出力ポート	接続しているプリンタが表示されます。

テストプリント

MPM3 は測色チャートのほかに、色味確認のため、指定された画像を印刷できます。
MPM3 の作業ステップで印刷できる画像は異なります。



- サポートしている画像フォーマットは TIFF、BMP です。

フォーマット	カラースペース	MPM3 作業ステップ
TIFF	CMYK	インクリミット、リニアライゼーション、グレーバランス、ICC プロファイル、キャリブレーション、イコライゼーション、エミュレーション
	RGB	ICC プロファイル、キャリブレーション、イコライゼーション、エミュレーション
BMP	RGB インデックスカラー	ICC プロファイル、キャリブレーション、イコライゼーション、エミュレーション



- インクセット CMYKOrGr の時には、ICC プロファイルだけとなります。
- TIFF LZW 圧縮はサポートしていません。

13 章

チャートの測色方法

測色機能

2 回測色機能

MPM3 では測色精度向上のため、同じチャートを 2 回測色する機能を備えています。
2 回目の測色を実施するかは、操作で選択できます。
チャートを 2 回測色した時は次の処理となります。

1 1 回目と 2 回目の測色値の平均が取られる

2 1 回目と 2 回目で色差が大きいとき、色差が大きいパッチに警告が表示される

3 色差が大きいパッチは再測色ができる

重要!

- 再測色はパッチを含む 1 行分のパッチを再測色します。(測色器が i1iSis の場合、チャート全体を再測色)
- 再測色されてパッチは近い測色値 2 つが採用され、平均が取られます。(警告が出ないパッチも再測色するとこの処理になります)

測色結果の表示方法

測色完了後に表示される画面で何通りかの方法で測色値を確認できます。
また、2 回目測色後には、1 回目の測色との色差を表示することもできます。



(1) 画面上でパッチをクリックする

パッチが赤い枠で表示されるとともに、測色値・色差が表示されます。

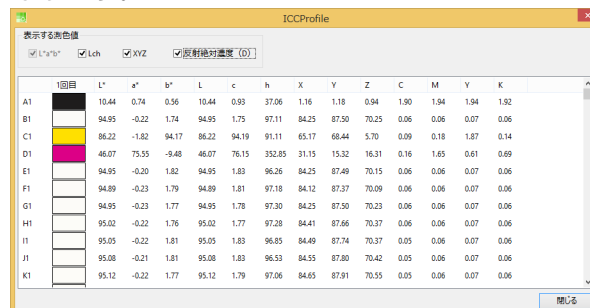
(2) リストを表示する

測色値を表形式で表示します。



- [a] [ΔE] をクリックすると大きさ順にソーティングできます。
 リスト表示の行はパッチのクリックと連動しています。
 ICC プロファイル用チャートの様に表示が小さいパッチの時には、リスト表示画面で、ΔE でソートしてから行をクリックすると、パッチが選択しやすくなります。

- [b] 測色値の表示単位を変更できます。



- [c] 表示する測色値を 1 回目、2 回目で選択できます。
 再測色を行った場合、1 回目、2 回目と比較され、近い 2 つの値が採用されます。再測色の値が採用された場合、最も遠い測色値に上書きされます。
 例えば、再測色値が 2 回目の測色値と近かった場合は、1 回目の測色値が再測色値で上書きされます。

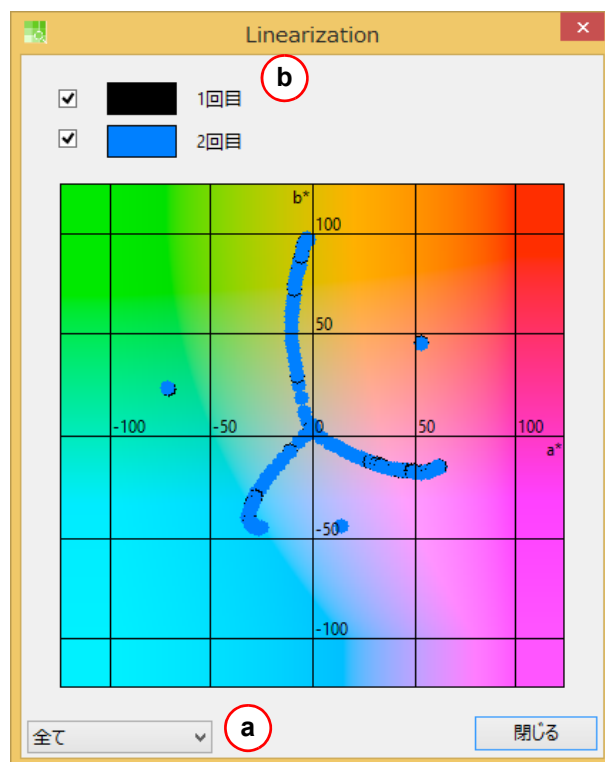
- [d] 表示された測色値、色差を CSV 形式でファイル保存できます。

(3) グリッド表示

測色値を図示します。

[a] L 値の表示範囲を 10% 刻みで選択できます。

[b] プロット点の色を変更できます



(4) 色差

2 回目の測色を行う则表示されます。

色差表示方法はつぎのものから選択できます。

ΔE

ΔE_{2000}

(5) ハイライト表示

指定された色差以上の数値を持つパッチを黄色い枠で表示します。

i1Pro, i1Pro2, i1Pro3, i1Pro3 PLUS

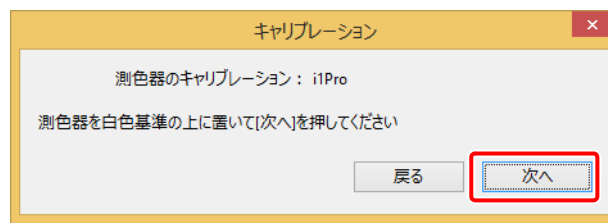
基本の測色手順は以下の通りです。

- (1) 測色器のキャリブレーションをする
- (2) 「測色方法」を「ストリップモード」にする
- (3) 測色器を左→右にスライドさせ、行単位で測色する
- (4) 「測色位置」に次に測色する行番号が表示される
- (5) 最後の行を読み取り、測色が終了すると「2 回目の測色を行う」か「終了する」か選択ができる
- (6) 2 回目の測色を行うか選択する
- (7) 2 回目の測色をした場合、1 回目と 2 回目で色差の大きかったパッチが警告表示される
- (8) 色差が大きかったパッチを再測色する
- (9) 測色終了時に、測色値をファイル保存する

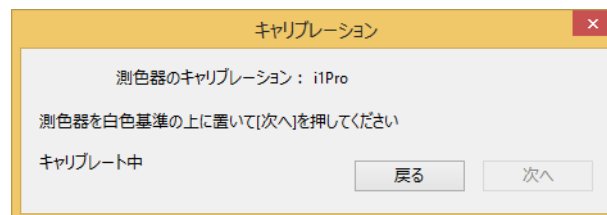
測色器のキャリブレーション

測色器をキャリブレーションします。

1 測色器を白基準の上に置き、[次へ]をクリックする



2 キャリブレーションが実行される

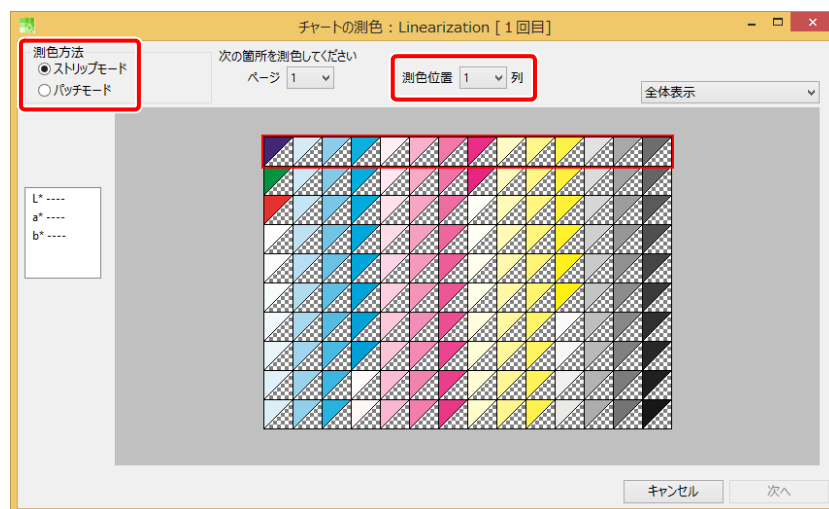


チャート測色

測色チャートを測色します。

1 測色モードをストリップモードにする

- 測色位置に次に読み取る行番号が表示されます。確認してください。

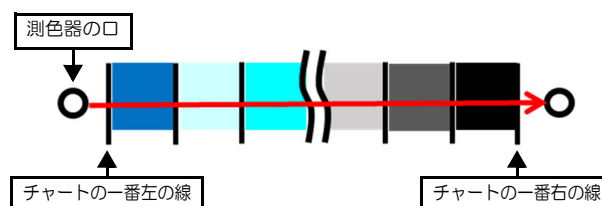


2 測色値を左から右にスライドさせ、1行を読み取る

- 測色器が左右両端の線をまたぐようにスライドしてください。

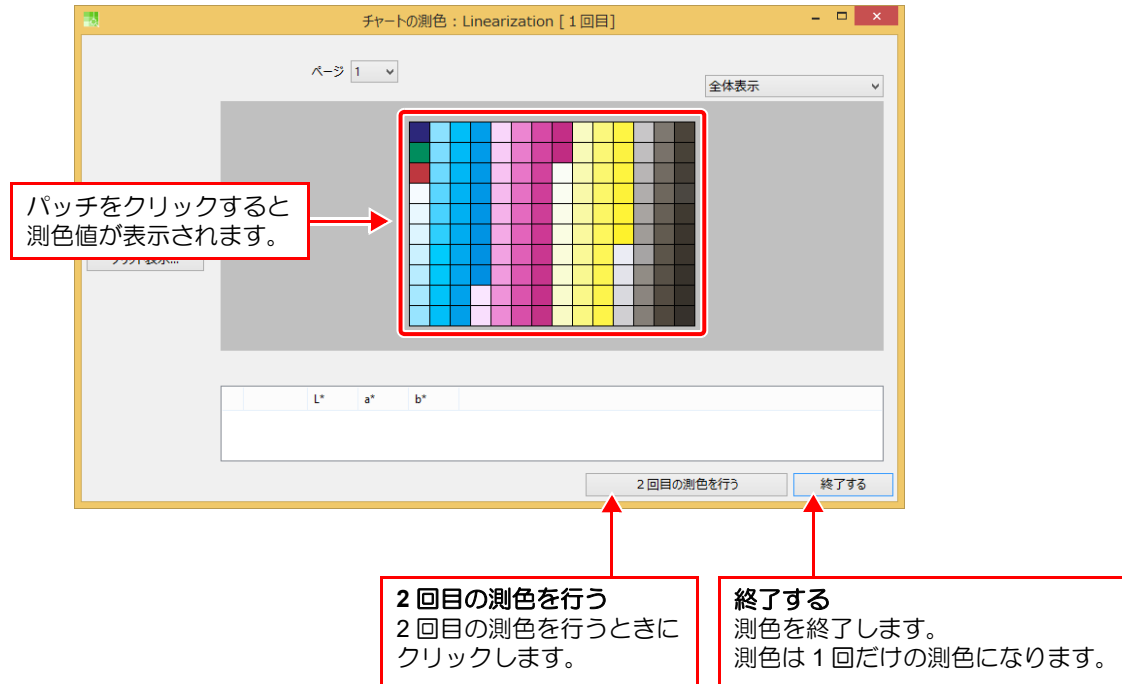


- 測色する際は、測色ボタンを押して、必ず測色器の口が一番外側の線をまたぐようにスライドしてください。



1 回目の測色の完了

1 回目の測色が完了すると、測色値確認画面が表示されます。
測色精度向上のため、同じチャートを 2 回測色することができます。
パッチをクリックすると、測色値が表示されます。



2 回目の測色の完了

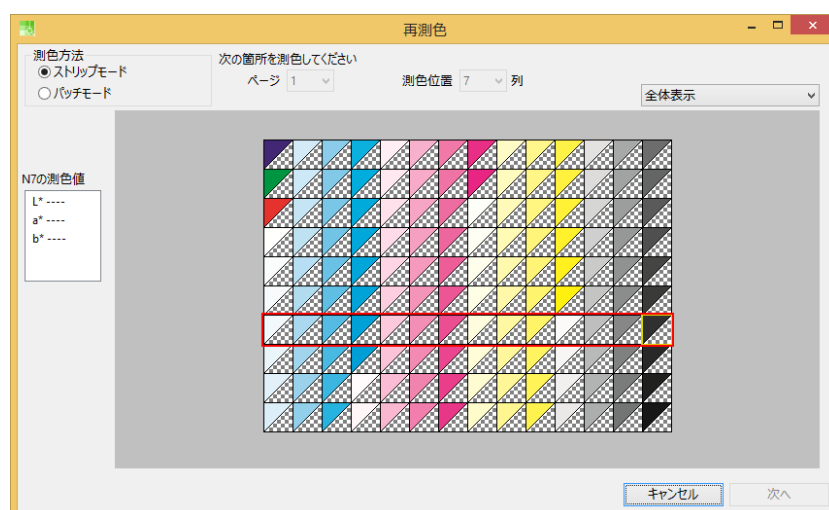
1 回目と 2 回目の色差を表示できます。
パッチの色差が大きいときは、そのパッチを含む行を再測色することができます。

1 [再測色] をクリックする

- 色差の大きいパッチを選択し、[再測色] をクリックします。
- 測色を終了する場合は [次へ] をクリックしてください。

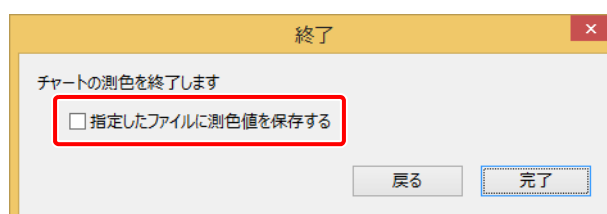


2 指定した行が再測色される



3 測色値を保存する場合、“指定したファイルに測色値を保存する” をチェックする

- デバイスプロファイルを再作成するときに、使用できます。



i1iO, i1iO2, i1iO3

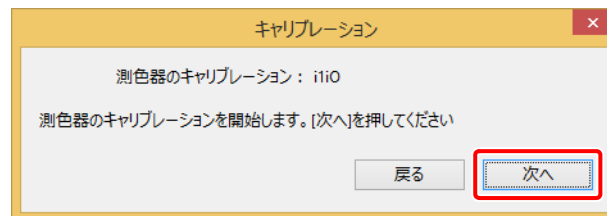
基本の測色手順は以下の通りです。

- (1) 測色器のキャリブレーションをする
- (2) チャートの位置を調べるため、3 点を読み取る
- (3) 測色器をストリップモードにして、自動測色を開始する
- (4) 測色が終了すると「2 回目の測色を行う」か「終了する」か選択ができる
- (5) 2 回目の測色を行うか選択する
- (6) 2 回目の測色をした場合、1 回目と 2 回目で色差の大きかったパッチが警告表示される
- (7) 色差が大きかったパッチを再測色する
- (8) 測色終了時に、測色値をファイル保存する

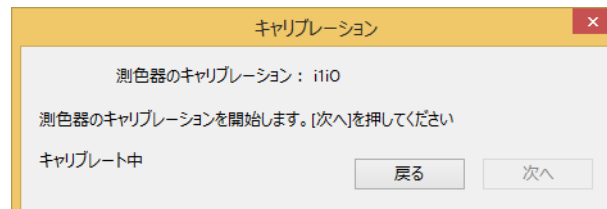
測色器のキャリブレーション

測色器をキャリブレーションします。

1 【次へ】をクリックすると、自動的にキャリブレーションが始まる



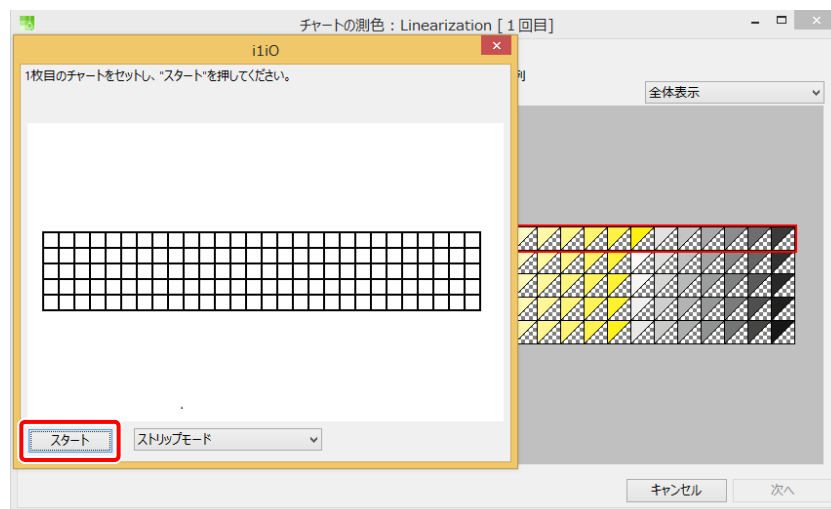
2 キャリブレーションが実行される



チャートの位置の設定

画面に従い、チャートのコーナーを3点読み取ります。

1 「スタート」をクリックして、チャートの位置を読み取る



2 測色器をチャートのコーナーに置いて測色する

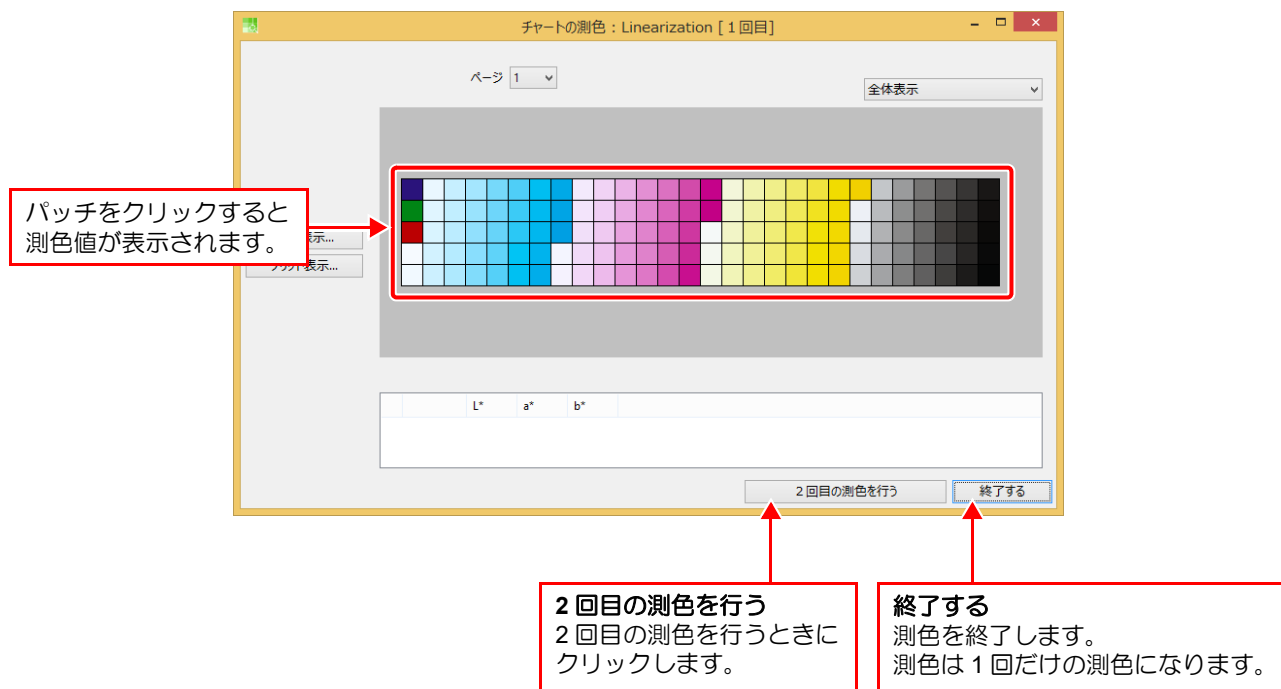


3 ストリップモードにして、【スタート】をクリックする



1 回目の測色の完了

1 回目の測色が完了すると、測色値確認画面が表示されます。
測色精度向上のため、同じチャートを 2 回測色することができます。
パッチをクリックすると、測色値が表示されます。



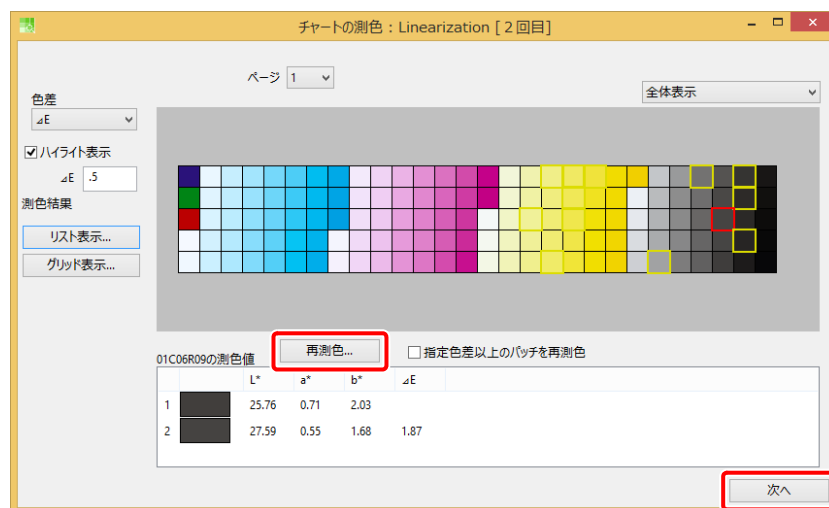
2 回目の測色の完了

1 回目と 2 回目の色差を表示できます。

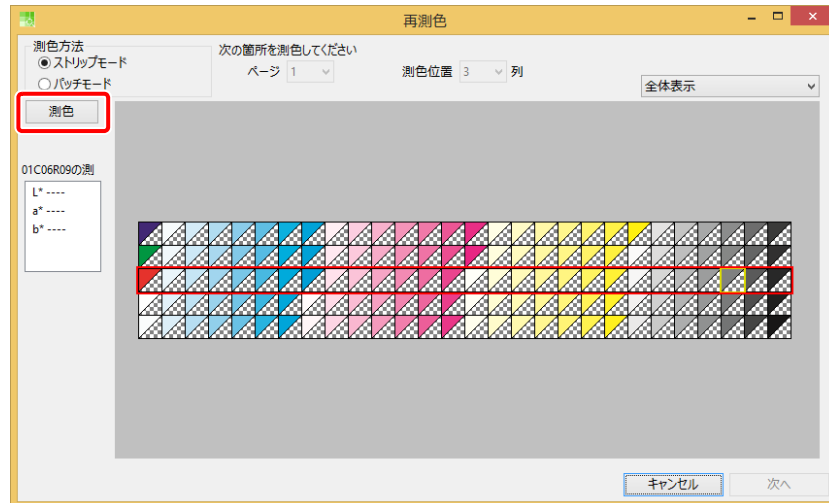
パッチの色差が大きいときは、そのパッチを含む行を再測色することができます。

1 [再測色] をクリックする

- 色差の大きいパッチを選択し、[再測色] をクリックします。
- “指定色差以上のパッチを再測色する”にチェックを入れると、対象パッチを含む行のみ自動測色します。
- 測色を終了する場合は [次へ] をクリックしてください。

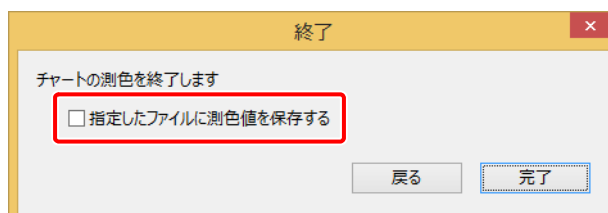


2 [測色] をクリックすると、指定した行が再測色される



3 測色値を保存する場合、“指定したファイルに測色値を保存する”をチェックする

・デバイスプロファイルを再作成するときに、使用できます。



i1isis

基本の測色手順は以下の通りです。

- (1) 測色器にチャートをセットする
- (2) チャート情報をバーコードから取得するモードにして、自動測色を開始する
- (3) 測色が終了すると「2 回目の測色を行う」か「終了する」か選択ができる
- (4) 2 回目の測色を行うか選択する
- (5) 2 回目の測色をした場合、1 回目と 2 回目で色差の大きかったパッチが警告表示される
- (6) 色差が大きかったパッチを再測色する
- (7) 測色終了時に、測色値をファイル保存する

測色開始

1 “チャート情報をバーコードから取得”をチェックする

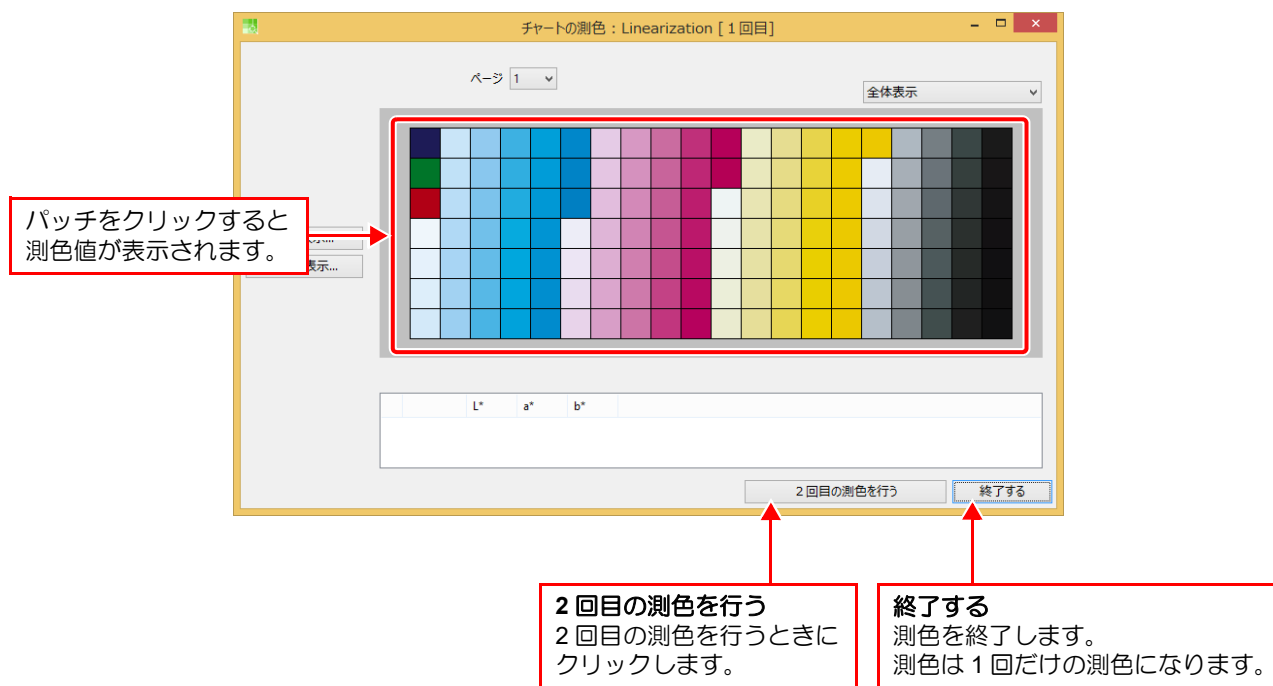
・MPM3 で印刷するチャートはチャートに関するバーコードが付いています。

2 [スタート]をクリックし、測色を開始する



1 回目の測色の完了

1 回目の測色が完了すると、測色値確認画面が表示されます。
測色精度向上のため、同じチャートを 2 回測色することができます。
パッチをクリックすると、測色値が表示されます。



2 回目の測色の完了

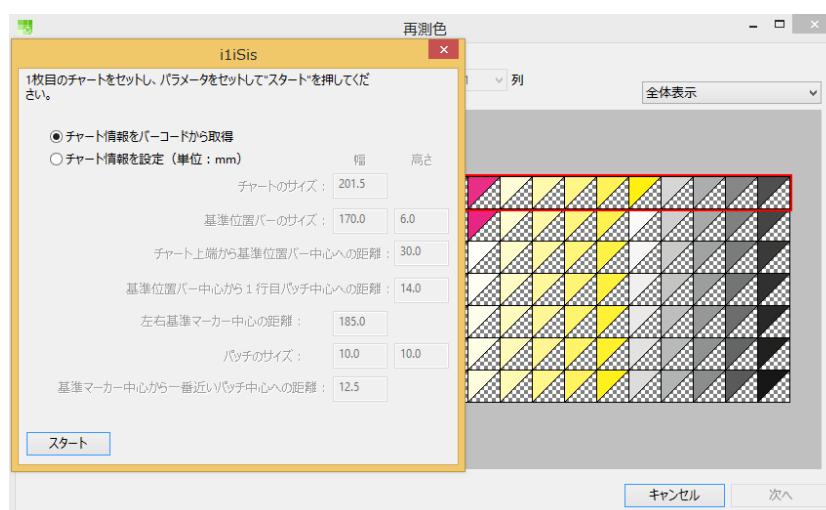
1 回目と 2 回目の色差を表示できます。
 色差が大きいときは、チャート全体を再測色できます。

1 [再測色] をクリックする

- [再測色] をクリックします。
- 測色を終了する場合は [次へ] をクリックしてください。

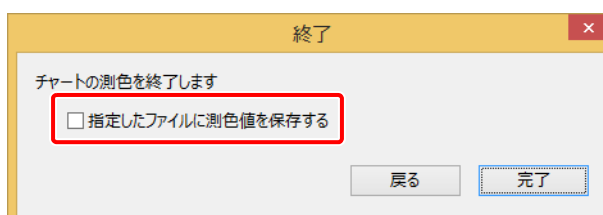


2 チャート全体を再測色する



3 測色値を保存する場合、“指定したファイルに測色値を保存する”をチェックする

- デバイスプロファイルを再作成するときに、使用できます。



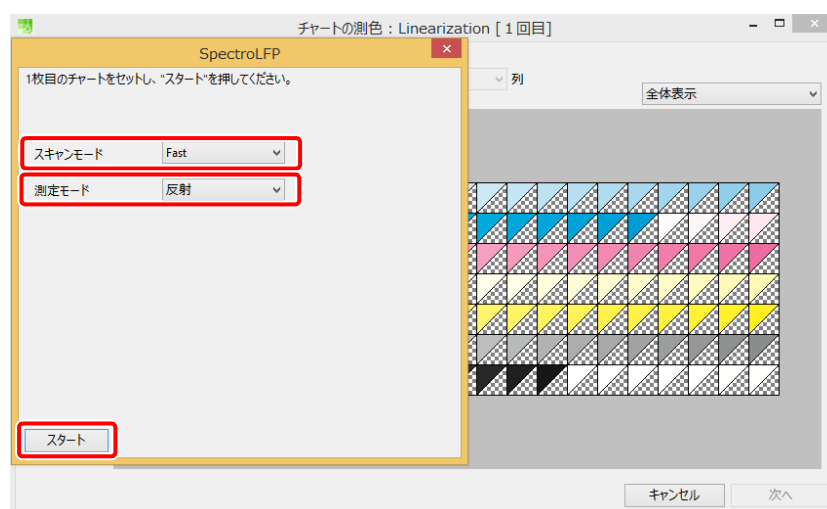
SpectroLFP

基本の測色手順は以下の通りです。

- (1) 測色器にチャートをセットする
- (2) 測色方法を設定して、自動測色を開始する
- (3) 測色が終了すると「2回目の測色を行う」と「終了する」ボタンが表示される
- (4) 2回目の測色を行うか選択する
- (5) 2回目の測色をした場合、1回目と2回目で色差の大きかったパッチが警告表示される
- (6) 色差が大きかったパッチを再測色する
- (7) 測色終了時に、測色値をファイル保存する

測色開始

1 スキャンモードと測定モードを設定する



• スキャンモード

Up-down

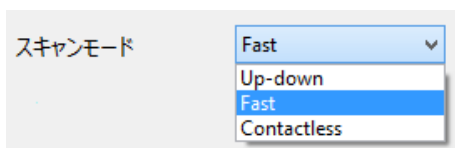
測色ヘッドがメディアからアップした状態で移動し、測色するときにメディアに接する位置までダウンします。測色に時間がかかりますが、表面に凹凸がある布のようなメディアで有効です。

Fast

測色ヘッドがメディア表面上を接しながら移動します。高速に測色できますが、表面が平滑なメディアのみで有効です。

Contactless

測色ヘッドがメディア表面の上を移動し、メディアに接することなく測色します。様々な状態のメディアを測色できますが、測色精度が落ちます。



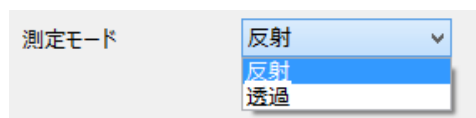
• 測色モード

反射

光を印刷面に当てるメディアを測色します。

透過

光をメディアの裏側から当てる透明なメディアを測色します。



2 [スタート]をクリックし、測色を開始する

1 回目の測色の完了

1 回目の測色が完了すると、測色値確認画面が表示されます。
測色精度向上のため、同じチャートを 2 回測色することができます。
パッチをクリックすると、測色値が表示されます。

チャートの測色 : Linearization [1 回目]

ページ 1

全体表示

パッチをクリックすると測色値が表示されます。

表示...

L* a* b*

2 回目の測色を行う

終了する

2 回目の測色を行う
2 回目の測色を行うときにクリックします。

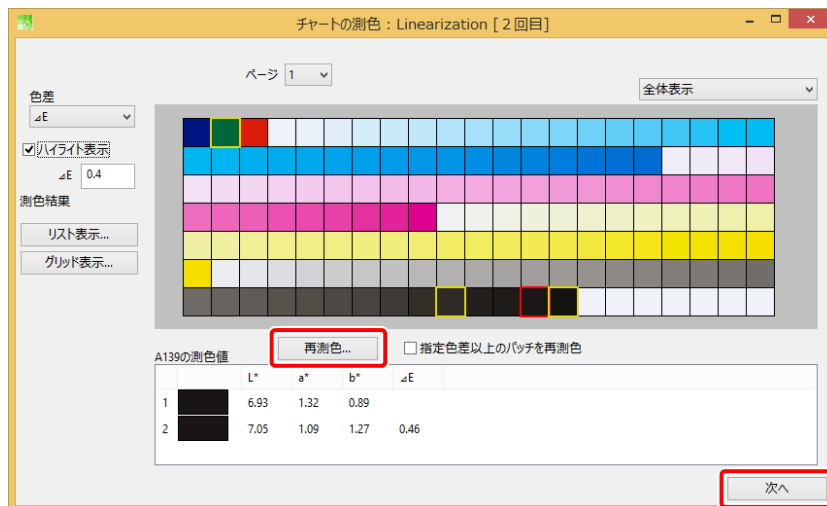
終了する
測色を終了します。
測色は 1 回だけの測色になります。

2 回目の測色の完了

1 回目と 2 回目の色差を表示できます。
パッチの色差が大きいときは、再測色することができます。

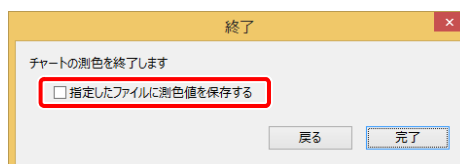
1 [再測色] をクリックする

- [再測色] をクリックすると、チャート全体を再測色します。
- “指定色差以上のパッチを再測色する” にチェックを入れると、対象のパッチを含む行だけを自動測色します。
- 測色を終了する場合は [次へ] をクリックしてください。



2 測色値を保存する場合、" 指定したファイルに測色値を保存する " をチェックする

- 測色値を保存すると、デバイスプロファイルを再作成するときに、利用できます。



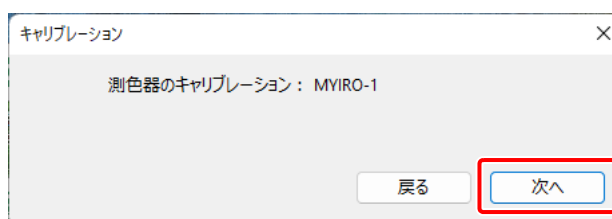
MYIRO-1

測色方法の詳細については MYIRO-1 の取扱説明書をご覧ください。
基本の測色手順は i1Pro, i1Pro2, i1Pro3, i1Pro3 PLUS の手順と同じです。(P.167 の (1)~(9))

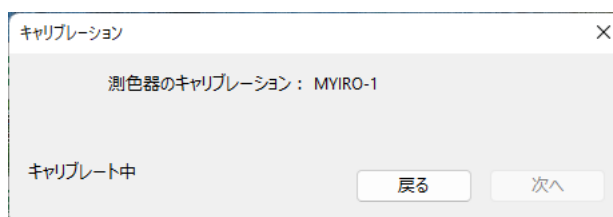
測色器のキャリブレーション

測色器をキャリブレーションします。

- 1 校正キャップを測定アパーチャ部に取り付けた状態で [次へ] をクリックする



- キャリブレーションが実行される



チャート測色

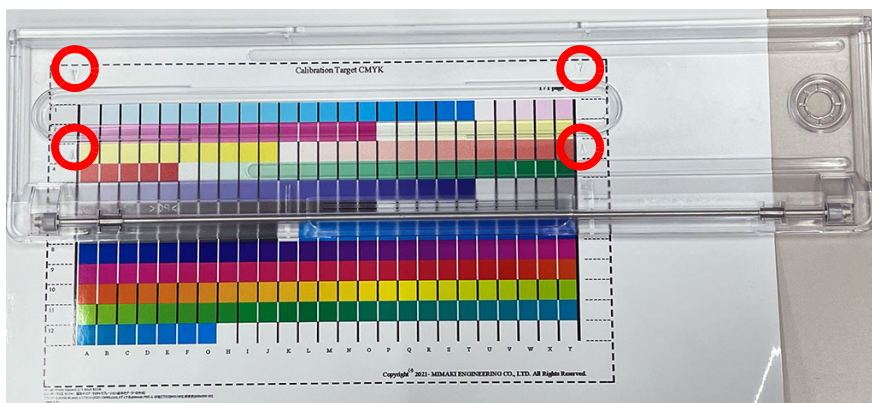
測色チャートを測色します。

1 測色モードをストリップモードにする

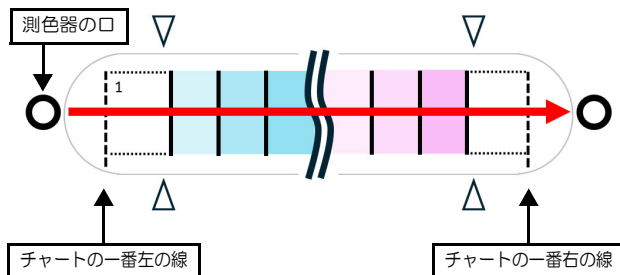
- 測色位置に次に読み取る行番号が表示されます。確認してください。



2 ルーラーの△マークに測色するチャートが入るようにルーラーを置く



3 測色器の測色ボタンを押しながら左から右にスライドさせ、1行を読み取る



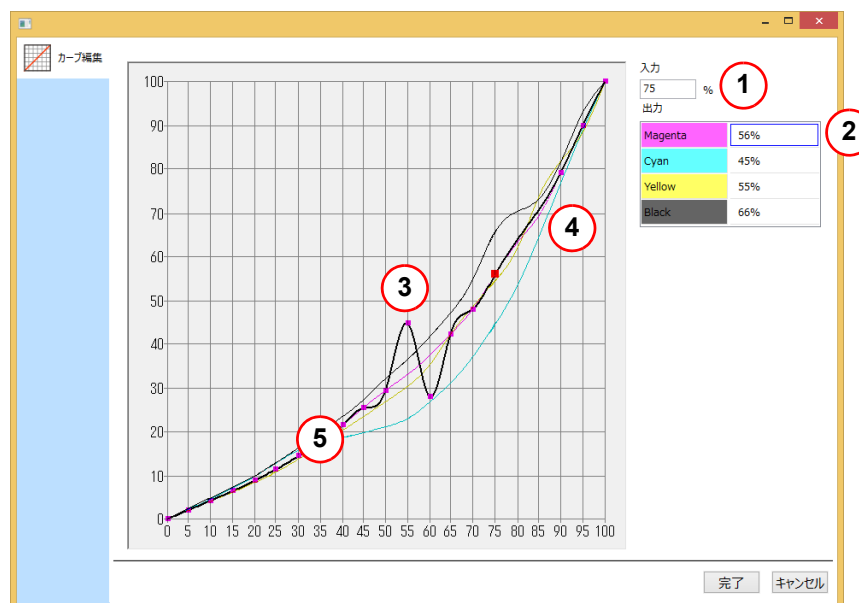
以降は、i1Pro, i1Pro2, i1Pro3, i1Pro3 PLUS の手順と同じです。(P.169~P.170)

14 章

インクカーブ編集

インクカーブを編集する

カラー単位にカーブ編集できます。



1	入力値	制御点の横軸が入力値になります。入力値は 5% 刻みで指定できます。0% と 100% は選択できません。
2	出力値	制御点の縦軸が出力値になります。
3	制御点は上下に移動でき、入力値に対し出力値を決めることができます。	
4	制御点をマウスの左ボタンでダブルクリックすると、制御点を削除することができます。制御点がない区間は直線で接続されます。 縦軸とグラフが交差するところを左ボタンでクリックすると制御点が復活します。	
5	グラフをマウスの右ボタンでクリックすると、メニューが表示されます。	
	直線	グラフを 45 度の直線にします。
	ガンマ	グラフをガンマカーブのかかった曲線にします。
	最低値に設定	グラフを 0% の直線にします。

元に戻す	(R)
直線	(I)
ガンマ...	(G)
最低値に設定	(M)
コピー	(C)
貼り付け	(P)

15 章

デバイスプロファイルを コピーする

デバイスプロファイルのコピー

デバイスプロファイルはプリンタモデル、インクセット、メディアに結びづけられています。基本的に新しいデバイスプロファイルを作成する場合はこれらの項目を順に設定していきます。しかし、プリンタでは後継機種のように、印刷仕様やインク仕様が近い製品があります。このような時、デバイスプロファイルを新規に最初から作成するより、近い印刷条件のものを種に使用して、修正をかけたほうが手早くできます。本機能は、デバイスプロファイルから別のデバイスプロファイルを作成するためにコピーを作成します。

コピー元のデバイスプロファイルの指定

コピー元のデバイスプロファイルを指定します。

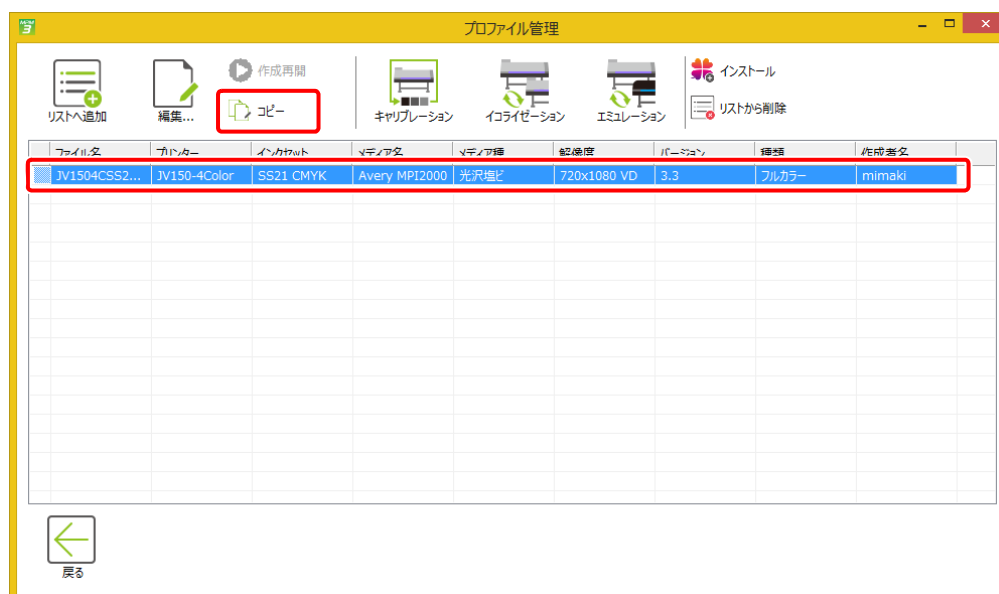
1 【デバイスプロファイルの管理】をクリックする



2 デバイスプロファイルを読み込む

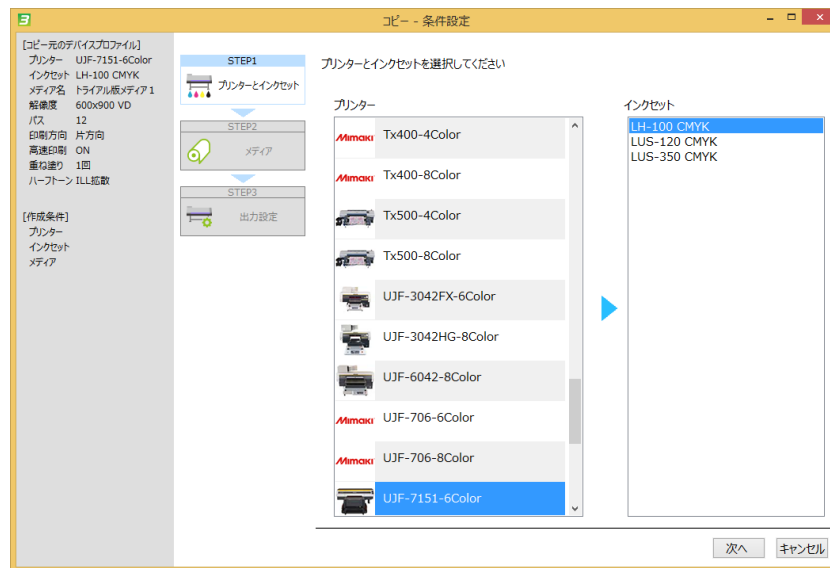
3 コピー元のデバイスプロファイルを選択する

4 【コピー】をクリックする



デバイスプロファイルの編集

デバイスプロファイルの編集ウィザードが開きます。
 プリンタ、インクセット、メディア、印刷条件に付いて編集が可能です。
 詳細は、「2 章 デバイスプロファイルを作成する」の「デバイスプロファイルの目標を設定」(P. 20)を参照してください。



16 章

デバイスプロファイルを インストールする

デバイスプロファイルのインストール

MPM3 はデバイスプロファイルを RasterLink に直接インストールできます。
RasterLink でデバイスプロファイルをインストールする操作は不要です。
RasterLink は同じ PC にインストールされている必要があります。

1 [デバイスプロファイルの管理] をクリックする

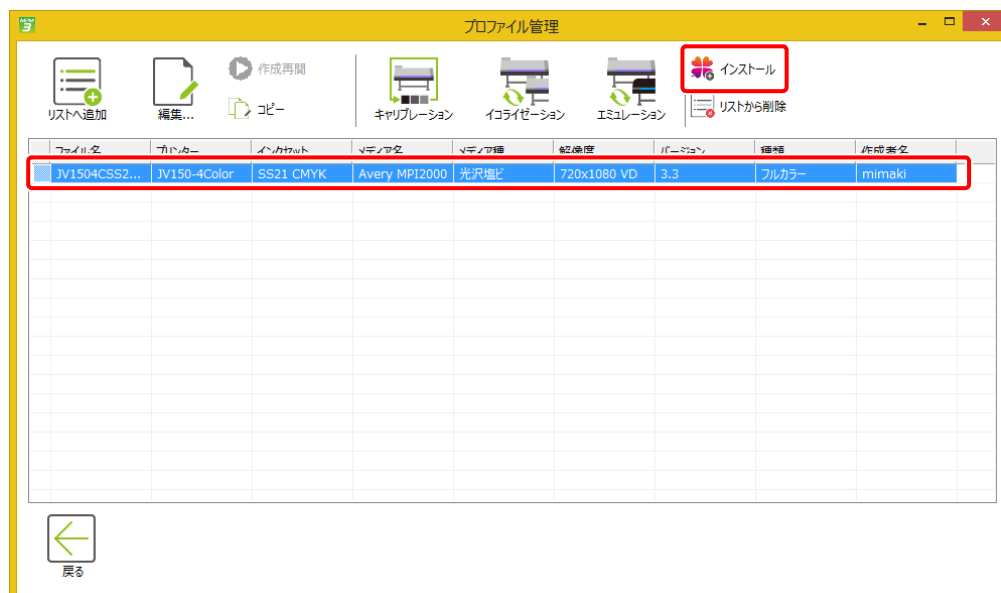


2 デバイスプロファイルを読み込む

3 インストールするデバイスプロファイルを選択する

・複数選択できます。

4 [インストール] をクリックする

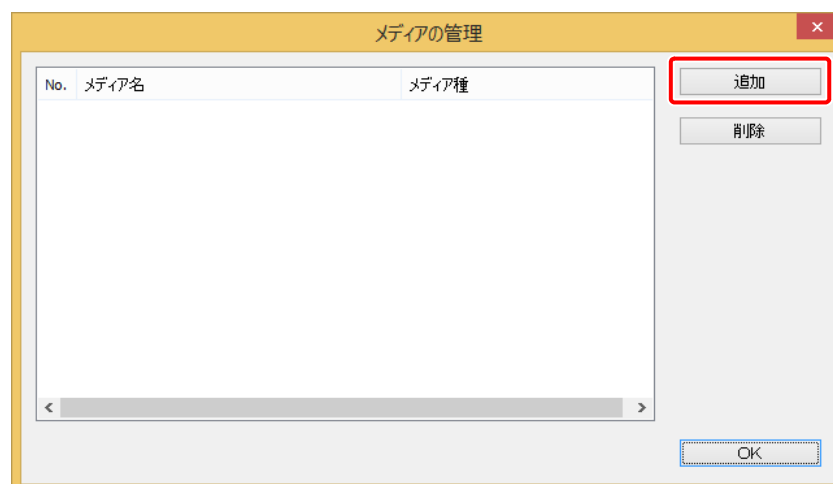


17 章 メディアの管理

メディアの追加

1 [追加]をクリックする

- メディア登録のポップアップが開きます。

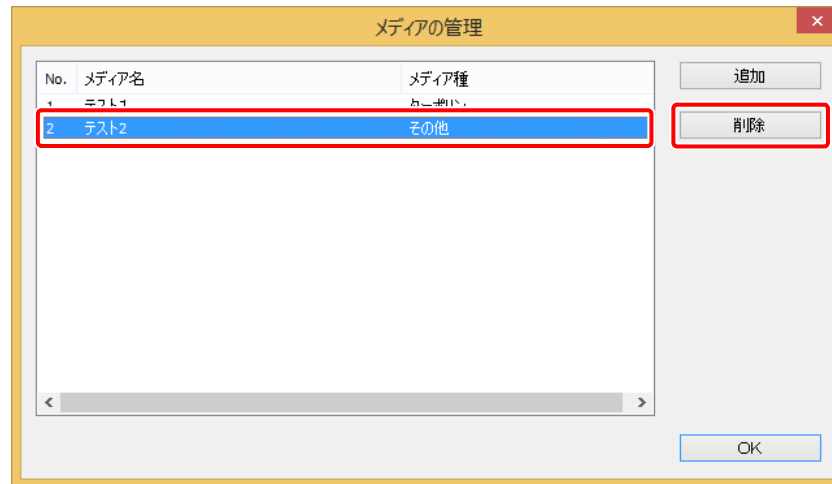


2 メディア名を登録する

3 メディア種をクリックして、表示リストから選択する

メディアの削除

1 削除したいメディアを選択して、【削除】をクリックする



18 章

測色器の設定

測色器の設定

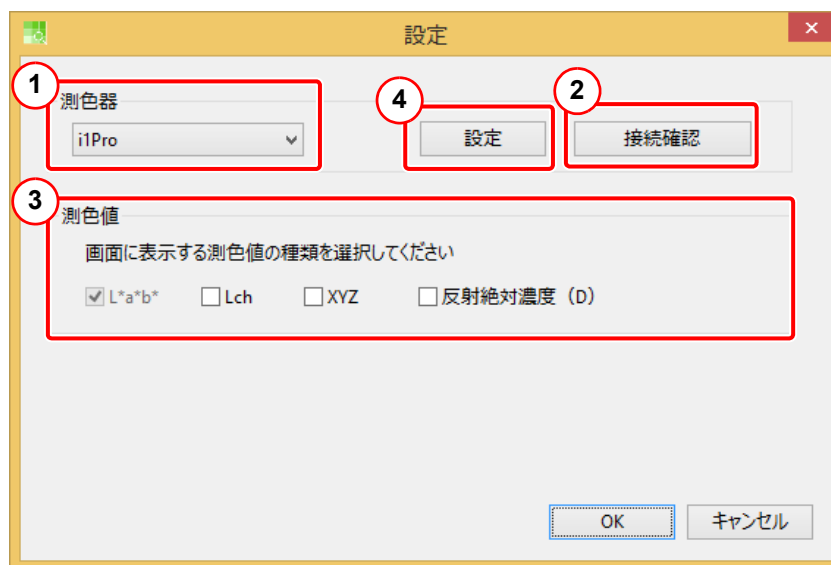
1 測色器を選択する

表示名称	対象製品名	メーカー
i1Pro	i1Pro	X-Rite
	i1Pro2	X-Rite
i1Pro3	i1Pro3	X-Rite
i1Pro3 PLUS	i1Pro3 PLUS	X-Rite
i1iO	i1iO	X-Rite
	i1iO2	X-Rite
i1iO3 with i1Pro3	i1iO3(i1Pro3 装着時)	X-Rite
i1iO3 with i1Pro3 PLUS	i1iO3(i1Pro3 PLUS 装着時)	X-Rite
i1iSis	i1iSis	X-Rite
MYIRO-1	MYIRO-1	KONICA MINOLTA
SpectroLFP	SpectroLFP	Barbieri

2 [接続確認] をクリックする

・接続確認ができます。

3 測色操作で測色値をリスト表示するときの表示単位のデフォルトを設定する



4 測色器 に関係したオプションを設定する。

i1Pro

i1Proの設定

ビープ音

☒ 準備完了 ☒ スキャン成功 ☒ スキャン失敗

OK キャンセル

i1iSis

i1iSisの設定

☒ 常時バーコード付きのチャートを測色する

OK キャンセル

以下の測色器では M ファクターが設定できます。

i1Pro3、i1Pro3 PLUS、i1iO3 with i1Pro3、i1iO3 with i1Pro3 PLUS、MYIRO-1

i1Pro3 PLUSの設定

☒ 高度な設定

Mファクター

☒ M0 ☐ M1 ☐ M2 ☐ M3

OK キャンセル

- ・[高度な設定]にチェックを入れない場合、[Mファクター]は「M0」となります（MYIRO-1を除く）。
- ・[高度な設定]にチェックを入れると、「M0」以外の[Mファクター]を選択できます（MYIRO-1を除く）。
- ・i1Pro3 PLUS および i1iO3 with i1Pro3 PLUS では、「M3」を選択できます。「M3」を選択した場合、測色器付属の偏光フィルターを装着してください。

重要!

■ 以下の場合、[高度な設定]にチェックを入れないでご使用ください。

- ・ i1Pro2 以前を使用されており、問題が発生していない場合
- ・ RasterLink シリーズにてカラーコレクションおよび測色器を用いた色置換を行う場合

■ i1iO3 with i1Pro3 PLUS にて布地を測色する場合、「M3」を選択しないでください。

■ デバイスプロファイル作成および色合わせ実施時中は、Mファクターを変更しないでください。

■ キャリブレーションおよび日々の管理では、基準色測色時の M ファクターを用いてキャリブレーション、再調整を行ってください。



M ファクターとは

- ・ M ファクターとは測色する際の照明の条件です。適切な条件を選択することにより、主にメディアの蛍光増白材の測色結果に対する影響を低減することができます。

19 章

オプション (諸設定)

オプション(諸設定) の設定

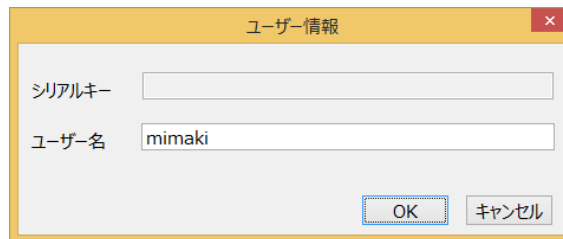
以下の環境パラメータを変更できます。

1	長さの単位	mm/inch 切り換えができます。
2	表示言語	表示言語を変更します。ソフトウェアを再起動してください。
3	色合わせモード	色合わせ方法を変更します。 詳しくは「5 章 色を合わせる」(P. 45) を参照してください。
4	接続確認	プリンタと正常に接続できているか確認できます。
5	USB のパラメータ	通信不具合の対策用です。このままでご使用ください。
6	イーサネットパラメータ	通信不具合の対策用です。このままでご使用ください。

20 章 ユーザー情報

ユーザ情報の設定

ユーザ名を登録します。ユーザ名はプロファイルの作成者名に反映されます。



1	シリアルキー	MPM3 をインストールするときに使うシリアルキーです。
2	ユーザー名	MPM3 のユーザー名を設定します。名前はデバイスプロファイルに埋め込まれ、「作者の名前」として表示されます。

21 章

データのバックアップと リストア

データのバックアップと復元

MPM3 を再インストールする場合、登録したメディア、作業中のファイルなどの情報は消去されます。本機能で登録したメディア等の情報を別の場所へ保存し、MPM3 再インストール後に復元することが可能です。バックアップとリストアは MPM3 のユーティリティアプリケーションで行います。

データのバックアップ

MPM3 をアンインストールする前に実行します。

1 “バックアップと復元”アプリケーションをウィンドウズ上で起動する



2 [バックアップ]をクリックし、指示に従って保存するフォルダパスを指定する



データの復元

MPM3 をインストールした後に実行します。

1 “バックアップと復元”アプリケーションをウィンドウズ上で起動する



2 [復元]をクリックし、指示に従って保存したフォルダパスを指定する



22 章 エラーメッセージ

エラーメッセージ

MPM3 で表示されるエラーメッセージと対処方法を説明します。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
ライセンスの再認証が必要です。	ライセンス認証時	再度、ライセンス認証を実行してください。
ライセンス認証した時と PC の構成が異なります。	ライセンス認証時	以下の手順を実行してください。 (1) 以下の 2 つの機器をライセンス認証時の状態に戻してから起動してください。 ・ネットワークの接続方法（LAN ケーブル接続、無線 LAN 接続） ・マザーボード (2) ライセンス認証解除を実行してください。 (3) (1) の機器を変更し、再度ライセンス認証を行います。 (1) が行えない場合、「MPM パソコン故障時のライセンス認証解除」を行ってください。詳しくはインストールガイドをご覧ください。
認証中にエラーが発生しました。	ライセンス認証時	PPP 接続のネットワークアダプタ、USB 接続のネットワークアダプタを使用している場合、Ethernet アダプタを使用してライセンス認証を実行してください。
入力したシリアルキーは別の PC で使用されています。	ライセンス認証時	ライセンス認証済みの PC で、ライセンス認証解除を行った後、新しい PC のライセンス認証を行ってください。
アプリケーションの初期化に失敗しました。	起動時	MPM3 のシステムファイルが壊れています。MPM3 を再インストールしてください。
MimakiProfileMaster3 のインストールフォルダが存在しない為、処理できません。		
ICC プロファイルを作成もしくはインポートしてください。	デバイスプロファイル作成ウィザード	デバイスプロファイルの作成では、ICC プロファイルを作成、もしくはインポートが必須となります。ICC プロファイルを作成、もしくはインポートしてください。
ICC プロファイルが作成できませんでした。	ICC プロファイル作成時	測色ミスの可能性があります。印刷されたチャートに濃度ムラなどがないか確認し、もう一度測色してください。
イエローの濁り軽減処理に失敗しました。	ICC プロファイル編集時	MPM3 以外の ICC プロファイル作成アプリケーション（MPMII も含む）で作成した ICC プロファイルに対し編集、調整は行えません。
MPM3 で作成された ICC プロファイルではないため、パラメーターの編集ができません。		その ICC プロファイルを作成したアプリケーションで調整してください。

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
読み込んだファイルにインポート可能な特性データが見つかりません。	インポート	• デバイスプロファイル以外のファイルを指定していないか、確認してください。 • 現在編集中的プロファイルのインクセットと、選択したプロファイルのインクセットが同じであるか、確認してください。 • バリアブルの設定のあるプロファイルを作成している場合は、バリアブルのプロファイルを選択してください。
指定されたファイルはプロファイルではありません。	ファイル読み込み	デバイスプロファイル以外のファイルを指定していないか、確認してください。
指定されたファイルは V3 デバイスプロファイルではありません。	ファイル読み込み	V3 デバイスプロファイル以外のファイルを指定していないか、確認してください。
処理が正常に終了しませんでした。	各種操作時	測色ミスの可能性があります。印刷されたチャートに濃度ムラなどがないか確認し、もう一度測色してください。
サポートしていないフォーマットです。	テストプリント	プロファイル作成中は CMYK の TIFF ファイルしか出力できません。CMYK の TIFF ファイルを選択してください。
1Pro (i1IO, i1iSys) と接続できません。	測色	測色器との接続に問題があります。「23 章 測色器を接続する」(P. 211) を参照ください。
測色値ファイルが読み込めませんでした。	測色ファイル読み込み	MPM3 以外のアプリケーションで作成した測色値ファイルは読み込めません。
ファイルのインポートに失敗しました。	エミュレーション	ターゲットプロファイル以外のファイルを指定しています。ターゲットプロファイルを選択してください。
選択されたファイルは、〇〇モード用のターゲットプロファイルではありません。	エミュレーション ターゲットプロファイル インポート	MPM3 で選択中のモード (標準 / 多色 / 高精細モード) と同じモードで作成したターゲットプロファイルを指定してください。
選択されたファイルは、〇〇モード用の測色値ファイルではありません。	エミュレーション 測色ファイル 読み込み	MPM3 で選択中のモード (標準 / 多色 / 高精細モード) と同じモードで作成した測色値ファイルを指定してください。
キャリブレーション用の測色値ファイルではありません。	キャリブレーション 測色ファイル 読み込み	異なる要素の測色値のファイルでないか、確認してください。
プロファイルのインストールに失敗しました。	プロファイル インストール時	インストールしようとしているデバイスプロファイルが、同 PC にインストールされている RasterLink6 に対応していません。RasterLink6 を最新版にバージョンアップしてください。

23 章

測色器を接続する

X-Rite 社の測色器を接続する

測色器を初めて PC に接続するとき、あるいは測色器を取り換えた時など、MPM3 は測色器と接続できません。測色器のデバイスドライバのインストールまたは再インストールが必要になります。

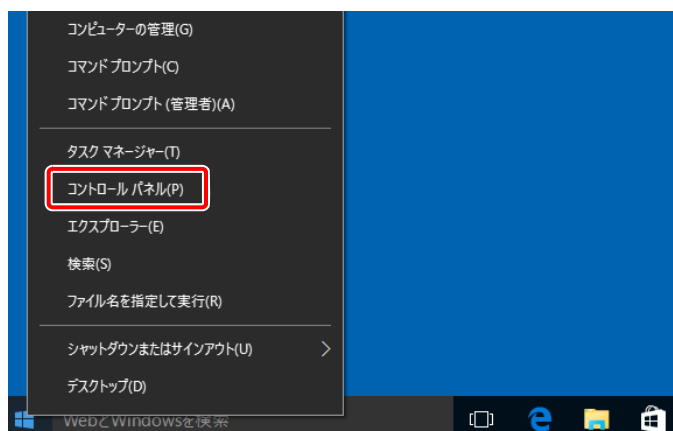
以下に、i1Pro2 デバイスドライバの Windows10 へのインストールを例にとり、測色器のデバイスドライバのインストール手順を説明します。

X-Rite 社の他の測色器は、インストールするドライバー名が異なりますが、手順は同じです。

測色器のドライバを確認する

1 測色器を PC に接続する

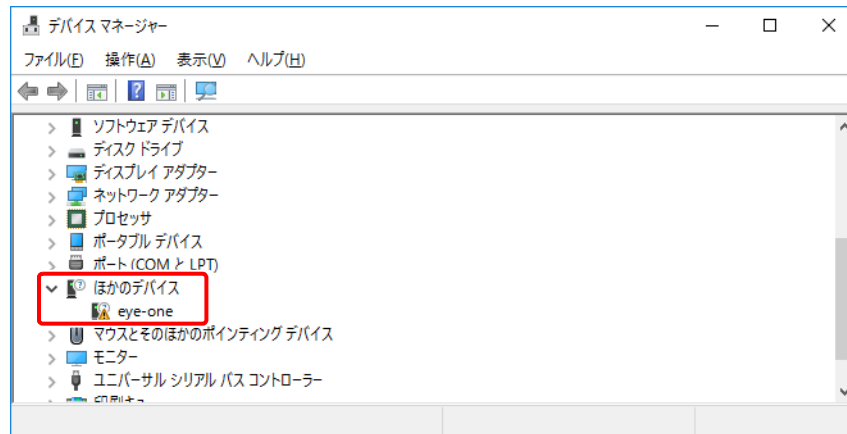
2 Windows のコントロールパネルを開く



3 デバイスマネージャを開く



4 eye-one の状態を確認する



- 下記の注意マークがついている場合は、デバイスドライバーのインストールが必要です。



- 注意マークがないときは、デバイスドライバーのインストールは不要です。
- 測色器が i1iO または i1iSis の時には、「Eye-One iO」、あるいは「Eye-One iSis」が表示されます。
- i1iO では eye-one と i1iO の二つが表示される場合があります。この時にはそれぞれのドライバーのインストールが必要になります。

デバイスドライバーをインストールする

- 1 X-Rite のサイト (<https://www.xrite.com/>) へアクセスする
- 2 サイトの検索機能で **[i1Diagnostics]** を検索する
- 3 検索結果より **[i1Diagnostics]** のページにアクセスする
- 4 **[Overview]** タブの横の **[Training and Support]** タブをクリックする
 - **[Training and Support]** タブが表示されていない場合は、言語選択で **[English]** を選択してください。
X-Rite のホーム画面が表示されたら、手順 2 からやり直してください。
- 5 **[i1Diagnostics]** をクリックする
- 6 サイトの案内に従って **[i1Diagnostics]** をダウンロード、インストールする
- 7 **MPM3** を起動し、接続をチェックする

SpectroLFP を接続する

SpectroLFP を接続する前に、SpectroLFP の USB ドライバーを PC にインストールします。以下に USB ドライバーの Windows10 へのインストールを例にとり、測色器のデバイスドライバーのインストール手順を説明します。

ユーザは PC の管理者である必要があります。

SpectroLFP 付属の USB メモリーを装着する

SpectroLFP は PC に接続しないでください。

SpectroLFP に付属している USB メモリーを PC に装着します。

USB ドライバーをインストールする

1 USB ドライバーインストールを起動する

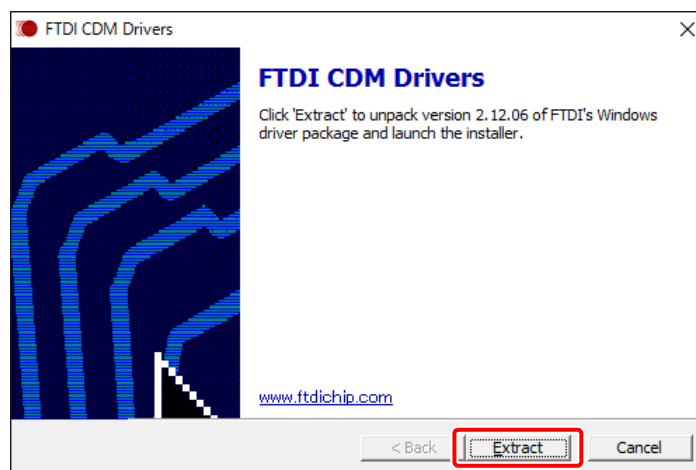
SpectroLFP に付属している USB メモリのフォルダーを次の順で開きます。

WindowsPC > USB DriverPC

CDM v2.12.06 WHQL Certified.exe をダブルクリックします。

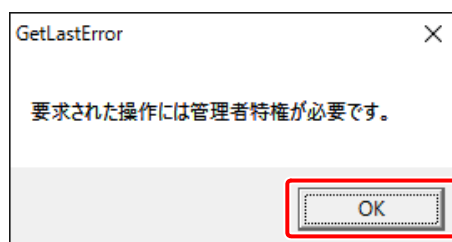
名前	更新日時	種類	サイズ
CDM v2.12.06 WHQL Certified.exe	2015/11/06 17:05	アプリケーション	2,047 KB

2 [Extract] をクリックし、ドライバーソフトウェアを復元する

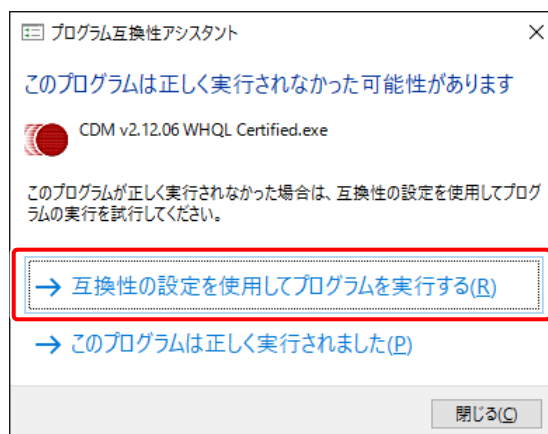


3 ユーザが PC の管理者であることを確認して、OK をクリックする

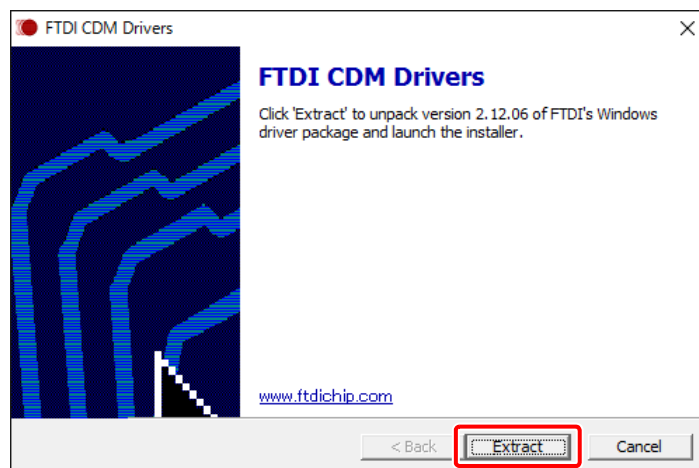
PC の管理者でない場合は、インストールを中止して、管理者権限のユーザでログインしてください。



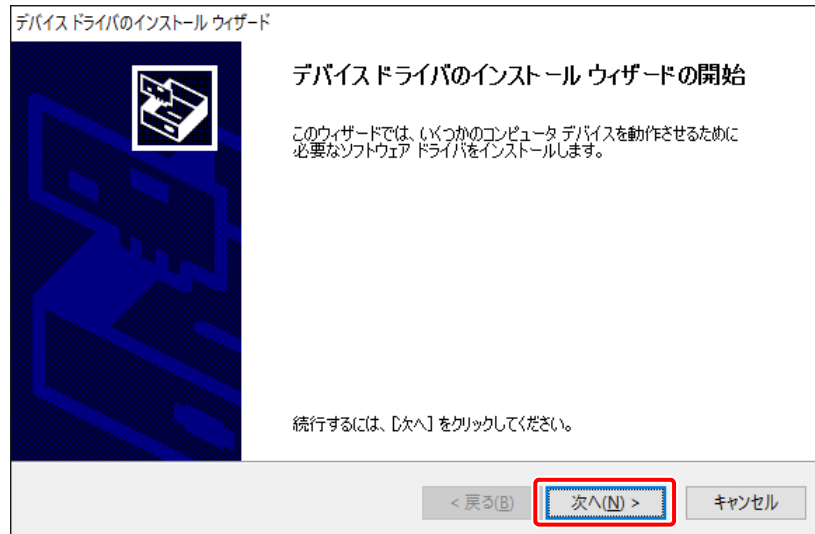
4 “ 互換性の設定を使用してプログラムを実行する ” をクリックする



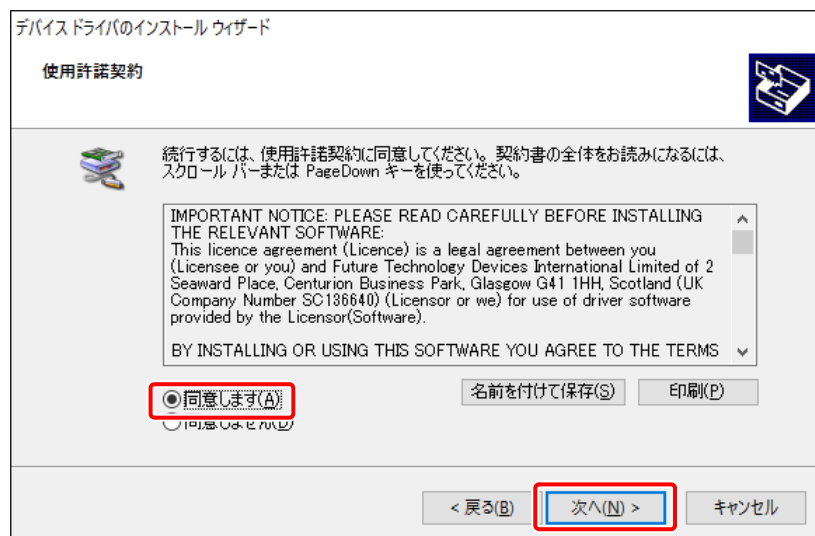
5 [Extract] をクリックし、ドライバソフトウェアを復元する



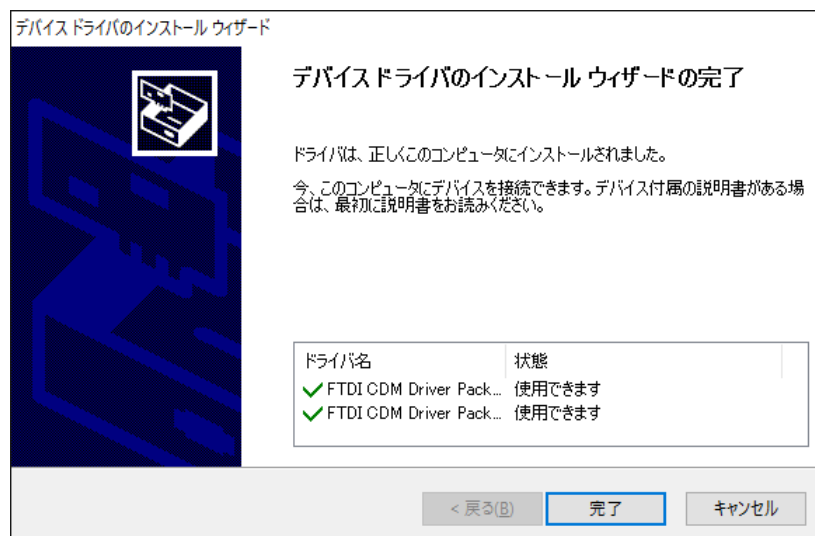
6 【次へ】をクリックして、インストールウィザードを開始する



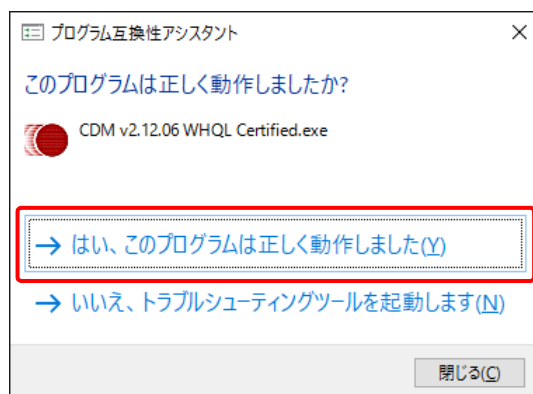
7 【次へ】をクリックして、インストールを許諾する



8 インストールを終了する



9 “プログラムは正しく動作しました” をクリックする



10 測色器を接続して、MPM3 を起動し、接続をチェックする

MYIRO-1 を接続する

詳しくは MYIRO-1 の取扱説明書をご覧ください。

- 1** PC と MYIRO-1 を付属の USB ケーブルで接続する
- 2** 電源ボタンを押す
- 3** 付属の校正キャップを測定アパーチャー部に取り付ける

